

Ractis

取扱書

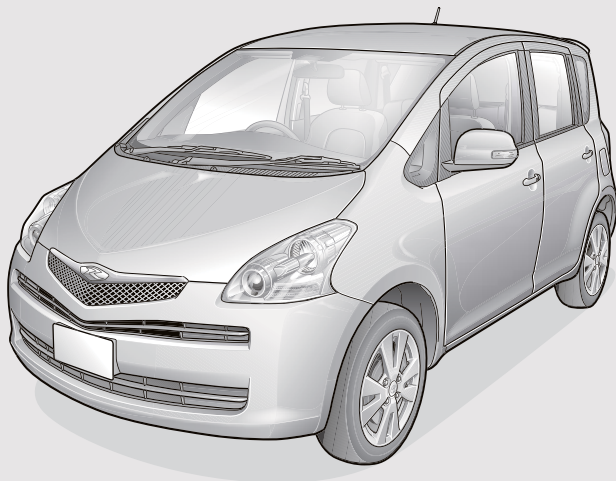
よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。



このたびは *Ractis* をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

本書はラクティスの取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。

安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。



- ・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
- ・トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
- ・装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

- 保証および点検整備については「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
- トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
- 取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートと共に車に大切に保管してください。
- 車をゆずられるときは、次のユーザーのためにこの取扱書およびメンテナンスノートを車に付けておいてください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

スマートエントリー & スタートシステム、ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、ETC、室内装備品（サンバイザー、ルームランプなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

SRSエアバッグ、ABSなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。



記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること



記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

その他の表示

「知っておくと便利なこと」、「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。



知っておくと便利なこと
知っておいていただきたいこと

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには下記のマークが記載されています。



してはならない行為

操作説明(3～8章)の見方

操作説明(3～8章)の基本的な読み方について説明しています。



★
グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。



マーク

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、このマークのある項目については3章「スマートエントリー & スタートシステム」を参照してください。

タイトル

階層により区別してあります。

ヘッダー

ページの内容を案内しています。

ツメタイトル

各章のタイトルを案内しています。

操作要領

操作要領が書かれています。

知識

前ページ参照

注意

前ページ参照

警告

前ページ参照

■本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称S I単位）を基本に記載し、従来単位を { } 内に記載してあります。

検索方法について

本書ではお客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。



タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取り付け位置からさがす

8

- 「イラスト目次」

名称からさがす

434

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす

443

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす

434

- 「五十音さくいん」
(色付き文字の項目)

目次

イラスト目次 8

1

安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと 13

- ・安全・快適ドライブのために 14
- ・安全装備について 32

2

基本操作早わかり

(はじめてこの車にお乗りになる方へ)

69

- ・各部の開閉 70
- ・シートの調整 72
- ・シートベルトの着用 74

3

運転装置の取り扱い

88

- ・スマートエントリー & スタートシステム 90
- ・ドア、ドアガラスなどの開閉 128
- ・シートの調整 152
- ・シートアレンジ 160

4

室内装備の取り扱い

263

- ・エアコンの取り扱い 264
- ・ETCの取り扱い 280

5

安全・快適装備の解説と注意 317

- ・SRSエアバッグ 318
- ・シートベルト関係 327
- ・ABS、ブレーキアシスト 329
- ・VSC & TRC 332

6

車との上手な付き合い方 341

- ・雨の日の運転について 342
- ・寒冷時の取り扱い 343

7

メンテナンス 353

- ・車の手入れ 354
- ・日常点検 380
- ・メンテナンスデータ 394

8

万一のとき 403

- ・工具、スペアタイヤ、発炎筒 404
- ・故障したときは 411
- ・パンクしたときは 412

さくいん 433

- ・五十音さくいん 434

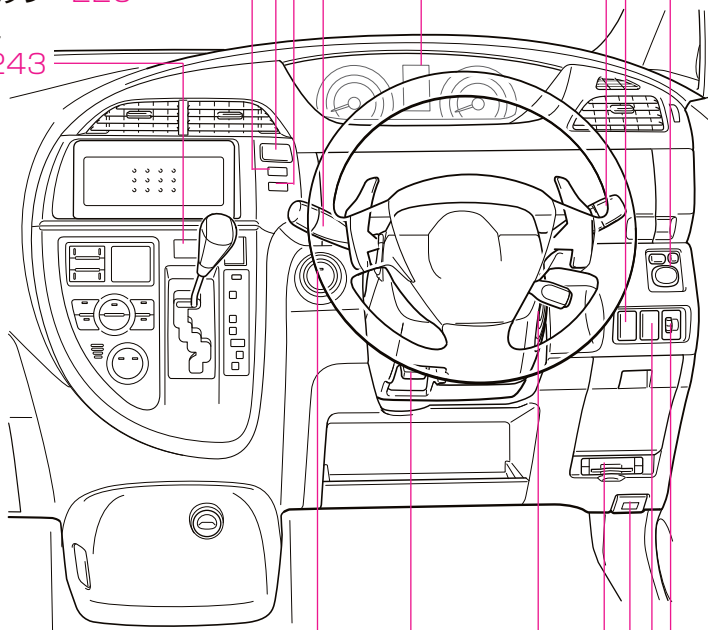


・ 運転装置について	49	・ オーバーヒート・ 万一の事故	64
・ メンテナンスについて	54	・ その他の注意	66
・ 運転するときは	76	・ スイッチ類の取り扱い	84
・ 警告灯	82	・ エアコン	86
・ シートベルトの着用	176	・ オートマチック車の運転のしかた	215
・ チャイルドシートの固定	183	・ パーキングブレーキペダルの使い方	221
・ ハンドル、ミラーの調整	192	・ メーター、表示灯、警告灯の見方	222
・ エンジンのかけ方	198	・ スイッチの使い方 (ランプ、ワイパーなど)	244
・ シフトレバーの使い方	202	・ クルーズコントロールの使い方	258
・ 室内装備品の使い方 (ルームランプなど)	298		
・ Super CVT-i	334	・ Vフレックスフルタイム4WD	337
・ Super ECT	335	・ ディスチャージヘッドランプ	339
・ 電子制御スロットル (ETCS-i)	336		
・ 経済的な運転	349		
・ 環境保護のために	351		
・ ユーザーカスタマイズ機能	400		
・ 初期設定項目	402		
・ バッテリーがあがったときは	420	・ けん引について	426
・ オーバーヒートしたときは	424	・ 事故が起きたときは	430
		・ 車両を緊急停止するには	431
・ 警告灯さくいん	443		

イラスト目次

インストルメントパネル

ドアミラー調整／格納スイッチ	194
セキュリティ表示灯	113
ライトスイッチ	244
方向指示レバー	249
フロントフォグランプスイッチ	248
メーター、表示灯、警告灯	222、228
ワイパー＆ウォッシャースイッチ	250
CLOCKボタン	303
非常点滅灯スイッチ	256
オドメーター／トリップメーター 切り替えボタン	226
メーター照度調整ボタン	226
助手席シートベルト 非着用警告灯	243
“エンジン スタートストップ” スイッチ (スマートエントリー & スタートシステム装着車)	105
チルトステアリングレバー	192
エンジン スイッチ (スマートエントリー & スタートシステム非装着車)	198
ETC	280
ボンネットオープナー	150
フロントワイパーデアイサー	254
光軸上下調整ダイヤル	247



※装備のちがいが、注文装備も含んでいます。

基本操作
早わかり運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

	発炎筒	410
	助手席アッパーボックス	308
	助手席SRSエアバッグ	318
	助手席グローブボックス	308
	パドルシフトスイッチ(－側)	205
	運転席アッパーボックス	308
コンビニフック	302	
オートエアコン	264	
マニュアルエアコン	272	
アクセサリソケット	313	
シフトレバー	202	
CVT SPORT スイッチ	207	
ホーン	257	
運転席SRSエアバッグ	318	
クルーズコントロールスイッチ	258	
パドルシフトスイッチ (+側)	205	
運転席ロアボックス	308	

※装備のちがいが、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

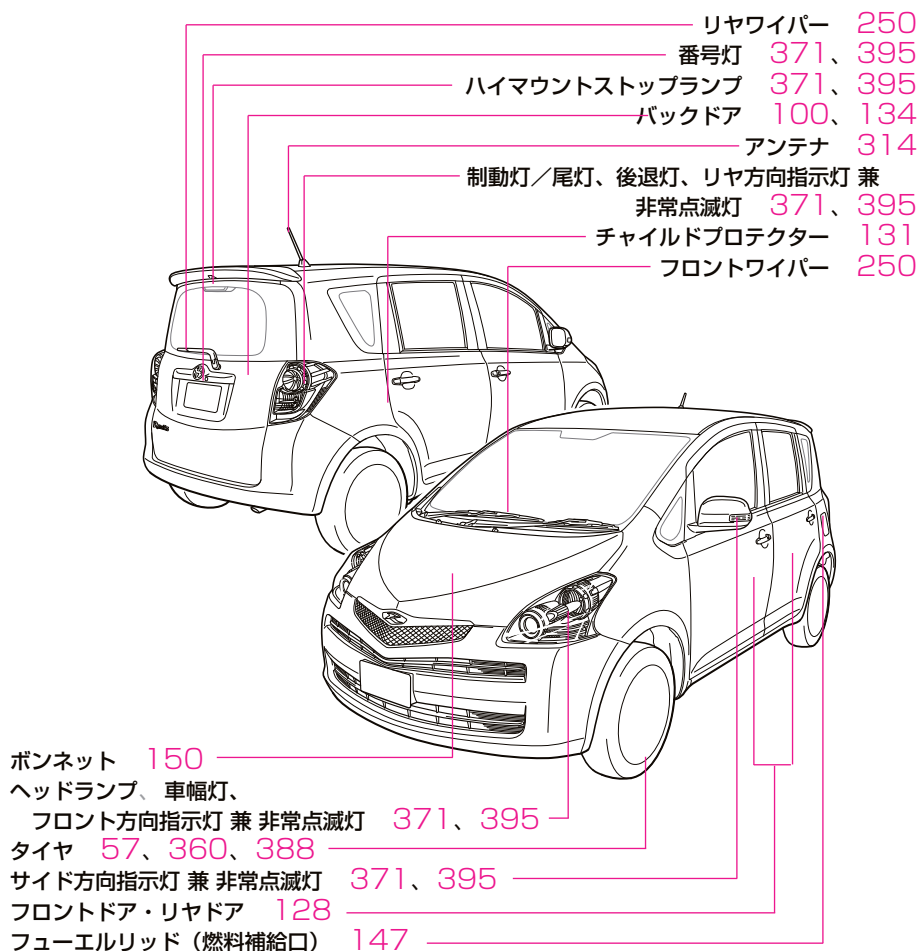
室 内

	インナーミラー	193
	パノラマシェードスイッチ	145
	フロントパーソナルランプ	299
	サンバイザー／バニティミラー	298
	パワーウィンドウスイッチ（運転席）	141
	電気式ドアロックスイッチ	129
	フロントアームレスト	155
	SRSカーテンシールドエアバッグ	318
	フロントシートベルト	179
	コートフック	307
	リヤシートベルト	179
	ルームランプ	300
フューエルリッド オープナー	147	
フロントシート	154	
SRSサイドエアバッグ	318	
リヤシート	156	
2点式シートベルト	181	
リヤアームレスト	158	

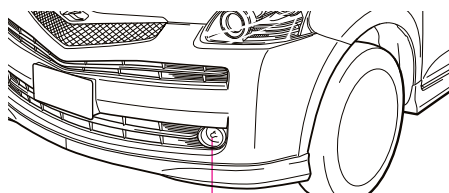
※装備のちがいが、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

車 両 外 観



フロントフォグランプ装着車



フロントフォグランプ 371、395

※装備のちがい、注文装備も含んでいます。

目次



基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

MEMO

安全ドライブのために 必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

安全・快適ドライブのために 14

1. 点検整備実施のお願い 14
2. お出かけ前の注意 14
3. 燃料補給時の注意 18
4. 走行するときの注意 19
5. 走行中、異常に気付いたら 24
6. 駐停車するときの注意 26
7. 排気ガスに対する注意 28
8. お子さまを乗せるときの注意 30

安全装備について 32

1. シートについての注意 32
2. チャイルドシートについての注意 36
3. シートベルトについての注意 39
4. SRSエアバッグについての注意 43
5. ABS、ブレーキアシストについての注意 48
6. VSC & TRCについての注意 48

運転装置について 49

1. オートマチック車についての注意 49
2. Vフレックスフルタイム4WD車についての注意 51
3. スマートエントリー & スタートシステムについての注意 52
4. クルーズコントロールについての注意 53

メンテナンスについて 54

1. 点検・手入れ時の注意 54
2. タイヤについての注意 57
3. バッテリーについての注意 61
4. ジャッキアップについての注意 62

オーバーヒート・万一の事故 64

1. オーバーヒートについての注意 64
2. 万一の事故のときの注意 65

! その他の注意 66



安全・快適ドライブのために

1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。

実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

① 点検整備を必ず実施してください。

- 日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。日常点検（P.380参照）や定期点検など、点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。
 - ・ 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。
 - 定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備は自動車の健康診断です。定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが未永く車と付き合いしていくうえで最も大切なことです。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を超えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。
- 日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。



2. お出かけ前の注意

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 窓越しなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- 思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

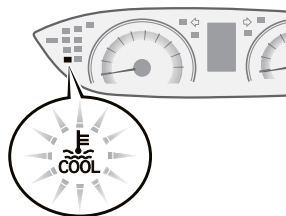
② エンジンの始動操作をしたときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。

（スマートエントリー & スタートシステム装着車）

- ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ 低水温表示灯が点灯している間は、極端にアクセルペダルをおおらないでください。

- 暖機不足の状態では、触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
- 暖機は低水温表示灯が消灯すれば十分です。



④ 走行前にすべてのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていることを確認してください。

- ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは半ドア警告灯が点灯します。

⑤ フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついていいるときは取り除いてください。

- 外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がリ、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。



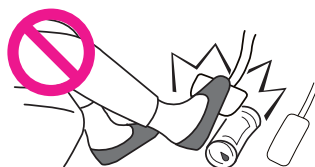
⑥ 停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。

- ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑦ 運転席足元、運転席下にもものを置かないでください。

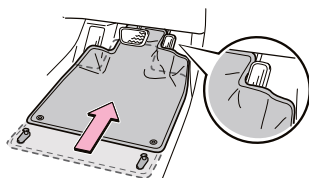
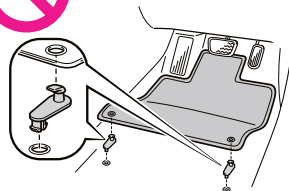
- 空缶などがあるとブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



2 お出かけ前の注意

**⑧フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にし
っかりと固定して使用してください。**

- 運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - ・運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - ・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。
 - ・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
 - ・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- 運転する前に、以下のことを確認してください。
 - ・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
 - ・エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み。フロアマットと干渉しないことを確認してください。



**⑨助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないで
ください。**

- 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。



**⑩燃料が入った容器やスプレー缶などは積ま
ないでください。**

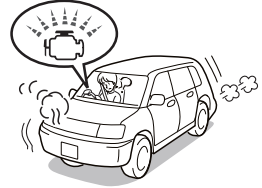
- 万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあります。



- ⑪ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行するとボンネットが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑫次の場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油のもれたあとが残っているとき
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき

- ⑬お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



- ⑭エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

- エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

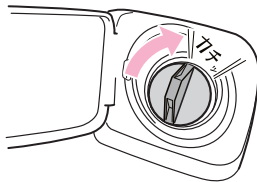
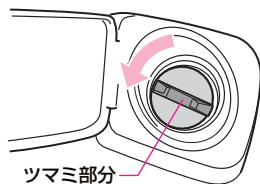
① 指定以外の燃料を使用しないでください。

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。



② 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、やけどをするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。（再帯電することがあります。）
- 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。



③ 給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

- 燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

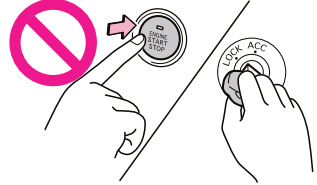
4. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

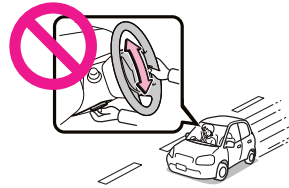
① 走行中はエンジンを停止しないでください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、誤って“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（スマートエントリー & スタートシステム装着車）



② 走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。

- 調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



③ ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

- ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

- ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑤ 下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

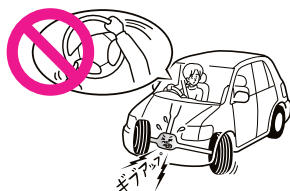


⑥車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効が悪くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

- パワーステアリングモーターが、過熱により損傷するおそれがあります。
- 停車中や微低速走行中にハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけたまま保持すると、モーターやコンピューターの過熱を防ぐため、パワーステアリング制御が制限されハンドル操作が重くなります。この場合は、しばらくハンドル操作を控えてください。ハンドル操作をしないまま約10分が経過すると、通常の重さにもどります。



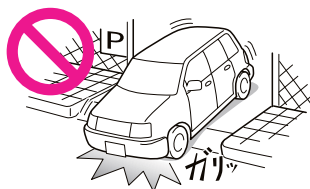
⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは法律で禁止されています。
 - 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するとき、安全な場所に停車してから使用してください。



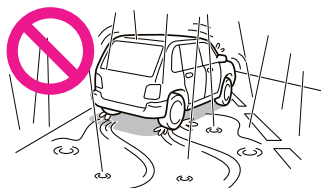
⑨大きな段差がある場所では慎重に走行してください。

- 次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードを落として慎重に走行してください。
 - ・駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき
 - ・輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき
 - ・立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき
 - ・凹凸やわだちのある道を走行するとき
 - ・くぼみ（穴）などを通過するとき
 - ・平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき



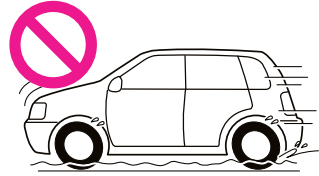
⑩ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

- すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため慎重に走行してください。



⑪冠水した道路は走行しないでください。

- 冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。



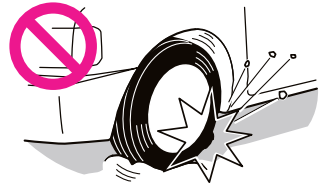
- ・ブレーキの効き具合
- ・エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です。）
- ・プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

⑫湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、オートエアコン装着車は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。マニュアルエアコン装着車は、吹き出し口切り替えダイヤルを にしないでください。

- 外気とウインドウの温度差でウインドウ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑬スタック※したときは

- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤ等）が異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - ・シフトレバーを  または  に確実にに入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
 - ・過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
 - ・過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってから徐々にブレーキ操作をしてください。
 - ・数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
- スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - ・タイヤ前後の土や雪を取り除く。
 - ・タイヤの下に木や石などを当てがう。
- けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJAFなどに依頼してください。



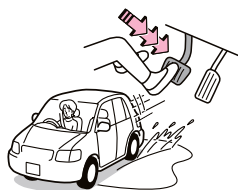
※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

⑭半ドア警告灯が点灯したまま走行しないでください。

- ドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑮洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

- ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。



⑯走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑰ドアガラスから手や顔を出さないでください。

- 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑱ドアガラスやパノラマルーフのシェードを開けるときの閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこまないように注意してください。

- ドアガラスやパノラマルーフのシェードに挟まれたり巻きこまれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑲収納ボックス（P.308参照）のフタを開けたまま走行しないでください。

- 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳運転席アップーボックス（P.308参照）は、走行中にフタの開閉をしないでください。

- 特にハンドルの中に手を入れてフタを開けるようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②① 収納トレイ／ポケット（P.309参照）に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを収納しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②② ウインドウガラスにアクセサリを取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。



●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②③ 走行中はリヤセンターマルチトレイ（P.158参照）を使用しないでください。

●走行中はリヤセンターマルチトレイを使用しないでください。トレイの上に物を置いたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどに物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トレイを引き上げるとき、およびもとにもどすときは指などを挟まないように注意してください。

②④ 走行中はドアレバーを引かないでください。

●走行中はドアレバーを引かないでください。

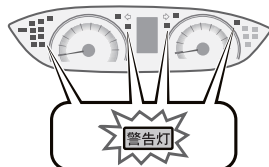
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

5. 走行中、異常に気付いたら

走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

① 警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。



- 点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し適切な処置をしてください。
(P.226参照)

② ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けしないでください。



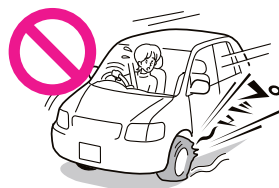
ブレーキ警告灯

- 警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
 - ・ エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
 この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効が悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

③ エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

- エンストしたときは、ブレーキ倍力装置の油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効が悪くなったりします。
この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

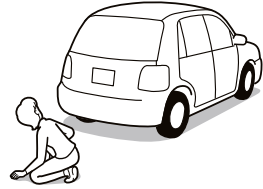
④ 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。



- ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 次のようなときは、パンクやバーストが考えられます。
 - ・ ハンドルがとられるとき
 - ・ 異常な振動があるとき
 - ・ 車両が異常に傾いたとき
- パンクしたまま走行しないでください。
パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤ 車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

- ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるので、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。



⑥ 走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
- 警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効が悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑦ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、以下のことをお守りください。

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効が悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

6. 駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。

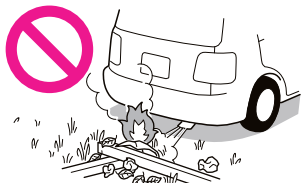
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

- 車から離れるときは、必ずエンジンを停止し、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 車から離れるときは、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ シフトレバーをPにする
 - ・ パーキングブレーキをかける
 - ・ エンジンを停止する
 - ・ ドアを施錠する

② 可燃物付近に車を止めないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くすなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。



③ 寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.348参照)

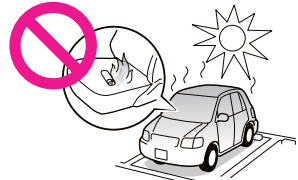
- 輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ 停車中に空ぶかしをしないでください。

- 排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。



⑤ 炎天下で駐車するときは、メガネやライター、スプレー缶、炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。



- 車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 炭酸飲料の缶が破裂したりして室内をよごしたり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
- 車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすことがあります。

⑥ 仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。



- エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。

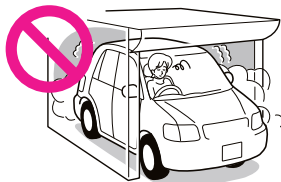
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

7. 排気ガスに対する注意

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。

- 車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



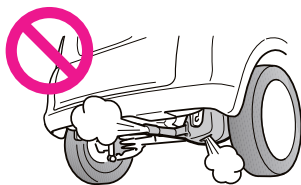
② 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

- エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。



③ 排気管はときどき点検してください。

- 排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください



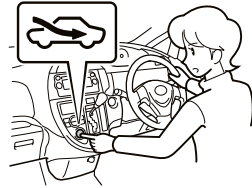
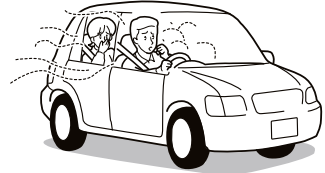
④ バックドアを開けたまま走行しないでください。

- 開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。



⑤ 車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

- すべての窓を全開にしてください。
- 空調の内外気切り替えを外気導入にして風量を最大にし、新鮮な外気を車内に入れてください。
- すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

7 排気ガスに対する注意

8. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

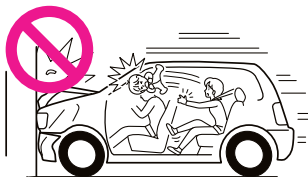
① お子さまはリヤシートに座らせてください。

- 助手席ではお子さまの動作が気になり運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターをご使用ください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用法はP.131を参照してください。



② お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

- ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(P.179参照)
- シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートをご使用ください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。



③ お子さまをチャイルドシート固定機構付シートベルトで絶対に遊ばせないでください。

- チャイルドシート固定機構付シートベルトは、チャイルドシートを固定するときに使用する機構で、ベルトを最後までいっばいに引き出すと、巻き取る方向のみ作動(ロックモード)します。(P.183参照)
- お子さまがシートベルトで遊んで誤って作動させ、万一ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

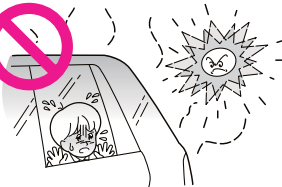


④ ドア、ドアガラス、パノラマルーフのシェードなどは、お子さまに操作させないでください。



- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドプロテクター (P.131 参照) やウインドウロックスイッチ (P.141 参照) を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときの閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこまないように注意して操作してください。

⑤ 車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。



- 炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 電子キーを車内に置いたまま、お子さまを残しておくと、パワーウィンドウやパノラマルーフのシェードのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に電子キーを車内に置いたまま、お子さまを車内に残さないでください。(スマートエントリー & スタートシステム装着車)
- エンジン スイッチにキーをつけたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウィンドウやパノラマルーフのシェードのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーをつけたままお子さまを車内に残さないでください。(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)



8 お子さまを乗せるときの注意



安全装備について

1. シートについての注意

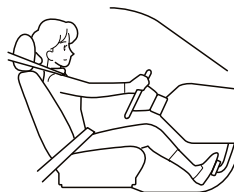
シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① **シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。**

- 正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト、SRSエアバッグ、ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

正しい運転姿勢についてはP.152をお読みください。



② **シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。**

- 固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



③ **走行中はシートの操作をしないでください。**

- ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④ **フロントシートの下にものを置かないでください。**

- ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。



警告

1 シートについての注意



⑤ 背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

- 必要以上にシートを倒していると、衝突または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑥ 背もたれと背中の中にクッション（座布団）などを入れないでください。

- 正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑦ ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

- 衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。



⑧ ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

- ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告

1 シートについての注意



⑨シートアレンジをするときは、次のことをお守りください。

- シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを⑨に入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシートを操作しないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にリヤシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートを格納するときは、次のことをお守りください。

- シートを取り付けたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
- 運転席側リヤシートを格納したときのリヤシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを格納するときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあり危険です。
- F F車では、シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■F F車で背もたれを前倒しするときは、次のことをお守りください。

- シートを前倒ししたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部のロックが解除されていないことを確認してください。ロックが解除されていると、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■フラットシートにするときは、次のことをお守りください。**

- フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラットにしたときまたはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されたことを確認してください。固定されていないと、シートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はフラット操作をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあり危険です。
- シートに人が乗っている状態ではフラット操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあり危険です。

⑩フロントシートにはS R Sエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。

- 不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

1 シートについての注意



2.チャイルドシートについての注意

チャイルドシートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、体に合った子供専用シートに座らせてください。

- 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べてきわめて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
- 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

- 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

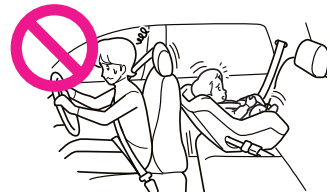


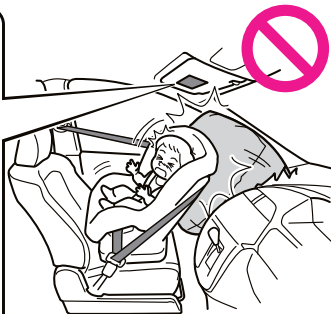
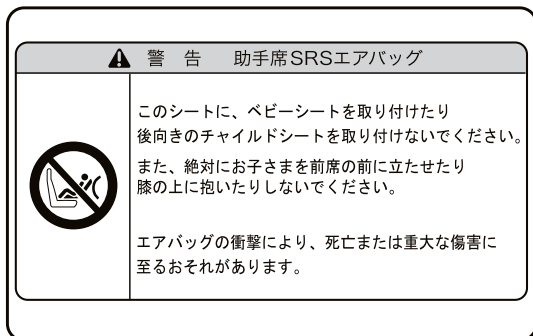
③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

- リヤシートには子供専用シートの取り付け装置が装備されています。（P.183参照）
- 運転席側リヤシートで、運転席の位置により安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側リヤシートに取り付けてください。



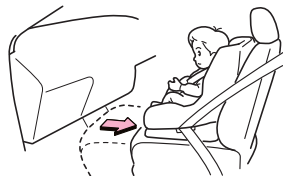


2 チャイルドシートについての注意

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けしないでください。

- うしろ向きに取り付けた場合、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

- やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取り付けてください。お守りいただかないと、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

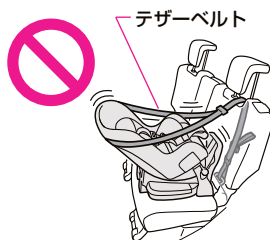


■ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーで固定するチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、固定専用バーおよびアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

- 異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシート・ベビーシートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。

- テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。





安全装備について

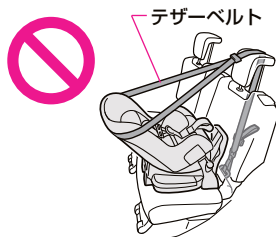


警告

2 チャイルドシートについての注意

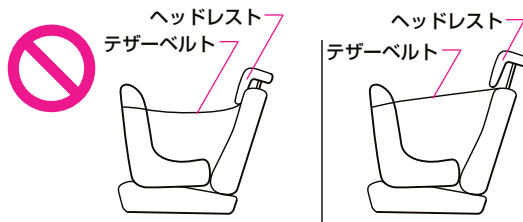
■ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

●ヘッドレストの上かけると、チャイルドシート・ベビーシートがしっかりと固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

●ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシート・ベビーシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



④チャイルドシート・ベビーシートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両にチャイルドシート・ベビーシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。チャイルドシート・ベビーシートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシート・ベビーシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



3. シートベルトについての注意

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

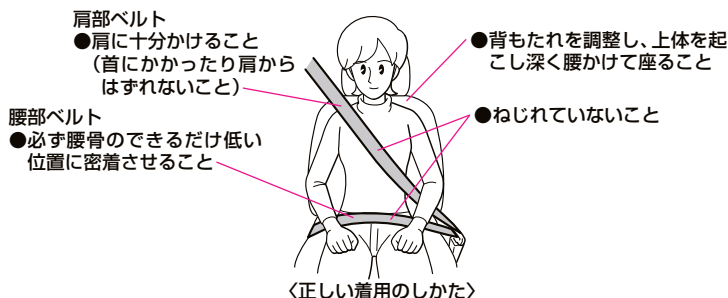
シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体がシートに保持されず、体をぶついたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●シートベルトの着用は法律で義務付けられています。運転者は乗員全員が次の使用方法にしたがって、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

正しい姿勢についてはP.152を参照してください。



■肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

- シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
- ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に腹部などに強い圧迫を受け危険です。



■アジャスタブルショルダーベルトアンカーを確実に調整してください。(P.180参照)

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。





安全装備について

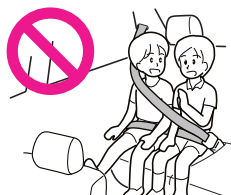
■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

- シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

- 2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。



②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。

また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。



④ シートベルトはねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

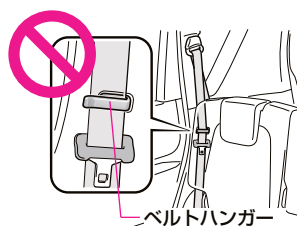
正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。
- ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。
ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



■ リヤシート左右席の3点式シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていることを確認してください。

- ベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



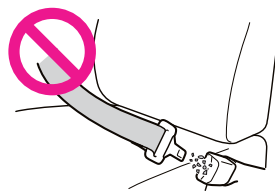
■ 洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。

- 肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、ベルトが胸部などを圧迫して危険です。また、頭をハンドルにぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。



■ プレートがバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

- 異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。



警告

3 シートベルトについての注意



⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトやプレートを、シートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがありそのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

- そのまま使用すると、衝突のときなどに衝撃によりベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。



■シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。

- 衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取り付け、取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。

- プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

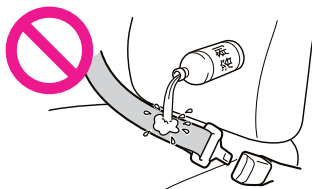


■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

- 作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

- シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
- 清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。





4. SRSエアバッグについての注意

SRSエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの正しい着用についてはP.176をお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。

●SRSエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

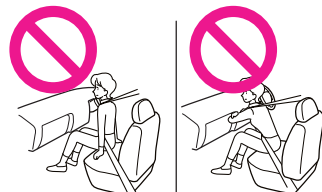
《運転者の方は》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。



《助手席乗員の方は》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい姿勢についてはP.152をお読みください。



■ひざの上にものをかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●SRSエアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔にあたったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。



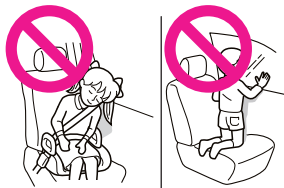
警告

4 SRSエアバッグについての注意



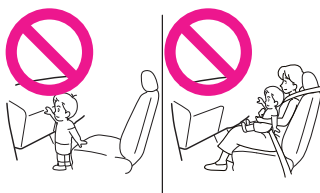
■ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。



■お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。



②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

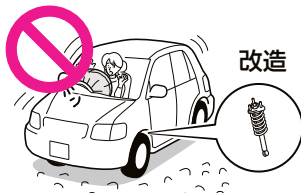
不適切な作業を行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

- フロント・リヤピラーやルーフサイド部の取りはずし、取り付けなどSRSカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

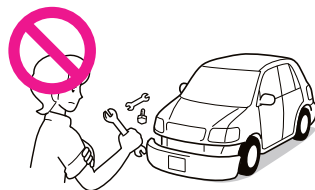


- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さがかわるとSRSエアバッグが誤作動し危険です。





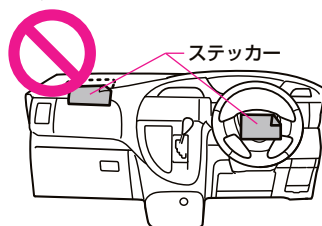
- 車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなり危険です。



③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。
SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。



- インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。



- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けしないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部を覆うと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。



警告

4 SRSエアバッグについての注意

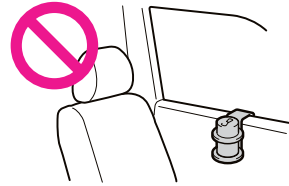


安全装備について

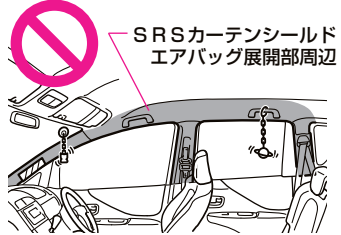


4 SRSエアバッグについての注意

- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けしないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



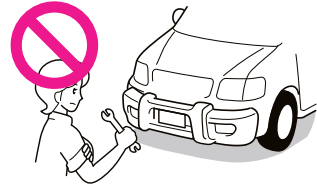
- フロントウインドウガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリ、ハンズフリーマイクなどを取り付けしないでください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。



- リヤ席のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



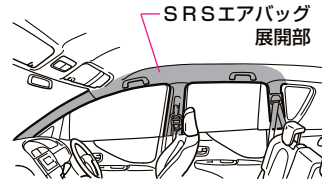
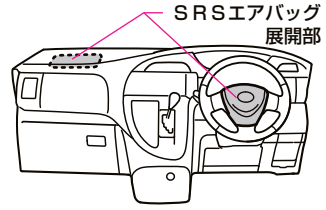
- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。





④ SRSエアバッグ展開部を、強くたたかないでください。

- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部、フロント・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたかないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑤ SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品にふれないでください。

- 構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



4 SRSエアバッグについての注意



5. ABS、ブレーキアシストについての注意

ABS、ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

① ABSやブレーキアシストを過信しないでください。

●ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ABSやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

・ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象*が起こった場合は効果を発揮できません。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合などは、ABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- ・砂利道、新雪路を走行しているとき
- ・タイヤチェーンを装着しているとき
- ・道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき
- ・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●ブレーキアシストはブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

6. VSC & TRCについての注意

VSC & TRCについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

① VSCを過信しないでください。

●VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.230参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

② TRCを過信しないでください。

●TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（P.232参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。



運転装置について

1. オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① オートマチック車の特性

■ クリープ現象

エンジンがかかっているとき、シフトレバーがP、N以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といえます。

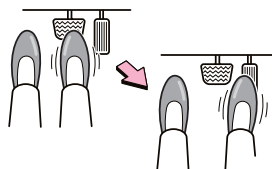


■ キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。(4WD車)

② 運転するときはブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

● アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



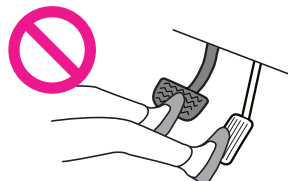
● 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

● 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。



③ ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

● 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



④ エンジンかけるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、エンジンをかけてください。

● 安全のためシフトレバーは車輪が固定されるPに入れ、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンをかけてください。



1 オートマチック車についての注意



警告

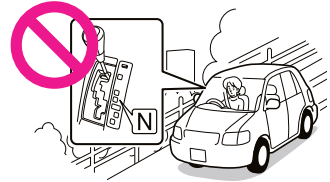
1 オートマチック車についての注意

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。

- とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などはクリーブ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをNに入れないでください。

- Nに入れると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Nに入れたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。



⑦走行中はシフトレバーをPに入れないでください。

- オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中はシフトレバーをRに入れないでください。

- 車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力がかかり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は空ぶかしをしないでください。

- シフトレバーがP、N以外にあると車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑩駐車するときはシフトレバーをPに入れてください。

- P以外にある場合、クリーブ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーを1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く車両と1.3L車はD、S、B、1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車ではD、M、4WD車はD、3、2、またはLに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

- 同様にシフトレバーをBに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも、以下の点に注意してください。

- 少し後退したあとなどは、シフトレバーがRにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあととはすぐNにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでシフトレバーをDからB、BからDと何度もレバー操作をするときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。



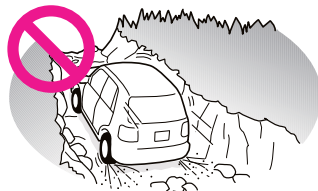
2.Vフレックスフルタイム4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①無理な運転は禁物です。

- この車の4WD（Vフレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。



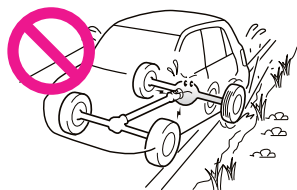
②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

- 4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。



③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

- 前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部に無理な力がかかり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。



④渡河などの水中走行はしないでください。

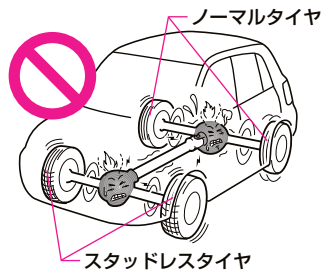
- 渡河などの水中走行をするとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- 万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
 - ・ブレーキの効き具合
 - ・エンジン、トランスミッション、トランスファー、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です。）
 - ・プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良





⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあります。



〈混在使用の例〉

- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ・4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ・空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.360参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.399参照）

3.スマートエントリー & スタートシステムについての注意

スマートエントリー & スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

- ① **植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信器・車室外発信器から約22cm以内に植え込み型ペースメーカーが近づかないようにしてください。**
 - 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
 - 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
 - スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



警告

4 クルーズコントロールについての注意

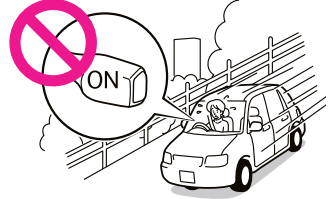
4. クルーズコントロールについての注意

クルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ① クルーズコントロールを使用しないときは、**メインスイッチをOFFにしてください。**

- 誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ② 次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、**思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。**

- 交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



メンテナンスについて

1.点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり近付いたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②エンジン停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部にはふれないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっているときがありますのでご注意ください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

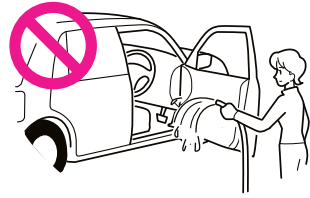


警告

1 点検・手入れ時の注意

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

- 前席フロアにSRSサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。



⑤寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

- ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあります。

⑥キーの電池交換時に、電池や部品をとくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

- 飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあります。

⑦ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

- 配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあります。

⑧ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- 電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。

⑨電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。



警告

1 点検・手入れ時の注意

⑩ エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑪ ブレーキフルードの量を点検してください。

●ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑫ エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。守らないと重大な障害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。

エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。

●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

⑬ エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかるとう火するおそれがあり危険です。

2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。

- タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
 - タイヤは以下の点について点検してください。
 - ・ タイヤの空気圧
 - ・ タイヤのき裂・損傷の有無
 - ・ タイヤの溝の深さ
 - ・ タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）
- タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

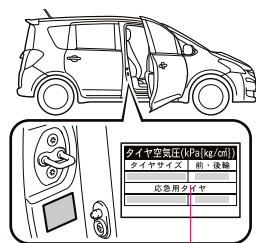
② タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

- 指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.399で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
- 指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※ 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

- タイヤローテーションを行った後は、指定空気圧に調整してください。



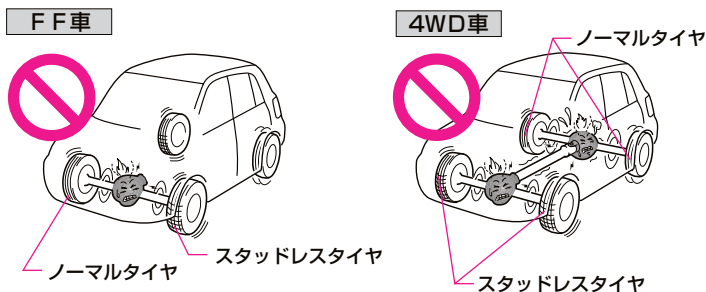
「タイヤ空気圧」の表





③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあります。



〈混在使用の例〉

- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ・4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ・空気圧が指定値からはずれているとき
 - タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.360参照）
 - ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.399参照）
 - 指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があります。下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - ・ABS
 - ・ブレーキアシスト（VSC & TRC装着車）
 - ・VSC & TRC（VSC & TRC装着車）
 - ・クルーズコントロール（クルーズコントロール装着車）
- また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ・Vフレックスフルタイム4WD

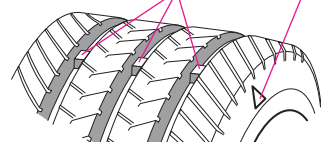
④ 摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

- タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象^{*1}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

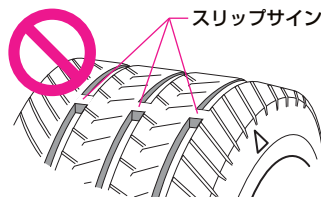
※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。

スリップサインの位置を示すマーク
スリップサイン



〈例：スリップサインが出ていない状態〉^{*2}



〈例：スリップサインが出ている状態〉^{*2}

⑤ タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じる場合があります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥ 冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦ タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。



⑧ タイヤを交換したときは、ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。



- 確実に締まっていないとディスクホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。

締め付けトルク：約103N・m {1050kgf・cm}

- ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑨ ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

- つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩ 段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

- 段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑪ 歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。

- タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫ 応急用タイヤについては、以下の点に注意してください。

- 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm²}
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

- 走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

① 日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

● バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少なくなときは補給してください。

② バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.420参照）

● バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③ エンジンがかかっているときや充電中はバッテリーに近付かないでください。

● 充電中はバッテリーから有毒で、腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があります、目や皮膚に付くと、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。



④ 火気をバッテリーに近付けないでください。

● バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤ バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締めつけてください。

● 確実に取り付けたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。



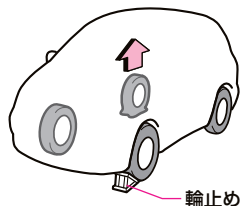
警告

3 バッテリーについての注意

4. ジャッキアップについての注意

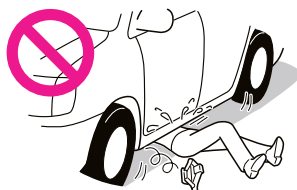
ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりとかけてください。



- 車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

- ② ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。



- 万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

- ③ ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.412参照）にかかっていることを必ず確認してください。
- 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- ジャッキアップした車体を降ろすときは、まわりの状況に注意してください。

- ④ 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

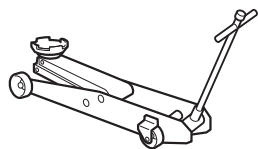
- 他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑤ 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

- 室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥ 車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

- 車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ず下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。



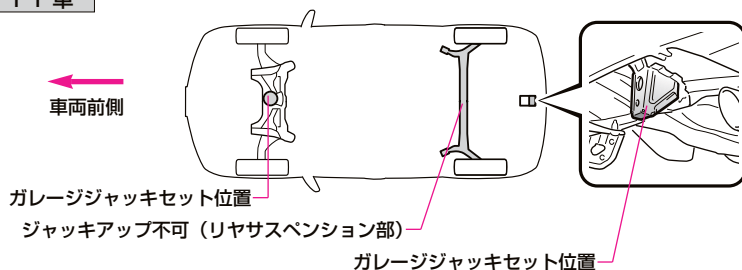
ガレージジャッキ



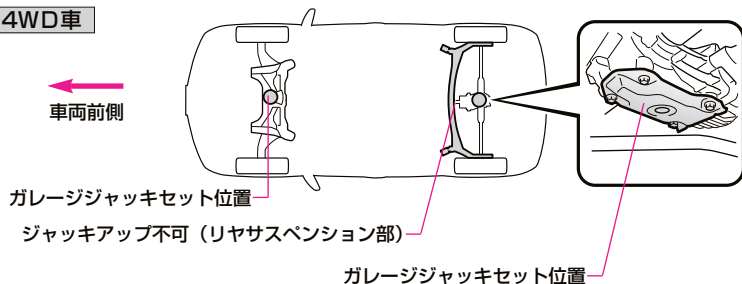
警告

4 ジャッキアップについての注意

FF車



4WD車



ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受皿タイプを使用してください。



オーバーヒート・万一の事故

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ① **オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。**



- エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分もありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

- ② **ラジエーターや補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。**



- 蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包みゆっくりと開けてください。



警告

1 オーバーヒートについての注意

2. 万一の事故のときの注意

次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

① エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキの倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。

けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

② けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

- けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。



③ けん引中に、“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにしないでください。(スマートエントリー & スタートシステム装着車)

- ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ けん引中に、キーを抜いたり、エンジン スイッチを“LOCK”の位置にしないでください。(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)

- キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“LOCK”の位置にあるとキーが抜けるおそれがあります。

⑤ 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。

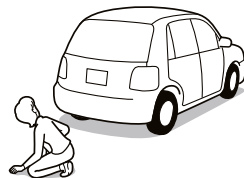
- 可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると炎でやけどをするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑥ 事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つければ、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。

この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。





その他の注意



次の事項を必ず守ってください。

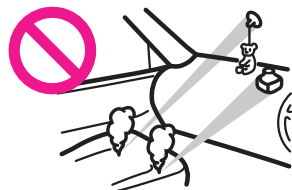
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 違法改造は絶対にしないでください。

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・タイヤ、ディスクホイール、ディスクホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・電装品、無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼つけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

② ウインドウガラスなどには吸盤をつけないでください。

- ウインドウガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの動きをして火災につながるおそれがあります。



③ ラゲージルームには人を絶対に乗せないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



④ 走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。



- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。
 - バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
 - バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
 - 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢よく開いたり閉じたりするおそれがあります。
 - 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
 - バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
 - バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
 - バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⑤ フロントワイパーデアイサー作動中は、フロントウィンドウガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。(フロントワイパーデアイサー装着車)

- やけどをするおそれがあります。

！ その他の注意



⑥ カップホルダーにはカップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。また、使用していないときは閉めておいてください。

⑦ 車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないように注意してください。

- インストルメントパネル、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑧ アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取り付けることができません。

- 磁石はアルミに付かないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取り付けることができません。

⑨ エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーにふれないように注意してください。

- エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足がふれると、やけどをするおそれがあります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に冷めてからにしてください。

⑩ ETCシステムを利用する際には、安全のため、運転者は走行中にETCカードの抜き差し、およびETCユニットの操作を極力しないでください。(ETCシステム装着車)

- 走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。

⑪ シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

- ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑫ メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておく、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑬ 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

- インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2

基本操作早わかり

(はじめてこの車にお乗りになる方へ)

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。

詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりと読みください。

各部の開閉	70
シートの調整	72
シートベルトの着用	74
運転するとき	76
警告灯	82
スイッチ類の取り扱い	84
エアコン	86

目次



基本
操作
早
わか
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

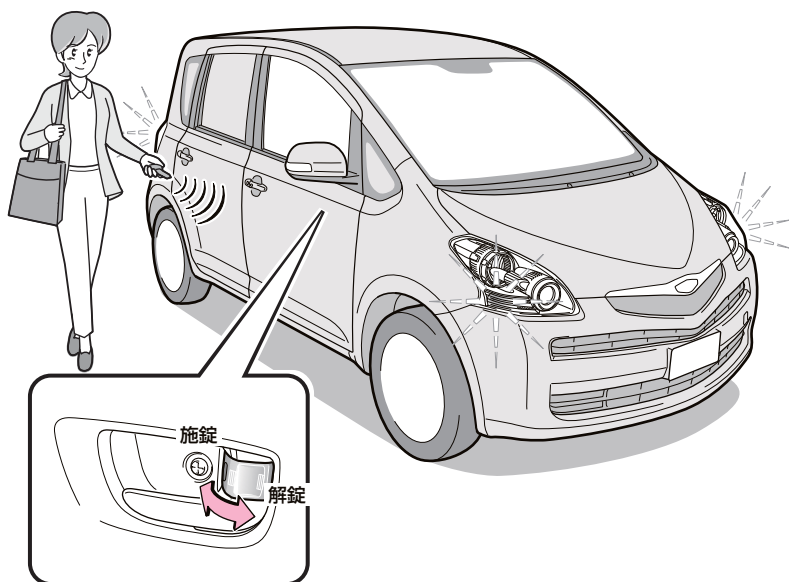
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

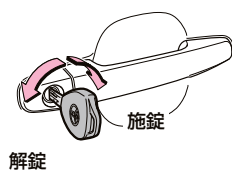
万
一
の
と
き

索引

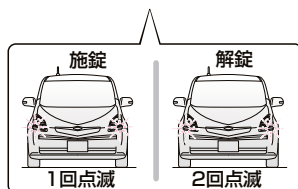
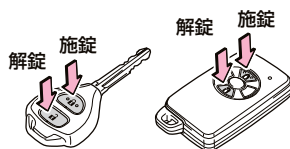


ドアの施錠と解錠

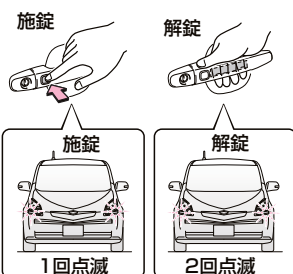
キーで



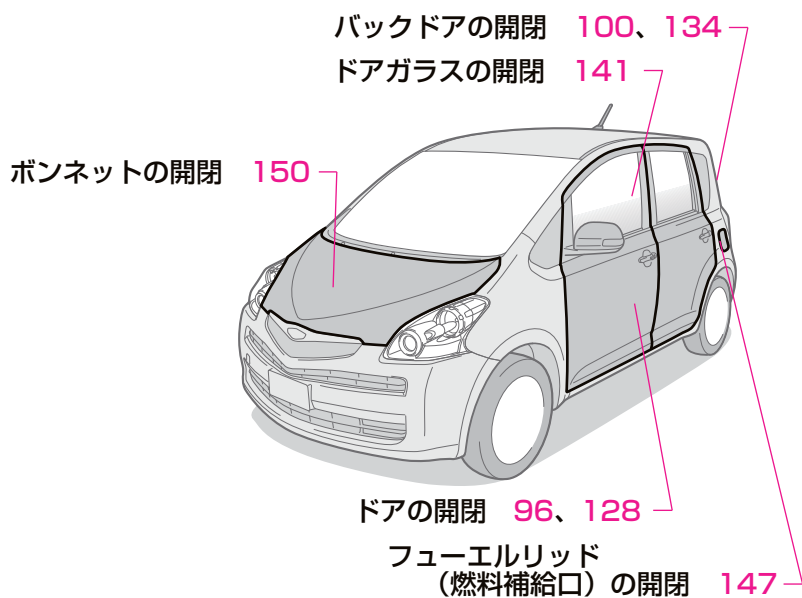
リモコンスイッチで



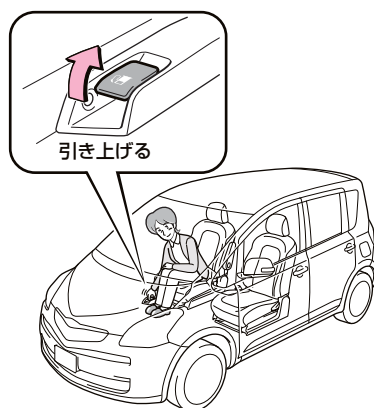
スマートエントリー & スタートシステムで



各部の開閉に関する詳しい紹介は



ドアガラスの開閉

フューエルリッド
(燃料補給口) の開け方

目次

基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引



運転席の調整機能(その1)

前後位置



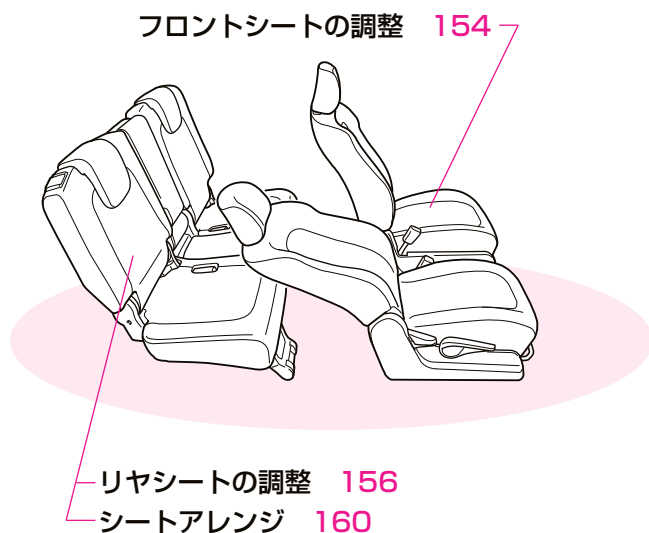
背もたれの角度



シート全体の上げ下げ

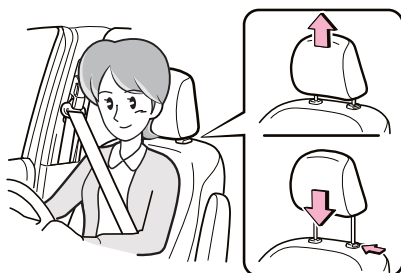


シートに関する詳しい紹介は



運転席の調整機能(その2)

ヘッドレスト



アームレスト (アームレスト装着車)



目次

警告

基本
操作

運転
装置の
取り扱い

室内
装備の
取り扱い

安全・快適
装備
の解説と注意

車との
上手な
付き合い方

メン
テナ
ンス

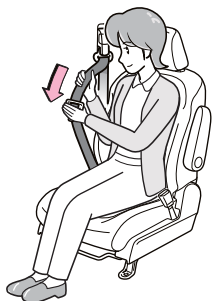
万
一
の
と
き

索
引



着用のしかた

1 ベルトを引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。

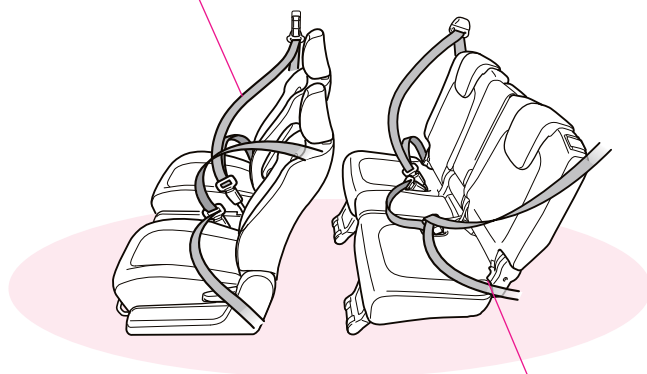


① “カチッ” というまで差し込みます。

② アンカーの高さを調整します。

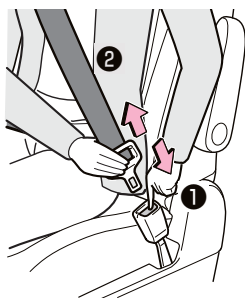
シートベルトに関する詳しい紹介は

シートベルトの着用 176



チャイルドシートの固定 183

はずし方



- ① バックルのボタンを押します。
- ② ベルトを巻き取らせます。

目次



基本
操作

運転
装置
の
取
り
扱
い

室内
装
備
の
取
り
扱
い

安全・快適装
備
の
解
説
と
注
意

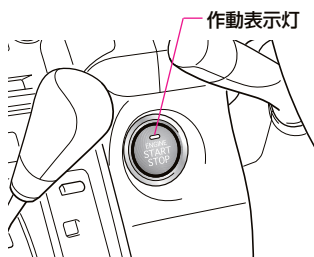
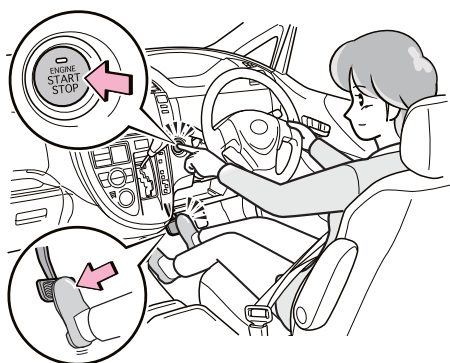
車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索
引

スマートエントリー & スタートシステム装着車



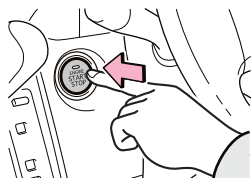
“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態	作動表示灯 の色	エンジンの 状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリモード	橙色	停止	アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。 (メーターが点灯します。)
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“エンジン スタート ストップ” スwitchの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

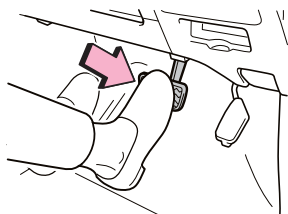
2 “エンジン スタート ストップ” スwitchを押します。
switchを押すごとにswitchが、
OFF⇒アクセサリモード⇒イグニッションONモード⇒OFF...
の順に切り替わります。

●アクセサリモードまたはイグニッションONモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。



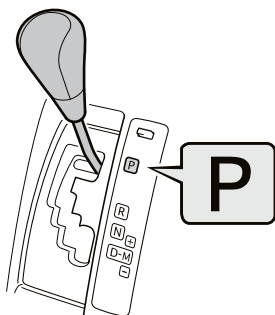
エンジン始動のしかた

- 1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

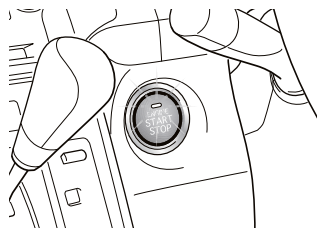


パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

- 3 シフトレバーの位置を確認します。

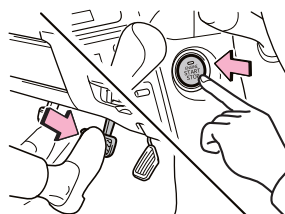


- 2 ブレーキペダルを踏みながら作動表示灯が緑色に点灯するのを確認します。



作動表示灯が緑色に点灯していない状態では、エンジンは始動しません。

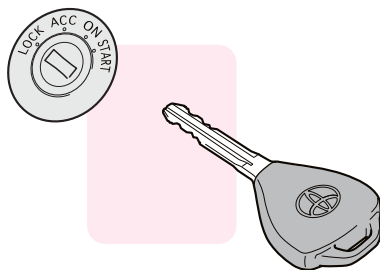
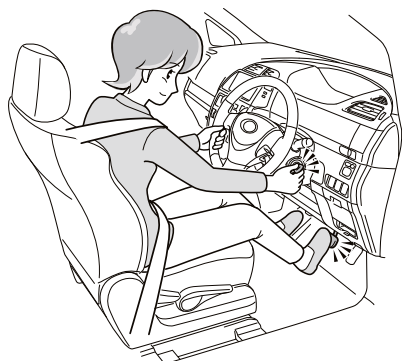
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。



ゆっくり確実に押してください。

- エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車



エンジン スイッチ位置	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き差しができる位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	停止	アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーを離すと“ON”の位置にもどります。

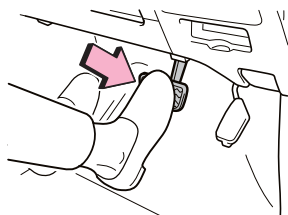
エンジン スイッチの切り替え方



- 1 キーをキーシリンダーに差し込みます。
- 2 キーをまわして切り替えます。

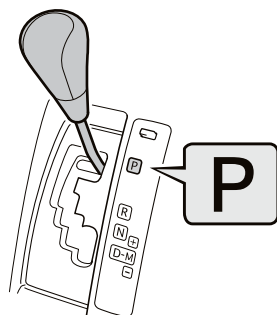
エンジン始動のしかた

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

- 2 シフトレバーの位置を確認します。



- 3 キーを“START”の位置までまわし、手を離します。



キーは“ON”の位置にもどります。

目次



警告

基本
操作

運転
装置の
取り
扱い

室内
装備の
取り
扱い

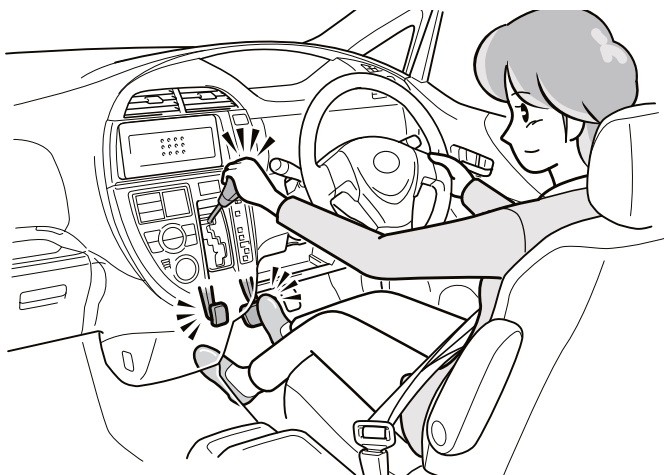
安全・快
適装備
の解説
と注意

車との
上手な
付き合い
方

メン
テナ
ンス

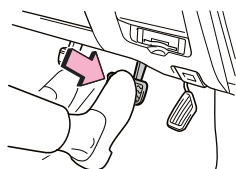
万
一の
とき

索
引

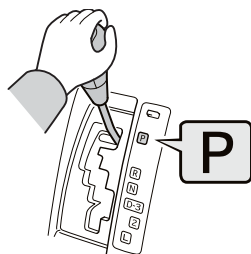


シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。



2 シフトレバーをPから操作します。



パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

運転装置に関する詳しい紹介は

“エンジン スタート ストップ” スイッチ
(スマートエントリー & スタートシステム装着車)

105

シフトレバー

202、212

パーキングブレーキ

221

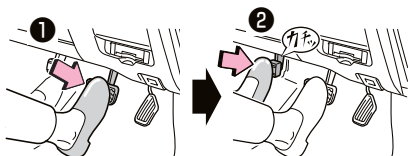
エンジン スイッチ

(スマートエントリー & スタートシステム非装着車)

198

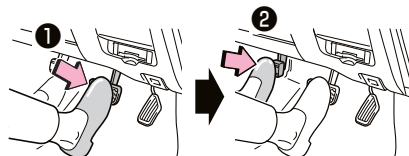
パーキングブレーキの使い方

解除のしかた



- ① 右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
- ② 左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方



- ① 右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、
- ② 左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

目次



警告

基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

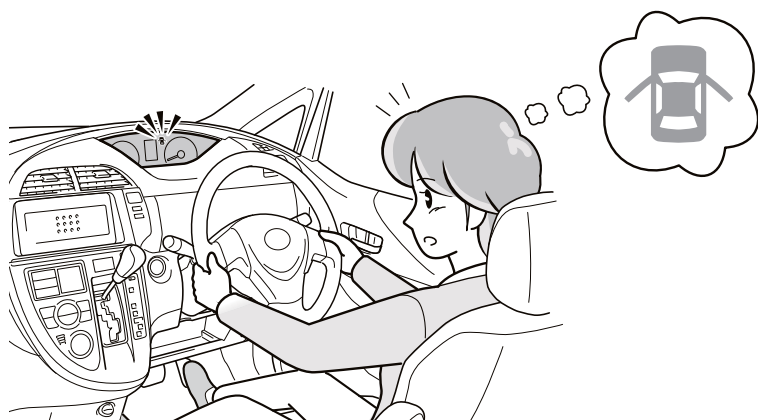
安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

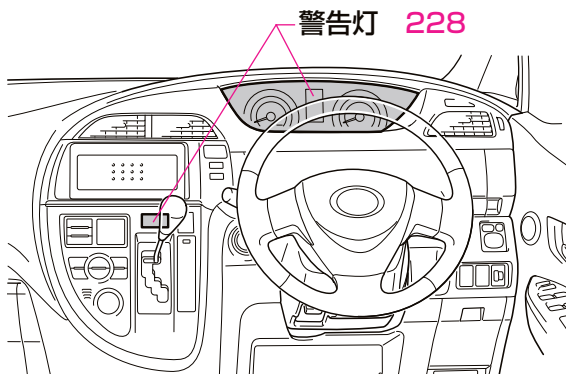
索
引



警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
(ABS) ABS & ブレーキアシスト警告灯	ABS、またはブレーキアシストシステムの異常です。
(ABS) ABS警告灯	ABSの異常です。
(!) ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
VSC VSC警告灯	VSC & TRCシステムの異常です。
 エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
 ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムの異常です。
 油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
 高水温警告灯	エンジン冷却水温度の異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は



警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
 充電警告灯	充電システムの異常です。
 パワーステアリング警告灯	パワーステアリング制御システムの異常です。
 半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
 スマートエントリー & スタートシステム警告灯	電子キーが車室内発信機の検知エリア内にありません。
 SRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯	SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
 運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
 助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

※この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合があります。
詳しくは、P.228を参照してください。

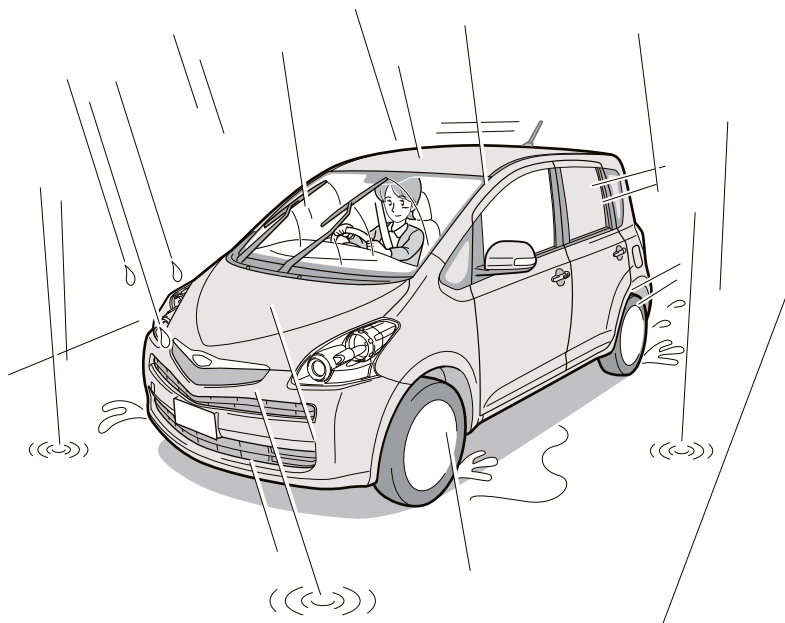
目次



警告

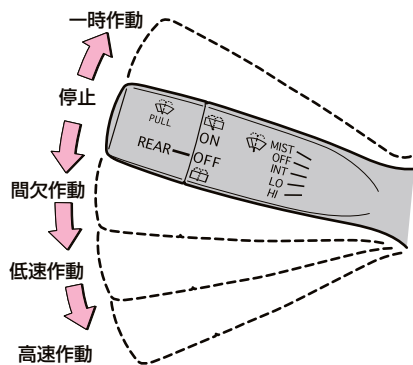
基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

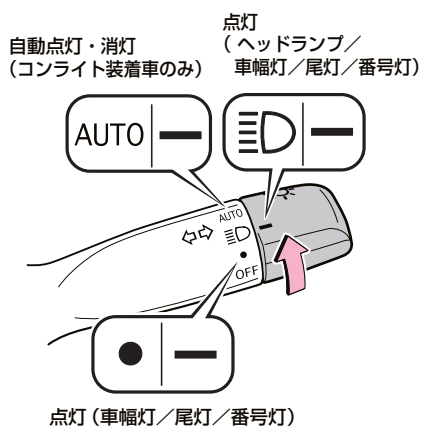


夜間や雨天時などの走行

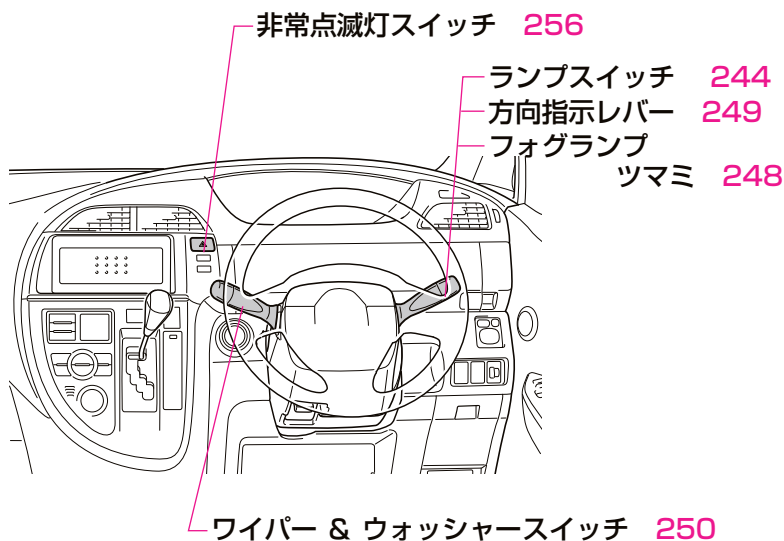
フロントワイパーの使い方



ランプのつけ方

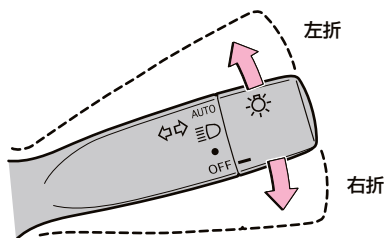


スイッチに関する詳しい紹介は

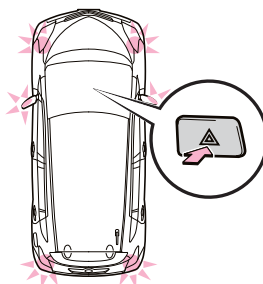


他車への合図

方向指示灯



非常点滅灯



目次



基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

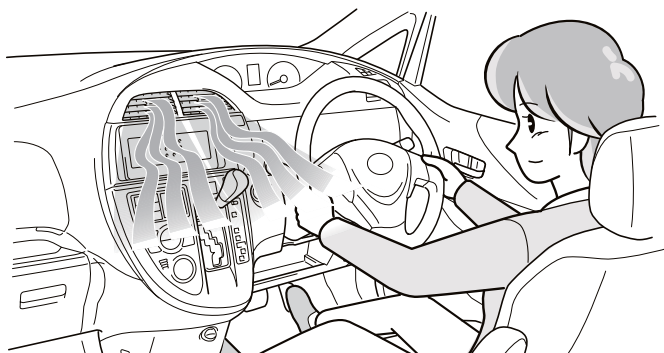
安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テ
ナ
ン
ス

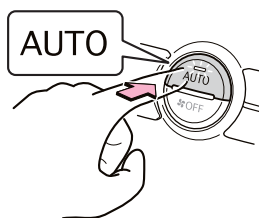
万
一
の
と
き

索
引

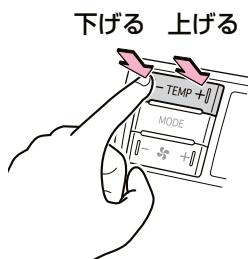


オートエアコンの使い方

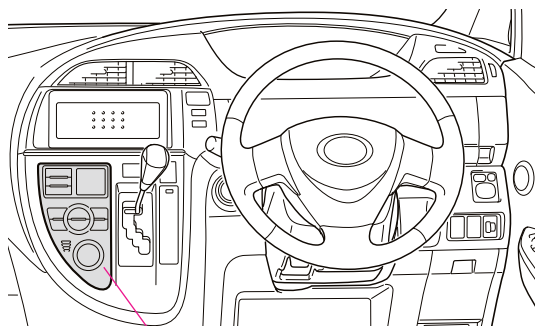
1 AUTOスイッチを押します。



2 TEMPスイッチを押して希望温度に合わせます。



エアコンに関する詳しい紹介は



オートエアコン 264

マニュアルエアコン 272

- 3 エアコンが作動していないときは、エアコンスイッチを押します。



目次



基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索
引

3

運転装置の取り扱い

スマートエントリー & スタートシステム	90	シートの調整	152
スマートエントリー & スタートシステムについて	90	正しい運転姿勢	152
電子キー	92	フロントシートの調整	154
ドアの施錠・解錠のしかた	96	リヤシートの調整	156
バックドアの施錠・解錠のしかた	100	シートアレンジ	160
“エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え方	105	インデックス	160
エンジン始動・停止のしかた	108	シートを格納する	163
盗難防止システム	113	クッションを引き起こして 背もたれを前倒しする	168
節電機能	114	背もたれを前倒しする	171
警報音・警告灯	115	フラットシートにする	174
こんなときは	121	シートベルトの着用	176
電子キーが正常に 作動しないときは	123	シートベルトの正しい着用	176
ドア、ドアガラスなどの開閉	128	シートベルトの着用のしかた	179
ドアの開閉	128	チャイルドシートの固定 ...	183
バックドアの開閉	134	シートベルトでの固定	183
ワイヤレスドアロック リモコンの使い方	138	ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーでの固定	186
ドアガラスの開閉	141		
パノラマルーフのシェードの開閉	145		
フューエルリッド (燃料補給口) の開閉	147		
ボンネットの開閉	150		

ハンドル、ミラーの調整… 192

ハンドルの調整	192
インナーミラーの調整	193
ドアミラーの調整	194

エンジンのかけ方…………… 198

エンジン スイッチの切り替え方 (スマートエントリー & スタート システム非装着車)	198
エンジン始動・停止の しかた	199

シフトレバーの使い方…… 202

Super C V T - i	202
Super E C T	212

オートマチック車の**運転のしかた…………… 215**

発進のしかた	215
走行のしかた	217
停車・駐車のしかた	219

**パーキングブレーキペダルの
使い方…………… 221**

パーキングブレーキペダルの 取り扱い	221
-----------------------	-----

**メーター、表示灯、警告灯
の見方…………… 222**

メーター	222
表示灯、警告灯	228

スイッチの使い方…………… 244

ランプの使い方	244
ヘッドランプの 光軸上下調整のしかた	247

フォグランプの使い方	248
------------	-----

方向指示レバーの使い方	249
-------------	-----

ワイパー & ウォッシャー の使い方	250
-----------------------	-----

フロントワイパーデアイサーの 使い方	254
-----------------------	-----

リヤウインドウデフォグガー (曇り取り) の使い方	255
------------------------------	-----

非常点滅灯の使い方	256
-----------	-----

ホーンの使い方	257
---------	-----

クルーズコントロールの**使い方…………… 258**

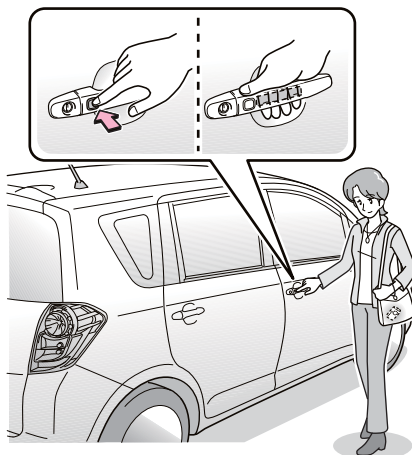
スマートエントリー & スタートシステム★

スマートエントリー & スタートシステムについて

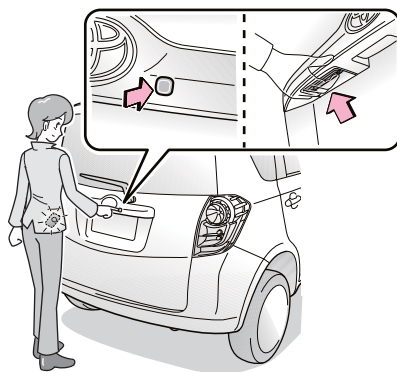


電子キーを携帯するだけで次のような操作ができます。

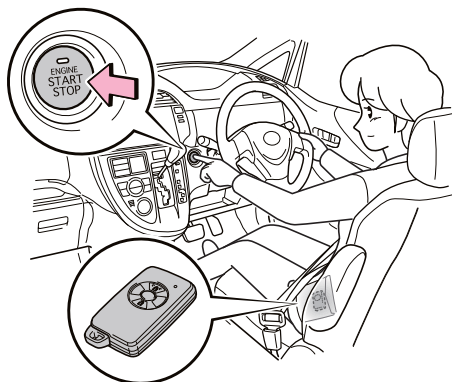
ドアの施錠・解錠（P.96参照）



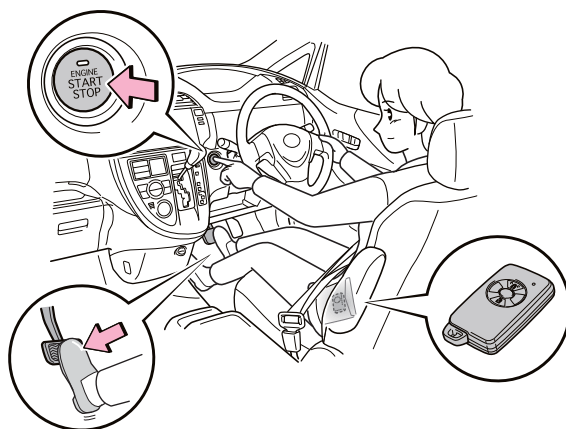
バックドアの施錠・解錠（P.100参照）



“エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え (P.105参照)



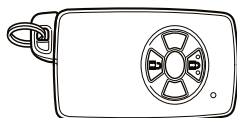
エンジンの始動・停止 (P.108参照)



電子キー



電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー & スタートシステムが作動します。



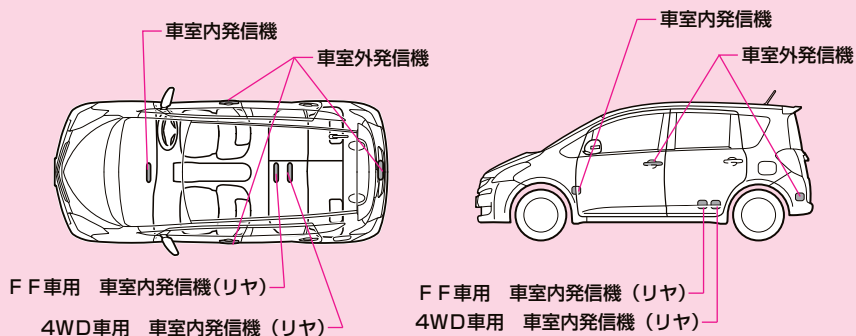
電子キーは運転者が必ず携帯してください。



警告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に植え込み型ペースメーカーが近づかないようにしてください。

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



注意

電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。

- 電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。
 - ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
 - 分解しないでください。
 - 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - 水にぬらさないでください。
 - 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けしないでください。
 - 電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
 - テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
 - 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
 - 電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
 - 車から離れるときは、
 1. シフトレバーをPにし、
 2. パーキングブレーキをかけ、
 3. “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにして、必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
- 電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
 - 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - 必ず日本国内でご使用ください。



知識

電子キーの通信について

スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.123「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

- 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコンなどの電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき



電子キーについて

- 電子キーは2個あります。
- 電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
- ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.138を参照してください。
- 電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- スマートエントリー & スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
- 盗難防止システムについてはP.113を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

- 電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常時受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（P.361参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをOFFにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警報が鳴ります。（P.117参照）

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

知識

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。

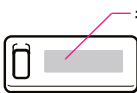
影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）

テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス式電話器および携帯電話

電子キーの使用個数について

同じ車両で電子キーは最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて



キーナンバー

お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
- 万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー & スタートシステムの解除について

スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安全・快適装
備の解
説と注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

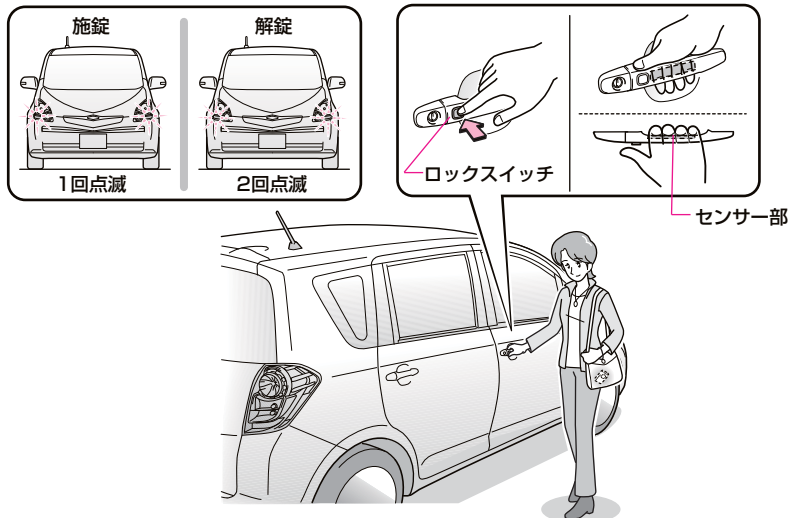
索引

ドアの施錠・解錠のしかた



P.128の「ドアの開閉」を併せてお読みください。

● 施錠・解錠のしかた



■ 施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

- すべてのドア（バックドアを含む）の施錠ができます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
- 必ず施錠されたことを確認してください。

■ 解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部にふれるようにドアハンドルを握ります。

- すべてのドア（バックドアを含む）の解錠ができます。
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。



注意

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。



知識

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）

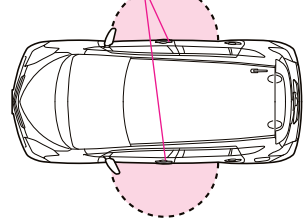
- ドアガラスやドアハンドルに近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。



検知エリア

各フロントドアハンドルから周囲約70cm以内

車室外発信機

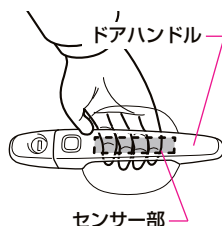


作動条件について

- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合を行い車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
 - ・電子キーを検知しているフロントドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
 - ・車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っている場合でも、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近付きすぎたときは正常に作動しない場合があります。
 - ・電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
 - ・電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
 - ・車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.123の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

施錠・解錠について

- ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
- 施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
- 次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.117参照）が鳴ります。
 - ・ いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
 - ・ フロントドアの開閉中
- 解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
 - ・ ドアハンドル裏側のセンサー部以外にふれても解錠されません。
 - ・ 皮手袋、スキー手袋などを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部にふれた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
 - ・ 他の車の電子キーや、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。
- 確実に解錠させるためには、電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入ってから約3秒以内にフロントドアハンドルを握ってください。約3秒を経過すると、作動しない場合があります。
- 急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.138参照）、メカニカルキー（P.123参照）、ドアロックスイッチ（P.129参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
- 解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
- 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでフロントドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。





知識

便利機能について

イルミネテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して、ルームランプ（DOORの位置のとき）、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯・消灯します。

- 電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※
- いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、運転席ドアまたは助手席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- 次のような場合は、ただちに消灯します。
 - ・すべてのドアを閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにしたとき
 - ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにして、すべてのドアを閉めたとき
 - ・すべてのドアを閉め、フロントドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.400の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、ルームランプ（DOORのとき）、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

目次



早基本
わ操
か作

取運
り転
扱扱
い置
の

取室
り内
扱装
い備
の

の安全
解説・
快適
装備

付車
きとの
合い方
い上
な

メン
テナ
ンス

万
一の
とき

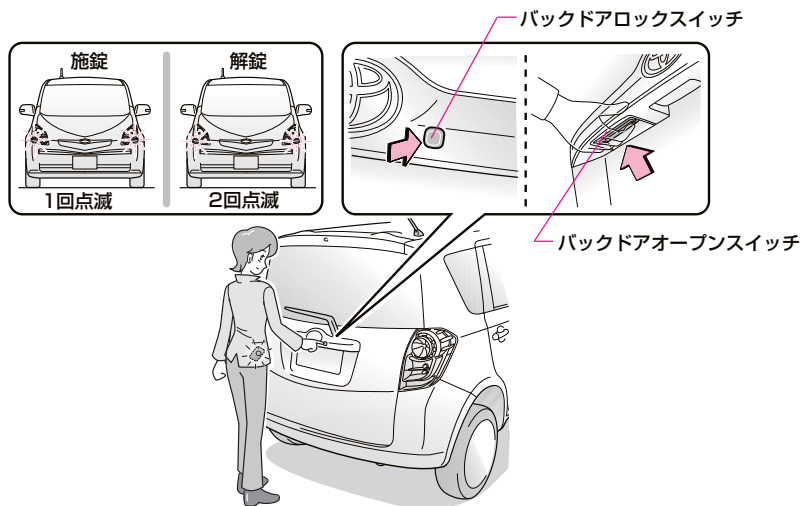
索引

バックドアの施錠・解錠のしかた



P.134の「バックドアの開閉」を併せてお読みください。

● 施錠・解錠のしかた



■ 施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドア（バックドアを含む）が閉まっている状態で、バックドアロックスイッチを押します。

- すべてのドアの施錠ができます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
- 必ず施錠作動したことを確認してください。

■ 解錠するときは

電子キーを携帯し、バックドアオープンスイッチを押します。

- すべてのドアの解錠ができます。
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。



注意

車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

目次



警告

基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

安全・快適
装備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

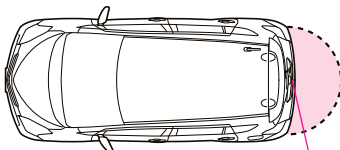
万
一
の
と
き

索引

作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（バックドアスイッチから周囲約70cm以内）

- ドアガラスやバックドアスイッチに近付きすぎた場合などは作動しないことがあります。



車室外発信機

検知エリア

バックドアスイッチから周囲約70cm以内

作動条件について

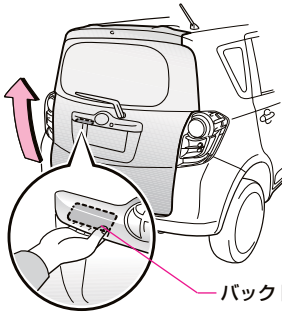
- 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、バックドアオープンスイッチを押すと、IDコードの照合を行い、照合が一致したときのみバックドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でバックドアロックスイッチを押すと、車室内外でIDコードの照合を行い、車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると、施錠されます。
 - ・ 車室外発信機（バックドア）の検知エリア内に入っている場合でも、電子キーが地面の近くや高い場所にあるとき、リヤバンパー中央に近付け過ぎたときは正常に作動しない場合があります。
 - ・ 電子キーが車室外発信機（バックドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
 - ・ 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
 - ・ 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのバックドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.123の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

施錠・解錠について

- バックドアロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
- 施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
- 次のようなときは、バックドアロックスイッチを押さないでください。バックドアロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.117参照）が鳴ります。
 - ・ いずれかのドア（バックドアを含む）が開いているとき
 - ・ バックドアの開閉中
- 急な車室外発信機（バックドア）の検知エリア内への接近や急なバックドアロックスイッチおよびバックドアオープンスイッチの操作では、施錠・解錠されない場合があります。その場合は、もう一度ゆっくりと操作してください。

● 開閉のしかた

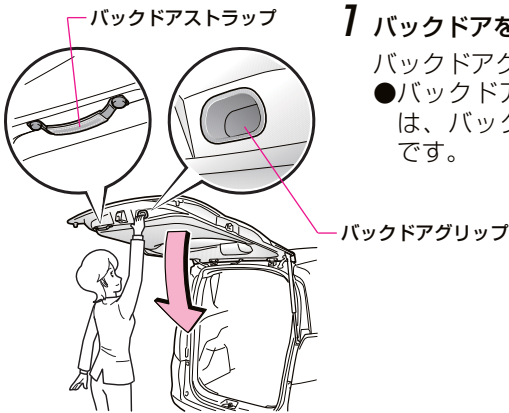
■ 開けるときは



バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げます。

- バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
- バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■ 閉めるときは



1 バックドアを外から押せる高さまで降ろします。

バックドアグリップを使用すると便利です。

- バックドアグリップまで手がとどかない場合は、バックドアストラップを使用すると便利です。

2 バックドアを外から押してロックします。

バックドアグリップ、またはバックドアストラップを持ったまま直接バックドアを閉めないでください。





初期設定について

車両のバッテリー交換やヒューズ交換などで、車両と車両バッテリーとの接続が断たれたときは、バックドアの初期設定をしてください。

バックドアの初期設定がされていないと、バックドアオープンスイッチでバックドアを開けることができません。

■初期設定のしかた

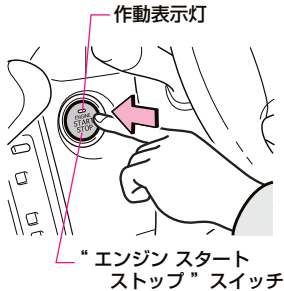
次のいずれかの方法でバックドアの解錠操作をしてください。

- スマートエントリー & スタートシステムで解錠する。(P.100参照)
- ワイヤレスドアロックリモコンで解錠する。(P.138参照)
- ドアロックスイッチで解錠する。(P.129参照)
- 運転席ドアにメカニカルキーを差し込んで解錠する。(P.123参照)

“エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え方



“エンジン スタート ストップ” スイッチを押すごとにスイッチが切り替わります。



1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ブレーキペダルを踏まずに “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを押すごとに、スイッチが

OFF⇒アクセサリモード⇒イグニッションONモード⇒OFF…

の順に切り替わります。

●アクセサリモード、イグニッションONモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。

●イグニッションONモード⇒OFFは車両が停止しているときに切り替わります。

●“エンジン スタート ストップ” スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、1回ごと確実に押してください。

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリモード	橙色	停止	アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。(メーターが点灯します。)
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。通常運転中の状態です。

目次



警告

基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



注意

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリモードのまま長時間放置しないでください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリモードのまま長時間放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気を付けてください。
- 車幅灯が点灯しても、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

作動範囲について

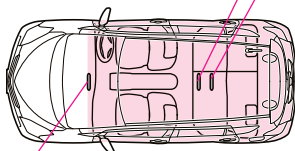
車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスに近付きすぎた場合などは“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替えが可能となることがあります。

検知エリア
車両室内

4WD車用 車室内発信機（リヤ）

F F車用 車室内発信機（リヤ）



車室内発信機（フロント）



知識

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることができません。この場合、スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.116参照）
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.308参照）などに置かないでください。“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムで“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることはできません。この場合は、P.123の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、スイッチが切り替わらないことがあります。

作動条件について

盗難防止システムにより“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。（P.113参照）

便利機能について

オートOFF機能

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードのまま約1時間放置すると、バッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがOFFになります。

車両バッテリー脱着時について

車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションONモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、スイッチが絶たれる前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをOFFにしてから行ってください。

車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

目次



警告

基本
操作運転
準備室内
装備安全・
快適
装備車
の
上
手
な
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

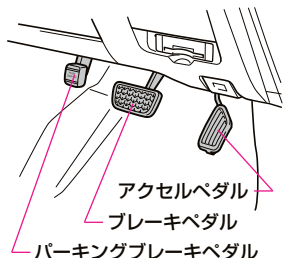
索引

エンジン始動・停止のしかた



ブレーキペダルを踏みながら、“エンジン スタート ストップ” スイッチを押すとエンジンが始動します。

エンジン始動のしかた



1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.152参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

3 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

4 シフトレバーの位置を確認します。

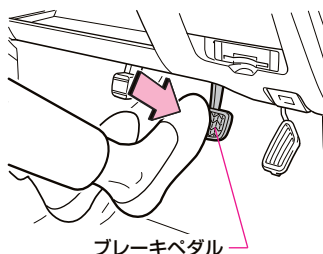
シフトレバーがPにあることを確認します。

●Nでも始動できますが、安全のためPで行ってください。

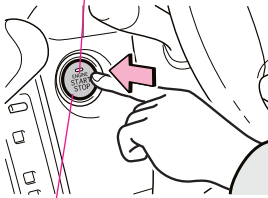
5 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

“エンジン スタート ストップ” スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



作動表示灯



“エンジンスタート
ストップ”スイッチ

6 ブレーキペダルを踏みながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押して、エンジンを始動します。

- 完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- ブレーキペダルを踏みながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもエンジンを始動することができます。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに “エンジン スタート ストップ” スイッチを押して、一度スイッチをOFFにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながらもう一度スイッチを押してください。
- クランキングホールド機能（P.112参照）が作動します。

● エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーを●に入れて “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

スイッチがOFFになり、エンジンが停止します。

- シフトレバーが●以外だと “エンジン スタート ストップ” スイッチはアクセサリモードになり、エンジンが停止します。スイッチをOFFにするには、シフトレバーを●に入れてからスイッチを押してください。



警告

車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中は、“エンジン スタート ストップ” スイッチにさわらないでください。誤ってスイッチを押し続け、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンの始動操作をしたときに、“エンジン スタート ストップ” スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをOFFにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気を付けてください。
- 車幅灯が点灯しても、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

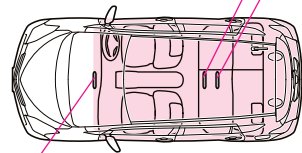
作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスに近付きすぎた場合などはエンジンの始動が可能となることがあります。

検知エリア
車両室内

4WD車用 車室内発信機（リヤ）
FF車用 車室内発信機（リヤ）



車室内発信機（フロント）

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、キーエリア外警報が鳴ります。（P.116参照）
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.308参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムでエンジンを始動することはできません。この場合は、P.123の「電子キーが正常に作動しないときは」を参照してください。

作動条件について

- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながらブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンが始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びエンジンの始動操作をしてください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押ししてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。(P.113参照)

エンジンの緊急停止について

走行中、“エンジン スタート ストップ”スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチはアクセサリモードになります。
- この状態ではオートOFF機能は作動しません。(P.107参照)

車両バッテリー脱着時について

- 車両のバッテリー脱着後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押しってください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

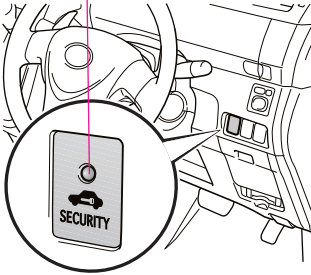
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

盗難防止システム



車両の盗難防止のために、あらかじめ登録された電子キー以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え、エンジンの始動をできないようにしたシステムです。

セキュリティ表示灯



- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。
- 登録された電子キーを携帯し“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。
- 電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。
- 車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



注意

盗難防止システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



知識

メンテナンスについて

盗難防止システムのメンテナンスは不要です。

目次



警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索
引

節電機能



電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止する機能です。

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア、バックドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。

そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー & スタートシステムが自動で停止します。

- 14日以上、電子キーから応答がないとき
- 10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

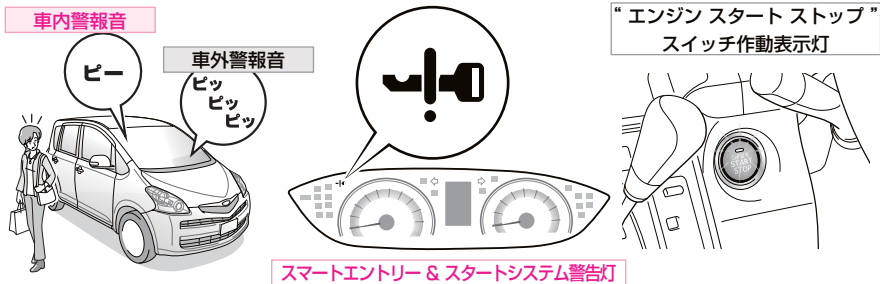
スマートエントリー & スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。

- 車両に近付いて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。
- フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押し、施錠操作をする。
- メカニカルキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込み、施錠または解錠操作をする。（P.123参照）

警報音・警告灯



スマートエントリー & スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などを防ぐため、警報音や警告灯または、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。
警報音が鳴ったり、メーター内のスマートエントリー & スタートシステム警告灯が点灯したり、スイッチの作動表示灯が点滅したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。



■シフトレバーがP以外での電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外、シフトレバーがP以外で、運転席ドアを開けたとき

- **車内警報音** “ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、シフトレバーをPに入れてください。

■シフトレバーがP以外での運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがP以外のとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- **車内警報音** “ピー”と連続で鳴ります。
- **車外警報音** “ピー”と連続で鳴ります。
- **スマートエントリー & スタートシステム警告灯** 点灯します。

警報が鳴ったら、シフトレバーをPに入れて、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてください。

■シフトレバーがPでの運転者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがPのとき、運転席ドアの開閉が行われ、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- **車内警報音** “ピー”と鳴ります。
- **車外警報音** “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
- **スマートエントリー & スタートシステム警告灯** 点灯します。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてください。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万のとき

索引

■スマートドアロックでの電源切り忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがPのとき、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押して施錠しようとしたとき

- **車外警報音** “ピー”と60秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてください。

■同乗者のキー持ち出し警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、運転席ドア以外のドアの開閉が行われ、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- **車内警報音** “ピー”と鳴ります。
- **車外警報音** “ピッ、ピッ、ピッ”と鳴ります。
- **スマートエントリー & スタートシステム警告灯** 点灯します。

警報が鳴ったら、降車した同乗者が電子キーを持っていないか確認してください。

■キーリマインダ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリモードで、運転席ドアを開けたとき

- **車内警報音** “ピー、ピー、ピー”と連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにして運転席ドアを閉めてください。

■キーエリア外警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき

- **車内警報音** “ピー”と鳴ります。
- **スマートエントリー & スタートシステム警告灯** 8秒間点灯します。

警報が鳴ったら、車室内の検知エリア内に電子キーがあるか確認してください。電子キーがある場合は、電子キーのバッテリー切れが考えられます。電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押して、電子キーのLEDが点灯するか確認してください。点灯しない場合は、電子キーのバッテリーを交換してください。(P.361参照)

■キー置き忘れ警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、フロントドアハンドル、またはバックドアのロックスイッチを押したとき

- **車外警報音** “ピー”と2秒間連続で鳴ります。

このとき、施錠することはできません。

警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

キー置き忘れ警報について

- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、収納ボックス内（P.322参照）などに置いた場合、キー置き忘れ警報が鳴らないことがあります。
- 電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近付けすぎた場合、キー置き忘れ警報が鳴ることがあります。

■キーバッテリー低下警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをOFFにしたとき、電子キーのバッテリー電圧が低下していると判断したとき

- **車内警報音** “ピー”と鳴ります。

警報が鳴ったら、電子キーのバッテリーを交換してください。（P.361参照）

■半ドア警報

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、いずれかのドア（バックドアを含む）が開いている（半ドア）状態または、フロントドア、バックドアの開閉中に、フロントドアハンドルまたはバックドアのロックスイッチを押したとき

- **車外警報音** “ピー”と10秒間連続で鳴ります。

警報が鳴ったら、すべてのドア（バックドアを含む）を閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。

■ステアリングロック未解除警報

エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったとき

- “エンジン スタートストップ”スイッチ作動表示灯 15秒間緑色に点滅します。

ハンドルを左右に動かしながら、エンジン始動操作をしてください。

■ステアリングロック異常警報／電源異常警報

ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知したとき

- “エンジン スタートストップ”スイッチ作動表示灯 橙色に点滅します。

すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

■警報音および警告灯の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー & スタートシステム警告灯	状 況
ピー (連続吹鳴)	—	—	Ⓟ以外での電源切り忘れ警報 (P.115参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFF以外で、シフトレバーがⓅ以外するとき、運転席ドアを開けた。
ピー (連続吹鳴)	ピー (連続吹鳴)	点灯	Ⓟ以外での運転者キー持ち出し警報 (P.115参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFF以外で、シフトレバーがⓅ以外するとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー (1回吹鳴)	ピッ、ピッ、ピッ (3回吹鳴)	点灯	Ⓟでの運転者キー持ち出し警報 (P.115参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFF以外で、シフトレバーがⓅのとき、運転者が電子キーを車外に持ち出した。
—	ピー (60秒間吹鳴)	—	スマートドアロックでの電源切り忘れ警報 (P.116参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFF以外で、シフトレバーがⓅのとき、ロックスイッチを押した。
ピー (1回吹鳴)	ピッ、ピッ、ピッ (3回吹鳴)	点灯	同乗者のキー持ち出し警報 (P.116参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFF以外するとき、同乗者が電子キーを車外に持ち出した。
ピー、ピー、ピー (断続吹鳴)	—	—	キーリマインド警報 (P.116参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードのとき、運転席ドアを開けた。
ピー (1回吹鳴)	—	点灯 (8秒間)	キーエリア外警報 (P.116参照) “エンジン スタート ストップ” スイッチを押したとき、車室内のIDコード照合で、電子キーがないと判断した。

車内警報音	車外警報音	スマートエントリー & スタートシステム警告灯	状 況
—	ピー (2秒間吹鳴)	—	キー置き忘れ警報 (P.117参照) “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがOFFのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。
ピー (1回吹鳴)	—	—	キーバッテリー低下警報 (P.117参照) 電子キーのバッテリー電圧が低下した。
—	ピー (10秒間吹鳴)	—	半ドア警報 (P.117参照) “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがOFFのとき、いずれかのドアが半ドアの状態またはフロントドア・バックドア開閉中、ロックスイッチを押した。

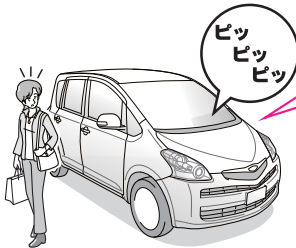
“エンジン スタート ストップ” スイッチ作動表示灯	状 況
緑色に点滅 (15秒間)	ステアリングロック未解除警報 (P.118参照) エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	ステアリングロック異常警報／電源異常警報 (P.118参照) ステアリングロックシステムまたは、電源システムの異常を検知した。

こんなときは



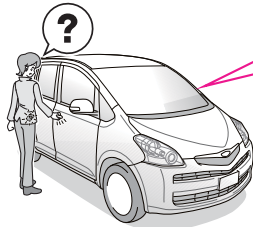
ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー & スタートシステムを扱う上での参考にしてください。

● 警報音が鳴っているときは／警告灯が点灯しているときは



P.115の「警報音・警告灯」を参照して該当する指示に従ってください。

● スマートエントリー & スタートシステムが作動しないときは



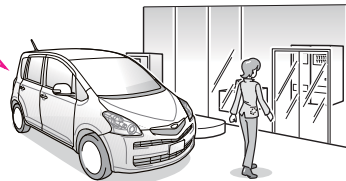
以下のことを確認してください。

- 電子キーが受信できない状況にある。(P.93参照)
- 電子キーのバッテリー（電池）がない。
- 節電機能が働いている。(P.114参照)

● ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

- 必ず施錠されていることを確認してください。



目次

警告

基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

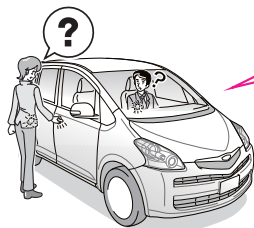
索引

● 正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは



スマートエントリー & スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロックリモコン (P.138参照) またはメカニカルキー (次ページ参照) を使って解錠してください。

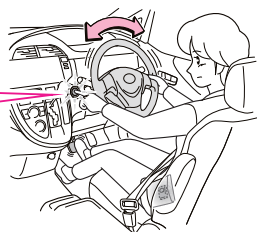
● 正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは



スマートエントリー & スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロックリモコン (P.138参照) またはメカニカルキー (次ページ参照) を使って施錠してください。

● エンジン始動操作後に作動表示灯が緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。
ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。



電子キーが正常に作動しないときは

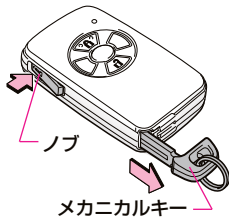


電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーのバッテリーが切れたときは、スマートエントリー & スタートシステム、ワイヤレスドアロックリモコンが使用できなくなります。

● 運転席ドアの施錠・解錠のしかた

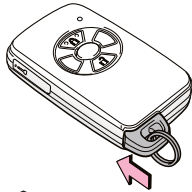
電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使用して、運転席ドアを施錠・解錠します。

■メカニカルキーの取り出し方



ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを取り出します。

■メカニカルキーの格納のしかた



メカニカルキーを図のように差し込みます。

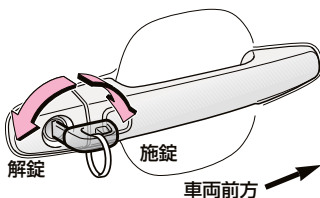
🎓 知識

メカニカルキーについて

- メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
- メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電子キーの電池が切れたときは、直ちに電池を交換することをおすすめします。(P.361 参照)

■メカニカルキーでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア



前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

- すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

目次

警告

基本
操作

運転
装置
の
取り
扱い

室内
装備
の
取り
扱い

安全・
快適
装備
の
解説
と
注意

車
との
上手
な
付き
合い
方
な

メン
テナ
ンス

万
一
の
とき

索引

● “エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え方

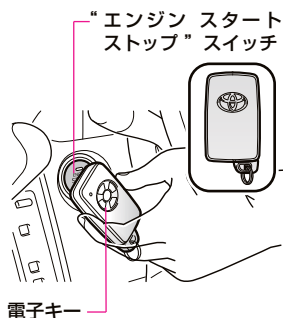
“エンジン スタート ストップ” スイッチに電子キーのⓉ（トヨタマーク）のある面で触れることで、スイッチの切り替えが可能になります。

P.105の「“エンジン スタート ストップ” スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。

1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

2 電子キーのⓉ（トヨタマーク）のある面で “エンジン スタート ストップ” スイッチに触れます。

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

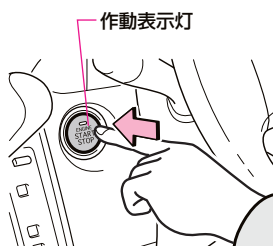


3 電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを押すごとに、スイッチが

アクセサリモード⇒イグニッションONモード
⇒OFF

の順に切り替わります。





知識

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替えについて

- いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめてから操作してください。
- 電子キー認識後、約5秒以上たってから“エンジン スタート ストップ”スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめてから操作してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに触れるスイッチの切り替え、エンジンの始動方法は一時的な処置です。電子キーの電池が切れたときは直ちに電池を交換することをおすすめします。(P.361参照)

“エンジン スタート ストップ”スイッチ切り替え時の警報について

“エンジン スタート ストップ”スイッチ切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

目次

警告

基本操作

運転転換の取扱い

室内装備の取扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

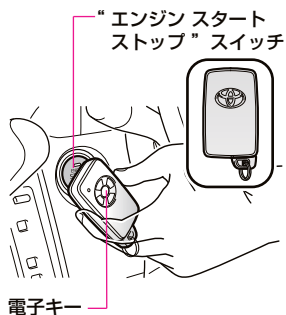
索引

● エンジン始動のしかた

“エンジン スタート ストップ” スイッチに電子キーのⓉ (トヨタマーク) のある面で触れることで、エンジンの始動が可能になります。

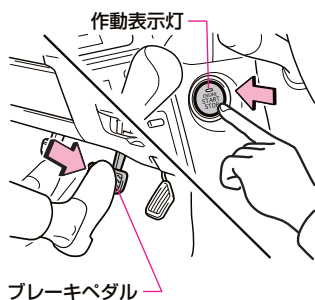
P.108「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。

1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。



2 電子キーのⓉ (トヨタマーク) のある面で “エンジン スタート ストップ” スイッチに触れます。

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。



3 電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏んだまま “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。

- ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。
- エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに “エンジン スタート ストップ” スイッチを押して、一度スイッチをOFFにしたあと、ブレーキペダルをさらに強く踏みながら、もう一度電子キーで触れる操作から行ってください。
- クランキングホールド機能 (次ページ参照) が作動します。

■エンジン停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様です。(P.110参照)

知識

エンジンの始動について

電子キー認識後、約5秒以上たってから“エンジン スタート ストップ”スイッチを押しても、エンジンは始動しません。もう一度はじめてから操作してください。

エンジン始動時の警報について

エンジン始動時に、いずれかのドアを開閉すると、警報が鳴りますが異常ではありません。

クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

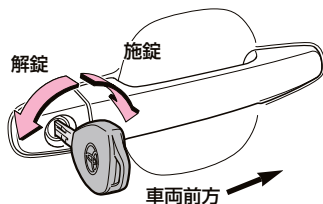
- “エンジン スタート ストップ” スwitchを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

ドア、ドアガラスなどの開閉

ドアの開閉

● キーでの施錠・解錠のしかた (P.96参照)

フロントドア



前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。
●運転席ドアでは、すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠が同時にできます。

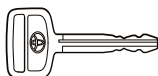
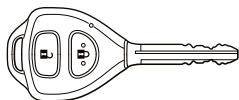
知識

キーについて

(P.94参照)

- キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動・停止などに使います。
- キーは2枚あります。
2枚のキーのうち、1枚にワイヤレスドアロックリモコンが付いています。
ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.137を参照してください。

ワイヤレスドアロック リモコン付

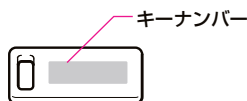


※キーの枚数および組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて

(P.95参照)



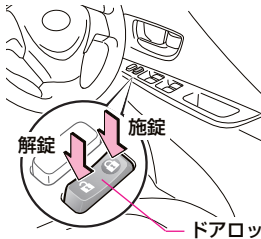
お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときは、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーをつくることができます。
- キーをつくるときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア



スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。

- すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。
- ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押し直してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スwitchの状態に関係なく使用できます。
- ドアロックスイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押し直してください。

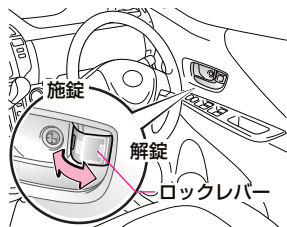
セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。）以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。

- ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠（P.138参照）
- ワイヤレスドアロックリモコンによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.139参照）
- スマートエントリー & スタートシステムを使っての施錠（P.96参照）
- スマートエントリー & スタートシステムによる解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.98参照）
- 運転席ロックレバーによる車外からの施錠（次ページ参照）
- 運転席ドアにキー（P.128参照）またはメカニカルキー（P.123参照）を差し込んでの施錠

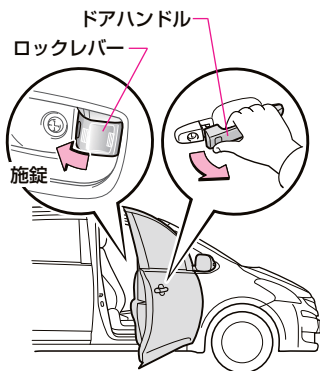
● ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■ 車内での施錠・解錠



ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■ 車外からの施錠



フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。リヤドアはロックレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

🎓 知識

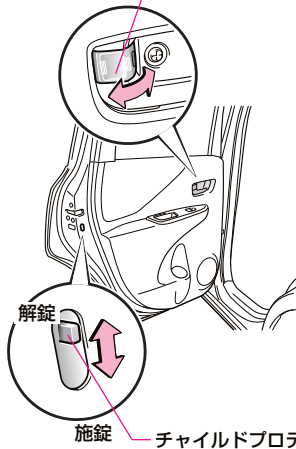
便利機能について

運転席ドアのみロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くとドアが開きます。

チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア

ロックレバー



チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のドアレバーでリヤドアを開けることができません。

知識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作ではリヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。

万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして車外のドアハンドルを引いて開けます。



警告

走行前にすべてのドアが閉まっていることを確認してください。

- 走行前にすべてのドアが完全に閉まっていることを確認してください。
ドアが完全に閉まっていなくて走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
 - ・閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - ・走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

キーが“LOCK”または“ACC”の位置のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ピー、ピー、ピー”と鳴ります。

キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを開けた状態から、ドアロックスイッチやロックレバーにより施錠しようとしても施錠できません。

イルミネテッドエントリーシステム (P.99参照)

ドアの開閉、解錠・施錠、エンジン スイッチの状態と連動して、ルームランプ（DOORの位置のとき）が点灯・消灯します。

- いずれかのドア（バックドアを除く）を開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。※
- エンジン スイッチを“LOCK”にすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- エンジン スイッチが“LOCK”のとき運転席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- 次のような場合は、ただちに消灯します。
 - ・すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたとき
 - ・エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にして、すべてのドアを閉めたとき
 - ・すべてのドアを閉め、運転席ドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.400の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能 (P.99参照)

エンジン スイッチにキーが差し込まれていないとき、いずれかのドア（バックドアを除く）が開いた状態で、ルームランプ（DOORのとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。



 知識**施錠・解錠について**

次の方法で施錠・解錠することもできます。

P.138「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠・解錠については、それぞれ次のような効果がありますので選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- 同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用とあわせて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

- 万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを停止して施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

目次

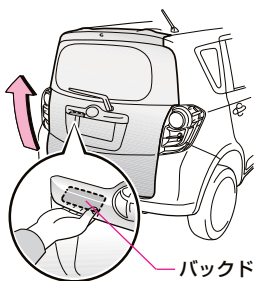

警告基本
操作運転
装置
の
取
り
扱
い室内
装
備
の
取
り
扱
い安全・快適
装備
の
解
説
と
注
意車
上
の
取
扱
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

バックドアの開閉

(P.100参照)

● 開閉のしかた

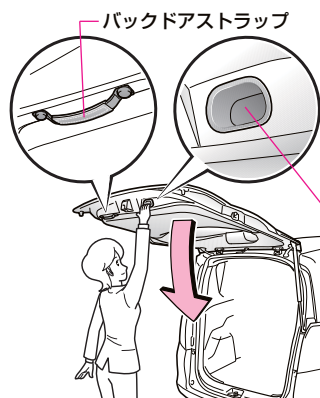
■ 開けるときは



バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げます。

- バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。
- バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■ 閉めるときは



1 バックドアを外から押せる高さまで降ろします。

バックドアグリップを使用すると便利です。

- バックドアグリップまで手がとどかない場合は、バックドアスト랩を使用すると便利です。

2 バックドアを外から押してロックします。

バックドアグリップ、またはバックドアスト랩を持ったまま直接バックドアを閉めないでください。

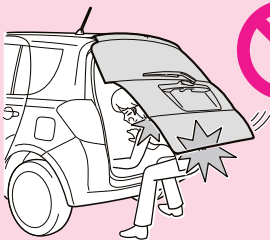


スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。



走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

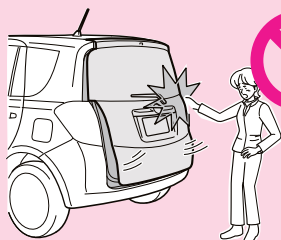
- 走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せているときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
 - ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
 - バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
 - バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
 - 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

**警告**

走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。



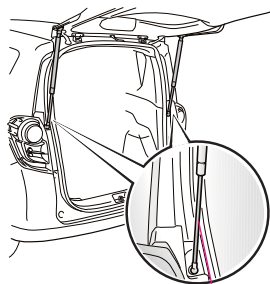
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

**注意**

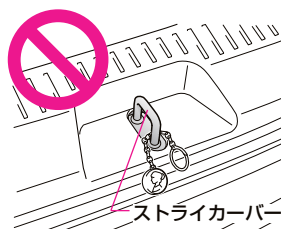
バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

- バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください
 - ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させないでください。
 - ロッド部を軍手などで触れないでください。
 - バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けないでください。
 - ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。



ダンパーステー

- バックドアを閉めるときは、ストライカーバーに異物をかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



ストライカーバー

知識

施錠・解錠について

次の方法で施錠・解錠することができます。

P.128「キーでの施錠・解錠のしかた」、P.129「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」、P.138「ワイヤレスドアロックリモコンの使い方」を参照してください。

初期設定について

車両のバッテリー交換やヒューズ交換などで、車両と車両バッテリーとの接続が断たれたときは、バックドアの初期設定をしてください。

バックドアの初期設定がされていないと、バックドアオープンスイッチでバックドアを開けることができません。

■初期設定のしかた

次のいずれかの方法でバックドアの解錠操作をしてください。

- ワイヤレスドアロックリモコンで解錠する。(P.138参照)
- ドアロックスイッチで解錠する。(P.129参照)
- 運転席ドアにキーを差し込んで解錠する。(P.128参照)

目次

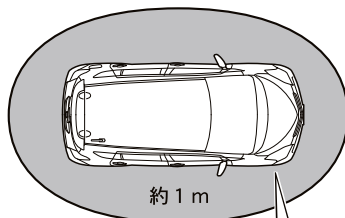
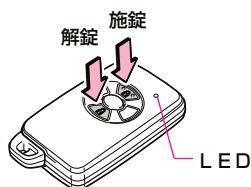
警告

基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備
の
説
明
と
注
意車
上
の
取
扱
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

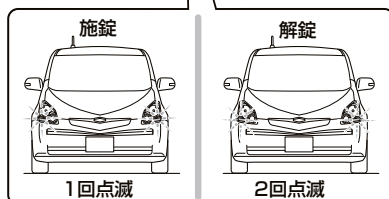
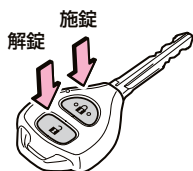
索引

ワイヤレスドアロックリモコンの使い方

電子キー



ワイヤレスドアロックリモコンキー



電子キー

- ①スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
- ②スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。※
- スイッチを押すとキーのLEDが点灯します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- 施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

ワイヤレスドアロックリモコンキー

- ①スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が施錠されます。
- ②スイッチを押すとすべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅します。※
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅します。※
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
- 施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.400の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

**注意**

リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となります。

- リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。
 - ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
 - 分解しないでください。
 - 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - 水にぬらさないでください。
- リモコンスイッチは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
 - 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - 必ず日本国内でご使用ください。

**知識****作動条件について**

- ワイヤレスドアロックリモコンは周囲の状況により作動可能距離が変わることがあります。確実に作動させるためには、車両から約1mまで近付いて操作してください。
- ワイヤレスリモコンは、微弱な電波を使用しているため、状況によっては正常に作動しない場合があります。詳しくは93ページを参照してください。
- バックドアガラスに次のものを貼り付けると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
 - ・ 金属を含有するウインドウフィルム
 - ・ その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
-  スイッチはいずれかのドア（バックドアを含む）が開いているときは作動しません。スマートエントリー & スタートシステム装着車は、半ドア警報（P.117参照）が鳴ります。
-  スイッチ、 スイッチを押し続けてもドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押し直してください。
-  スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。※

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.400の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- リモコンスイッチは、エンジン スイッチにキーが差し込まれているときは作動しません。

便利機能について

(P.99参照)

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの解錠・施錠と連動して、ルームランプ（DOORの位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくはP.132を参照してください。





知識

電池交換について

リモコンスイッチを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合、またはLEDが暗くなったり、点灯しなくなった場合（電子キーのみ）、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

●電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが（P.361、363参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キー、ワイヤレスドアロックリモコンキーを持ち込む場合は、航空機内で電子キー、ワイヤレスドアロックリモコンキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

紛失について

キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

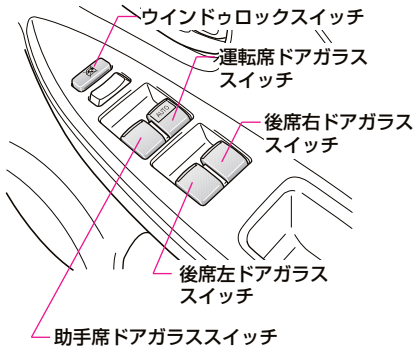
使用個数について

電子キー、ワイヤレスドアロックリモコンキーは、同じ車両で最大4個まで使用することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

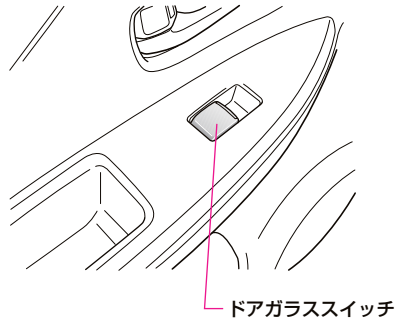
ドアガラスの開閉

● パワーウィンドウの使い方

運転席スイッチ



助手席スイッチ、後席スイッチ



運転席スイッチでは、すべてのドアガラスの開閉が行えます。
助手席スイッチ、後席スイッチでは、自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押ししている間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ ドアガラスの自動開閉のしかた

運転席ドアガラス

- 全開するときには、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
- 全閉するときには、スイッチを上にな強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。ただし、ウインドゥロックスイッチがONになっているときは、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのときは、運転席ドアガラススイッチのAUTOの文字が点灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スwitchが “ON” のとき使用できます。

ただし、ウインドゥロックスイッチがONになっているときは、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは作動しません。

- エンジン スwitchが “ON” のときは、運転席ドアガラススイッチのAUTOの文字が点灯します。

安全機能について

挟み込み防止機構

運転席ドアガラス

運転席ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き止まります。

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

キーOFF後作動機能

運転席ドアガラス

<スマートエントリー & スタートシステム装着車>

運転席ドアガラスは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードからアクセサリモード、またはOFFにしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

- キーOFF後作動が機能している間は、運転席ドアガラススイッチのAUTOの文字が点灯します。

<スマートエントリー & スタートシステム非装着車>

運転席ドアガラスは、エンジン スwitchを “ON” から “ACC” または “LOCK” にしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

- キーOFF後作動が機能している間は、運転席ドアガラススイッチのAUTOの文字が点灯します。

● ウインドウロックスイッチの使い方

ウインドウロックスイッチを押すごとに、ONとOFFに切り替わります。スイッチをONにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウィンドウは作動しません。

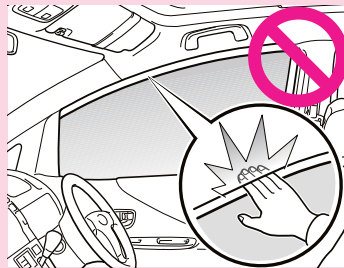
ウインドウ ロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席スイッチ、 後席スイッチ
ON 	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
OFF 	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。



警告

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたり急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこまれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。





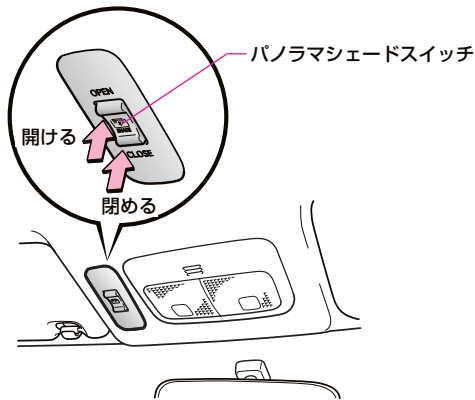
注意

運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けしないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。

パノラマルーフのシェードの開閉★

開閉のしかた



■開けるときは

スイッチのOPEN側を押すと、自動で開きます。

- 作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。
- スイッチを押し、すぐに手を離すと、シェードを少し開けることができます。

■閉めるときは

スイッチのCLOSE側を押すと、自動で全閉します。

- 作動を途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。
- スイッチを押し、すぐに手を離すと、シェードを少し閉めることができます。



警告

パノラマルーフのシェードを閉めるときは、ほかの人の手・頭などを挟まないように注意してください。

- パノラマルーフのシェードを閉めるときは、ほかの人の手・頭などを挟まないように注意してください。シェードに挟まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにパノラマルーフのシェードの操作をさせないでください。閉めるとき手・頭などを挟んだりして重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。

- 挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。
- パノラマルーフのシェードを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。
- パノラマルーフのシェードが全開、全閉したあとにスイッチを押し続けしないでください。シェードの故障の原因となります。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

安全機能について

挟み込み防止機構

パノラマルーフのシェードを閉めるときに、窓枠とシェードの間に異物の挟み込みを感知すると、シェードが閉まる作動を停止し、自動で少し開き止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がシェードに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

初期設定について

パノラマルーフのシェードの開閉中にヒューズ切れや、バッテリー上がりなどがおきたときは、パノラマルーフのシェードの初期設定を行ってください。

●初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- パノラマルーフのシェードの自動開閉
- 挟み込み防止機構

■初期設定のしかた

スマートエントリー & スタートシステム装着車

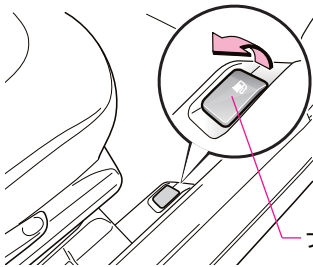
- 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにします。
- 2 パノラマルーフのシェードが全開の位置になるまで、スイッチのOPEN側を押し続けます。
- 3 パノラマルーフのシェードが全開になると、少し閉まる方向へ動き停止し、初期設定が完了します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- 1 エンジン スイッチを“ON”にします。
- 2 パノラマルーフのシェードが全開の位置になるまで、スイッチのOPEN側を押し続けます。
- 3 パノラマルーフのシェードが全開になると、少し閉まる方向へ動き停止し、初期設定が完了します。

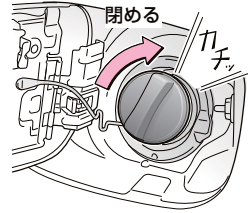
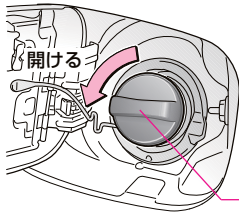
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

● フューエルリッドの開閉



運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（）を引くと開きます。
閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

● フューエルキャップの開閉



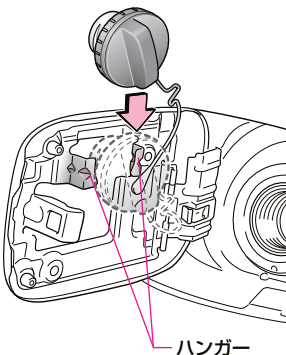
■開けるとき

キャップのツマミ部分を持ち、左にまわして開けます。

■閉めるとき

キャップのツマミ部分を持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

● フューエルキャップの置き場所



給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

- 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
 - ・エンジンは必ず停止してください。
 - ・車のドア、窓は閉めてください。
 - ・タバコなど火気を近付けないでください。
 - ・フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、やけどをするおそれがあります。
 - ・フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめた時に“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
 - ・給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人や物にふれないでください。（再帯電することがあります。）
 - ・給油口には静電気除去を行った方以外の人を近付けないでください。
 - ・給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
 - ・給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
 - ・車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
 - ・その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。
- 給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

**注意****指定以外の燃料を使用しないでください。**

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
- フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。

**知識****フューエルリッドの位置について**

フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約42Lです。

目次



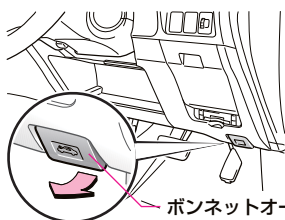
警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

ボンネットの開閉

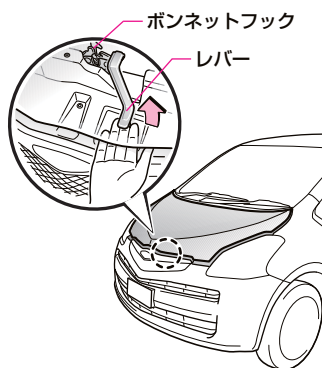
開け方



ボンネットオープナー

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

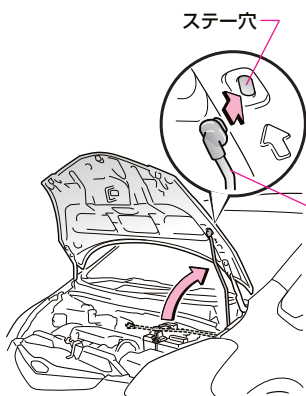


ボンネットフック

レバー

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして持ち上げます。



ステー穴

3 ボンネットステーを差し込みます。

ボンネットステーをステー穴に差し込んでボンネットを支えます。

ボンネットステー

● 閉め方

1 ボンネットステーをはずし固定します。

2 ボンネットを静かに降ろします。

3 ボンネットを閉めます。

ボンネットの前端を両手で押さえつけロックします。

4 ロックされていることを確認します。

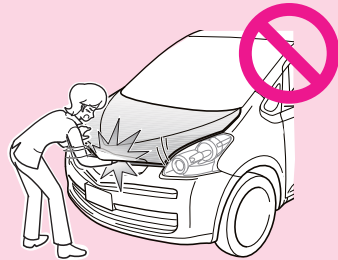
ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。



警告

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



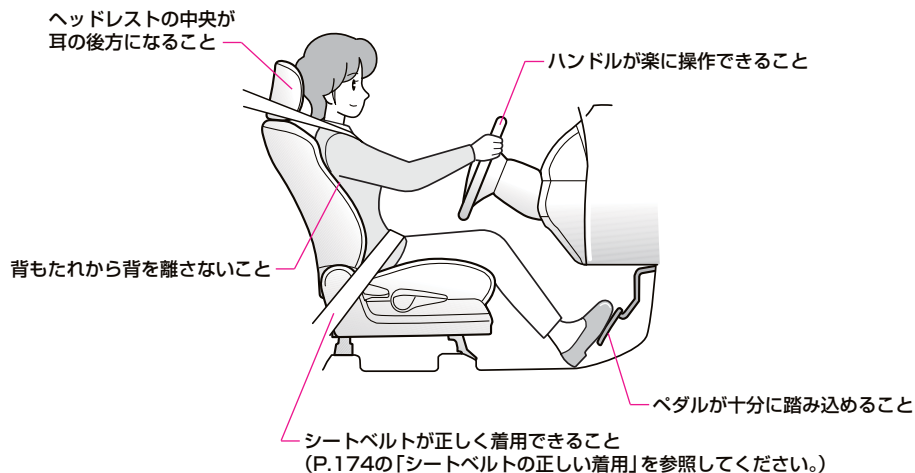
注意

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして必要以上に強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。



警告

走行中はシートの調整をしないでください。

- 走行中はシートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- 背もたれと背中の上にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告

走行中はシートの調整をしないでください。

- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってぶくらし重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けしないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部をおおうと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。
 - ・フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取り付け・取りはずし・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
 - ・フロントシート側面などSRSサイドエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



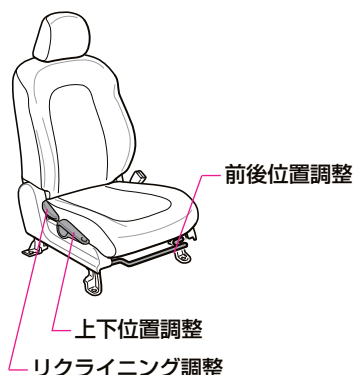
注意

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

- シートを調整するときは、同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けしないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。

フロントシートの調整

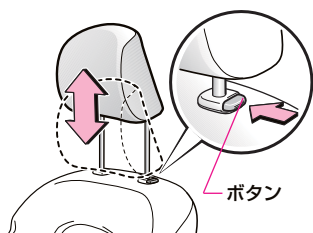
● シートの調整のしかた



※ シートの形状はグレード等により上記のイラストと異なる場合があります。

調整箇所	レバー	操作
前後位置調整		レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。
上下位置調整 運転席		レバーを動かして調整します。
リクライニング調整		レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

● ヘッドレストの上下位置調整のしかた



- 上げるときは、そのまま引き上げます。
- 下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

**警告****助手席に荷物を積み重ねたりしないでください。**

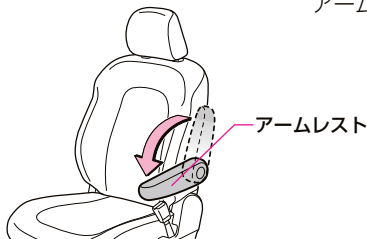
- 助手席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違えて取り付けると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

**注意****背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。**

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。

● アームレストの使い方（アームレスト装着車）

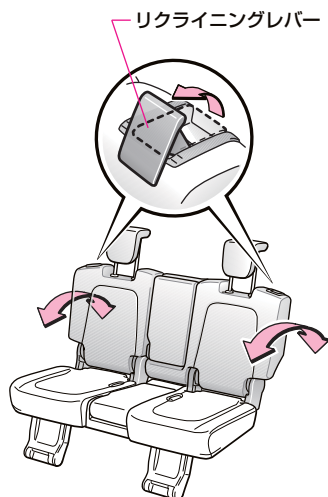
アームレストを一番下まで倒して使用します。



リヤシートの調整

● リクライニング調整のしかた

FF車



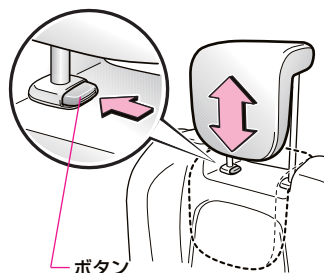
4WD車



リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

●左右に分割されているシートをそれぞれ調整することができます。

● ヘッドレストの上下位置調整のしかた



- 使用するときは、“カチッ”と音がするところまで引き上げます。
- 下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、背もたれを起こし、ボタンを押したまま引き抜きます。

**警告****後席に荷物を積み重ねたりしないでください。**

- 後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- リヤシートのヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違えて取り付けると、固定することができず、衝突したときなどにけがをするおそれがあります。

**注意****背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。**

- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 背もたれの調整をするときは、リクライニングレバーをいっぱいまで引き上げたまま背もたれを調整してください。レバーをいっぱいまで引き上げずに調整すると、リクライニング機構の故障の原因となります。
- リヤシートをリクライニングさせるときは、ラゲージルーム内にある荷物に当たらないようにしてください。荷物を損傷するおそれがあります。

目次



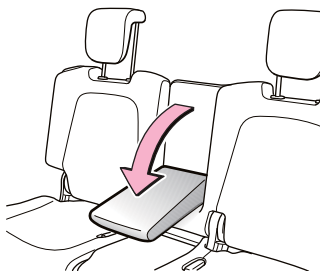
警告

基本
操作運
転
取
扱
の
方
法室
内
装
備
の
取
扱
方
法安全・快適
装備の
解説と
注意車
上
の
取
扱
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

● アームレストの使い方

FF車

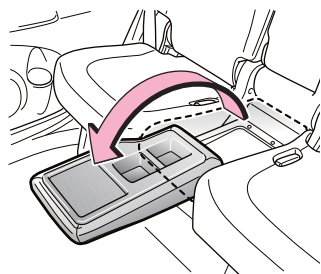
使用するときには、手前に倒します。
●使用しないときはシートに格納してください。



● リヤセンターマルチトレイの使い方

FF車★

使用するときには、手前に起こします。
●使用しないときはクッションに格納してください。



警告

走行中は、トレイを使用しないでください。

- 走行中はトレイを使用しないでください。トレイの上に物を置いたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどに物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トレイを引き上げるとき、およびもとにもどすときは指などを挟まないように注意してください。



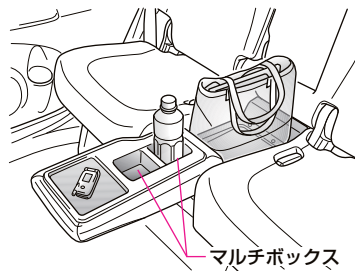
注意

トレイの上に乘ったり、重い物を置くなど無理な力をかけないでください。破損や変形の原因となります。

知識

リヤセンターマルチトレイについて

トレイを荷物置き場やマルチボックスとして使用できます。



目次

警告

基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

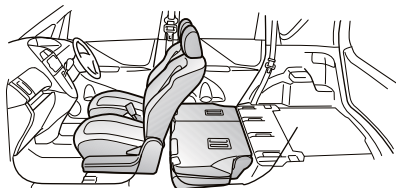
シートアレンジ

インデックス

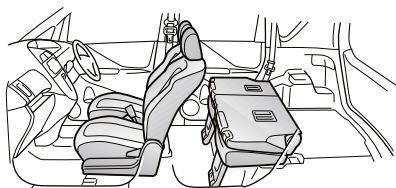
シートアレンジは、それぞれの説明ページをよくお読みになってから行ってください。

ラクティスのシートは次のようにして使用できます。

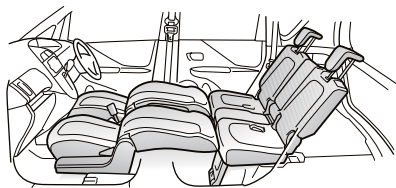
FF車



シートを格納するP.163



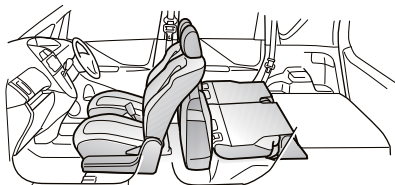
背もたれを前倒しするP.171



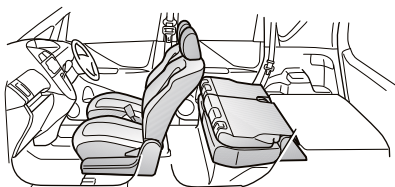
フラットシートにするP.174

※ フロントシートの形状はグレード等により上記のイラストと異なる場合があります。

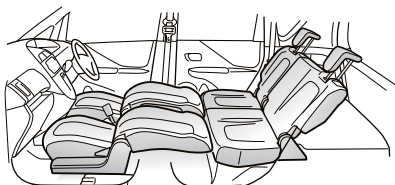
4WD車



クッションを引き起こし
背もたれを前倒する ……………P.168



背もたれを前倒する ……………P.171



フラットシートにする ……………P.174

※ フロントシートの形状はグレード等により上記のイラストと異なる場合があります。

● シートアレンジをする前に

車両を安全で平坦な場所に駐車し、シフトレバーを②に入れ、パーキングブレーキを確実にかけます。



警告

シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけて、シフトレバーを②に入れてください。

- シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを②に入れてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

シートを操作するときは、同乗者や荷物に当たらないように注意してください。

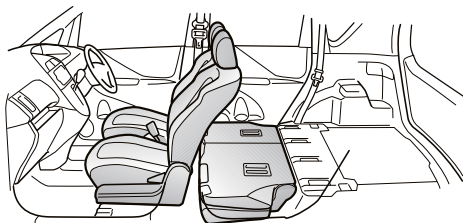
- シートを操作するときは、同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを操作するときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足を近付けないでください。指や手、足などを挟みけがをするおそれがあります。

シートを格納する

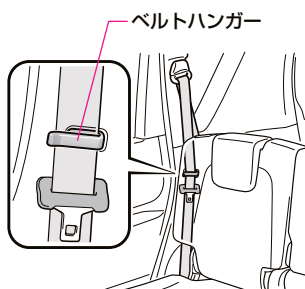


左右に分割されているリヤシートをそれぞれ格納することができます。

FF車

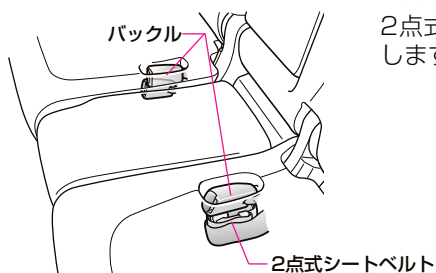


● 格納するときは



1 シートベルトをベルトハンガーにかけます。

背もたれを倒すときに巻き込まないように、シートベルトをベルトハンガーにかけます。



2 2点式シートベルト、バックルを格納します。

2点式シートベルト、バックルをポケットに格納します。(P.182参照)

目次

警告

基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

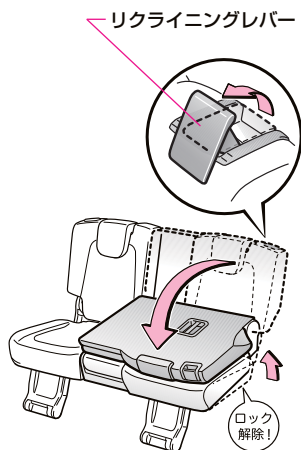
索
引

3 ヘッドレストをいちばん下にします。
(P.154参照)

4 中央席のアームレストとリヤセンターマルチトレイはもとにもどしておきます。(P.158参照)

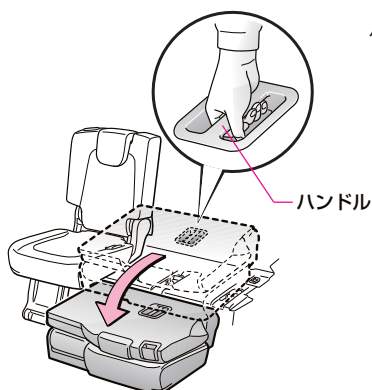
5 シート格納部周辺に荷物などが置いていないことを確認します。

6 フロントシートを前方に移動させます。(P.154参照)



7 背もたれを前方に倒します。
リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを前方に倒します。
●背もたれを前方に倒すと同時に、シートクッションのロックが解除されクッション後部が持ち上がります。

8 シートを格納します。
ハンドルを持ちながらシート全体を斜め前方に押してシートを格納します。

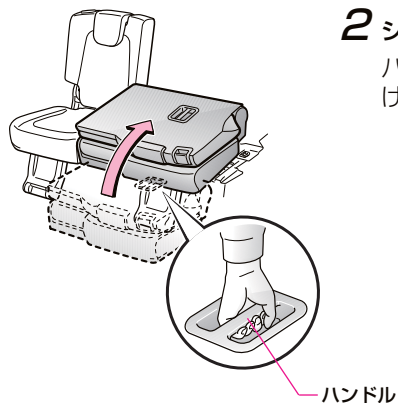


● もどすときは

1 シート固定部周辺に荷物などがないことを確認します。

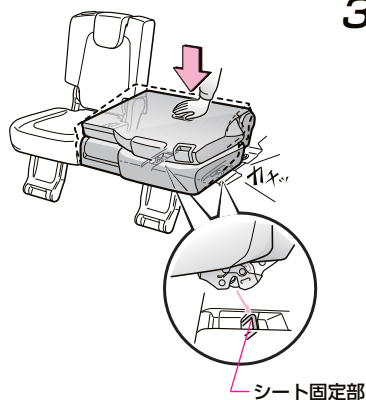
2 シートを持ち上げます。

ハンドルを持ってシート全体を斜め後方へ持ち上げます。



3 シートを固定します。

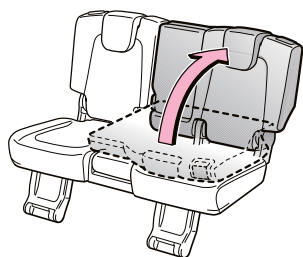
シート固定部にシート後部を押し下げてシートをロックさせます。



目次

警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メ
ン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引



4 背もたれを起こします。

5 固定されていることを確認します。

背もたれを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部が確実に固定されていることを確認します。

警告

シートは確実に固定されていないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- シートを取り付けたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部が確実に固定されていること確認してください。確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを格納するときは必ずハンドルを持って操作してください。ハンドル以外の場所を持って格納すると、シートと床との間などに挟まりけがをするおそれがあり危険です。
- 運転席側リヤシートを格納したときのリヤシートの乗車定員は1名です。中央席には絶対にすわらないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを収納するときはシートなどで手や足やほかの乗員の体を挟まないように注意してください。けがをするおそれがあり危険です。
- シートを格納したあとで、背もたれのみを起こして座らないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意**

シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを収納しないでください。

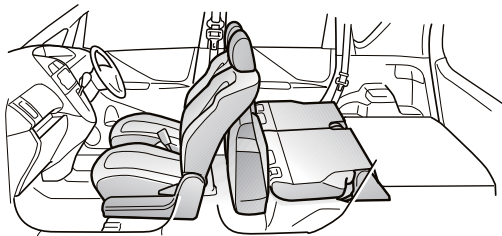
- シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを収納しないでください。荷物をのせたまま収納するとシートが破損するおそれがあります。
- シートを収納するときは床下に物がないことを確認してください。物がある状態でシートを収納すると、シートが破損するおそれがあります。
- シートをもどすときは、シートとシート固定部の間に手や足を挟まないように注意してください。
- シートをもどすときは床面に物がないことを確認してください。物がある状態でシートをもとにもどすと、シート固定部などを破損するおそれがあります。

クッションを引き起こして背もたれを前倒しする

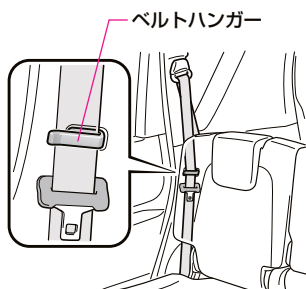


左右に分割されているリヤシートのクッションを引き起こして、背もたれを前倒しすることができます。

4WD車



● 格納するときは

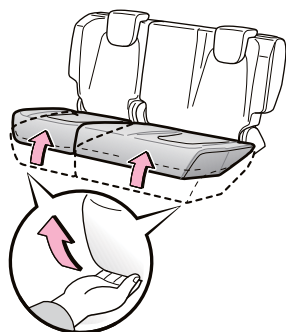


1 シートベルトをベルトハンガーにかけます。

背もたれを倒すときに巻き込まないように、シートベルトをベルトハンガーにかけます。

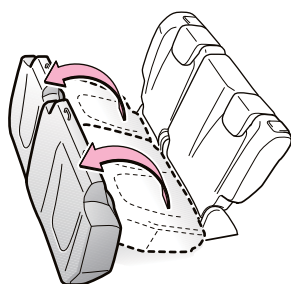
2 ヘッドレストをいちばん下にします。 (P.154参照)

3 フロントシートを前方に移動させます。(P.154参照)



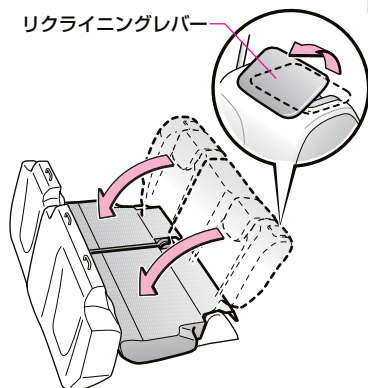
4 シートクッション前端を持ち上げます。

シート両端の裏側に手を掛けて、シートクッション前端を持ち上げます。



5 シートクッションを前方に引き起こします。

リクライニングレバー



6 背もたれを倒します。

リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを倒します。

● もどすときは

1 背もたれを起こします。

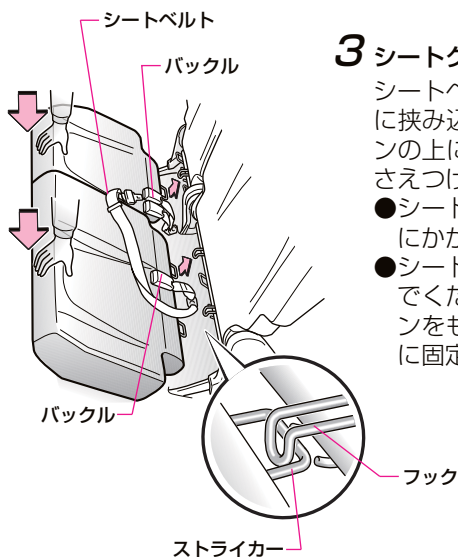
背もたれをいったん固定される位置まで起こします。

2 シートクッションを後方へもどします。

3 シートクッションを固定します。

シートベルト、バックルがシートクッションの下に挟み込んだ状態にしないようにシートクッションの上に出しておき、シートクッション前端を押さえつけます。

- シートクッション下側のストライカーがフックにかかり、シートクッションが固定されます。
- シートクッションの土台部分にものを置かないでください。ものがある状態でシートクッションをもとにもどすと、シートクッションが確実に固定されません。



4 背もたれの位置を調整します。

リクライニングレバーを引き上げたまま、背もたれの位置を調整します。

5 固定されていることを確認します。

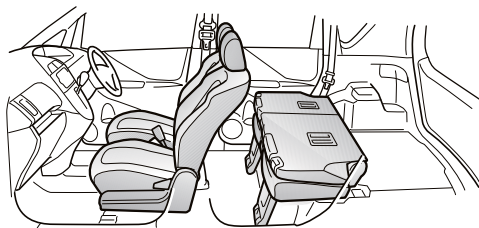
背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

背もたれを前倒しする

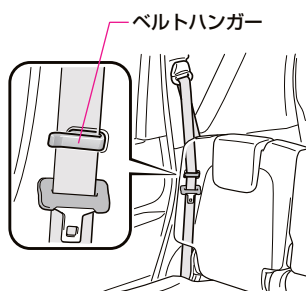


左右に分割されているリヤシートの背もたれを前倒しすることができます。

FF車

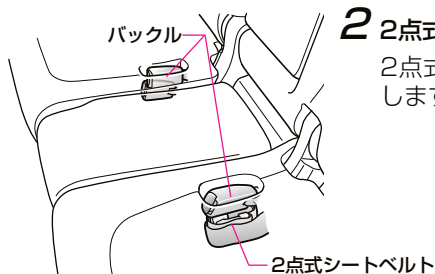


格納するときは



1 シートベルトをベルトハンガーにかけます。

背もたれを倒すときに巻き込まないように、シートベルトをベルトハンガーにかけます。



2 2点式シートベルト、バックルを格納します。

2点式シートベルト、バックルをポケットに格納します。

3 ヘッドレストをいちばん下にします。

(P.154参照)

4 中央席のアームレストとリヤセンターマルチトレイはもとにもどしておきます。(P.158参照)

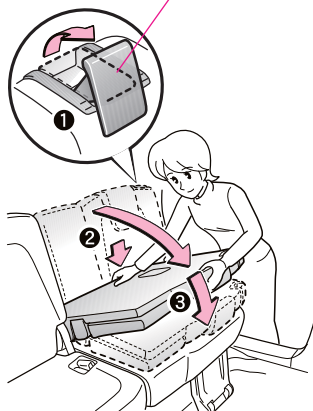
目次

警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
い安全・快適装
備の解説と注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

リクライニングレバー



5 フロントシートを前方に移動させます。(P.154 参照)

6 シートクッション後部を押さえながら背もたれを前倒しします。

リクライニングレバーを引き上げ(①)、シートクッション後部を押さえながら(②)背もたれを前方に倒します(③)。

●シートクッション後部を押さええていないと、背もたれを前方に倒すと同時に、シートクッションのロックが解除されシート後部が持ち上がります。

7 固定されていることを確認します。

背もたれを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部のロックが解除されていないことを確認します。

● もどすときは

1 背もたれを起こします。

背もたれをいったん固定される位置まで起こします。

2 背もたれの位置を調整します。

リクライニングレバーを引き上げ、背もたれの位置を調整します。

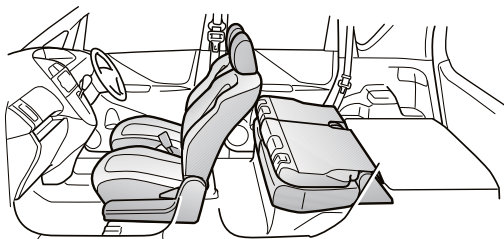
3 固定されていることを確認します。

背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

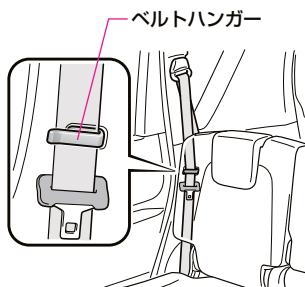


シートを前倒ししたときは、シートを軽くゆさぶり、さらにシートクッション後部を持ち上げ、シート固定部のロックが解除されていないことを確認してください。ロックが解除されていると、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

4WD車



● 格納するときは

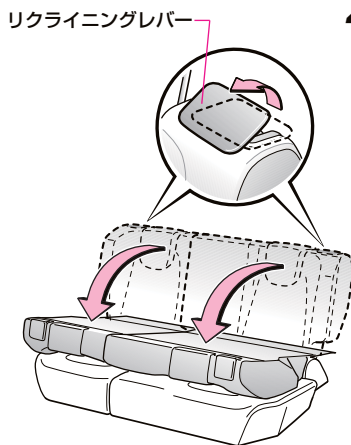


1 シートベルトをベルトハンガーにかけます。
背もたれを倒すときに巻き込まないように、シートベルトをベルトハンガーにかけます。

2 ヘッドレストをいちばん下にします。
(P.154参照)

3 フロントシートを前方に移動させます。(P.154参照)

4 背もたれを倒します。
リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを倒します。



● もどすときは

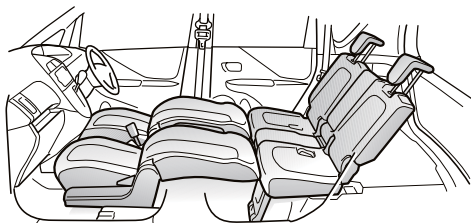
逆の手順で行います。

フラットシートにする

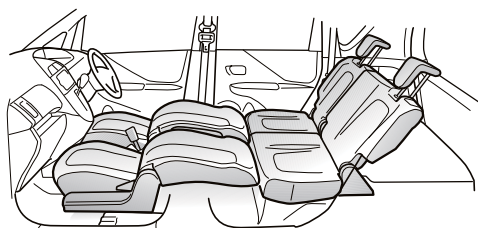


フロントシートとリヤシートの組み合わせでフラットシートにすることができます。

F F車



4WD車



● フラットシートにするときは

- 1 フロントシートのヘッドレストを取りはずします。(P.154参照)
- 2 フロントシートをいちばん前に移動させます。(P.154参照)
- 3 フロントシートの背もたれをセカンドシートとの段差がなくなるまで後方に倒します。(P.154参照)

● もどすときは

逆の手順で行います。



警告

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

- フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラットにしたときまたはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されたことを確認してください。固定されていないと、シートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 走行中はフラット操作をしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートの間に足を挟むなどしてけがをするおそれがあり危険です。
- シートに人が乗っている状態ではフラット操作をしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあり危険です。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

肩部ベルト

肩に十分かけること

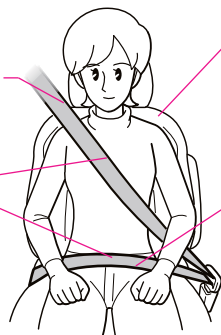
(首にかかったり肩からはずれないこと)

背もたれを調整し、上体を起こし
深く腰かけて座ること

ねじれていないこと

腰部ベルト

必ず腰骨のできるだけ低い位置
に密着させること



警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶついたり、ふくらむS R Sエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢についてはP.152を参照してください。
- ・肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
- ・腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると衝突したとき、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ・シートベルトはねじれないように着用してください。ねじれていると衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
- ・シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
- ・リヤ3点式シートベルトを使用するときは、ベルトハンガーにシートベルトがかかっていないことを確認してください。

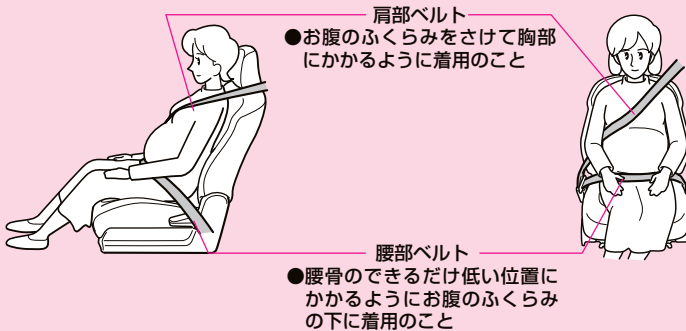
ベルトハンガーにシートベルトがかかっていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ・シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。

**警告**

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- ・ シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- ・ ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近付いて運転しないでください。
- シートベルトやプレートシートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷付いた場合、十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)
- ・ 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ・ ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)

目次

警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意
事
項車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引



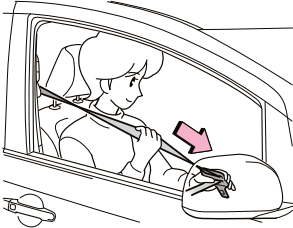
必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。なお、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの取り付け・取りはずし、交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

シートベルトの着用のしかた

3点式シートベルト

フロントシート、リヤシート左右席



1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認してください。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。

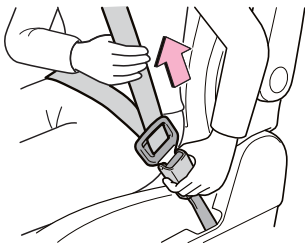
プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

<スマートエントリー & スタートシステム装着車の場合>

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯 (P.228、243参照) が消灯したことを確認してください。

<スマートエントリー & スタートシステム非装着車の場合>

エンジン スイッチが“ON”のとき、フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯 (P.228、243参照) が消灯したことを確認してください。



3 腰部ベルトを密着させます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。



4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。

目次

警告

 基本
操作

 運転
装置

 室内
装備

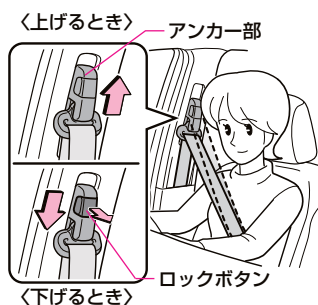
 安全・
快適
装備

 車と
上手
な

メンテナンス

万一のとき

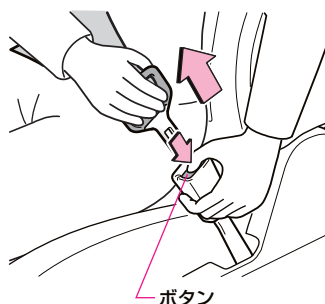
索引



5 ベルトの高さを調整します。

フロントシートでは、アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 上げるときは、アンカー部を持ち、そのまま動かします。
- 下げるときは、ロックボタンを引いたままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。



6 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。



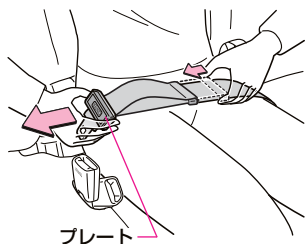
警告

ショルダーベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

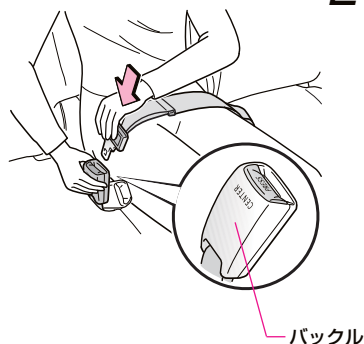
2点式シートベルト

リヤシート中央席



1 ベルトの長さを調整します。

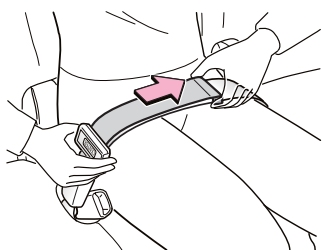
プレートを引き、ベルトを必要な長さより少し長めにします。



2 ベルトを結合します。

ベルトにねじれがないようにし、プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

●プレートとバックルに「CENTER」の刻印があるものどうして接続してください。「CENTER」の刻印があるものとなないものでは接続されません。



3 ベルトを密着させます。

ベルトを引いて必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

4 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。

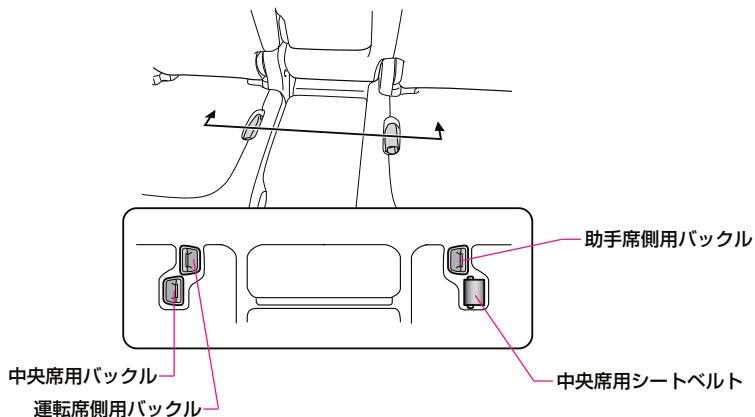
はずしたベルトはバックルにはめておいてください。

リヤシートベルトの収納について

FF車

シートベルト・バックルは下図のように収納してください。

●中央席用シートベルトはベルトを巻いてから収納してください。



チャイルドシートの固定

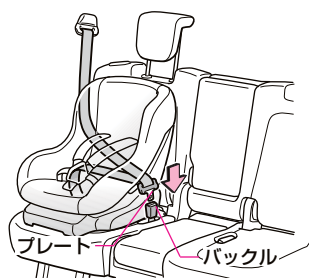
シートベルトでの固定



リヤシート3点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。引き出し方向にベルトが動かないようにするため、チャイルドシート、ベビーシートの取り付け時に便利です。

リヤシート左右席

チャイルドシート固定機構の使い方



1 リヤシートをリクライニングさせているときは起こします。(P.156参照)

2 シートベルトを取り付けます。

チャイルドシート・ベビーシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。

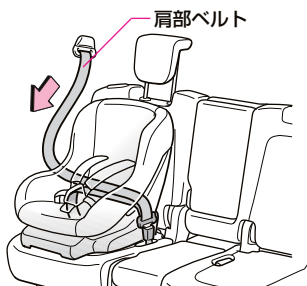
- シートの背もたれおよびシートクッションと、チャイルドシート・ベビーシートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取り付けてください。

- 取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

3 肩部ベルトを引き出します。

肩部ベルトを止まるまでゆっくりと最後までいっぱい引き出します。

- 巻き取る方向のみ作動（ロックモード）します。



4 肩部ベルトを巻き取らせませす。

チャイルドシート・ベビーシートに体重をかけて、リヤシートに押さえつけながら、ベルトのたるみがなくなるまで肩部ベルトを巻き取らせませす。

- ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。

5 確実に固定されていることを確認します。

チャイルドシート・ベビーシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

※イラストは説明のためのものであり、実際のチャイルドシート・ベビーシートの形状とは異なります。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転
取扱い
装置の

室内
取扱い
装備の

安全・快適
解説と
注意
装備

車との
付き
合い
方法

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

●チャイルドシート固定機構の解除

バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除されます。



チャイルドシート・ベビーシートの取り付けは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- 正しく取り付けられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをチャイルドシート固定機構付シートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで誤って作動させ、万一、ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり窒息など、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
万一、誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。



- チャイルドシート・ベビーシートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・車両にチャイルドシート・ベビーシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。チャイルドシート・ベビーシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
 - ・チャイルドシート・ベビーシートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



知識

チャイルドシート固定機構付シートベルトについて

シートベルトを着用した状態で上体の大きな動きをしたときに、チャイルドシート固定機構が作動する場合があります。その場合、一度バックルをはずし、ベルトをいっぱいまで巻き取らせてチャイルドシート固定機構を解除してから、再度シートベルトを着用してください。

道路運送車両の保安基準に適合するISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシートは、ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

(ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーについては次ページの「ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。)

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

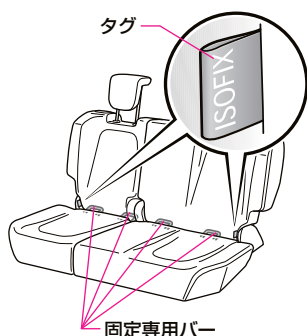
ISO※FIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーでの固定



ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーには、ラクティス指定の道路運送車両の保安基準に適合するISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシートのみ取り付けすることができます。お子さまに最適な子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。

リヤシート左右席

ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーの取り付け位置



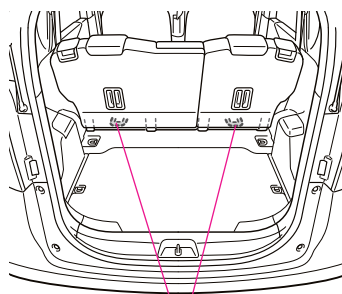
シートクッションと背もたれの間にあります。

●固定専用バーが装備されていることを示すタグ（表面「ISOFIX」、裏面「LATCH」）がシートに付いています。

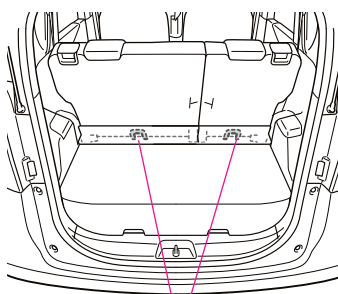
トップテザーアンカーの取り付け位置

リヤシートうしろ側にあります。

FF車



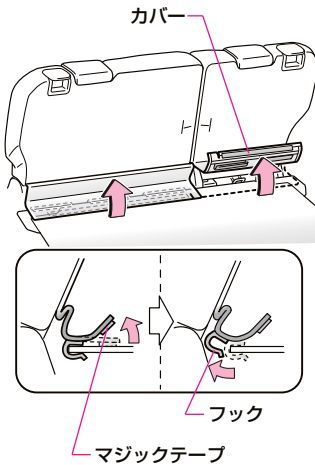
4WD車



※ International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味

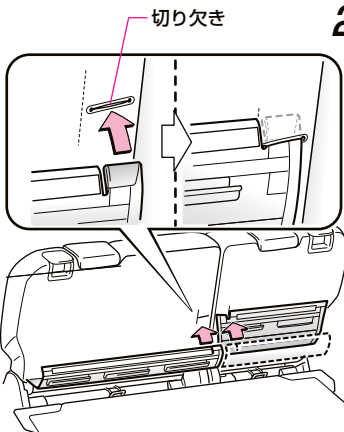
● トップテザーアンカーの出し方

4WD車



1 カバーをめくります。

マジックテープをはがして、フック（運転席側1ヶ所／助手席側2ヶ所）をはずしカバーをめくり
ます。



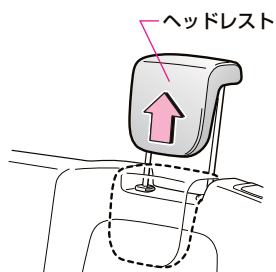
2 カバーを固定します。

カバーの端を背もたれ背面にある切り欠きに差し
込み固定します。

■もとにもどすときは
逆の手順で行います。

● 取り付けるときは

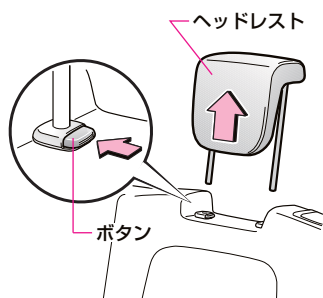
1 ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーの位置を確認します。
(P.186参照)



2 ヘッドレストを調整します。

チャイルドシート・ベビーシートをお子さまがうしろを向くように取り付ける場合は、ヘッドレストを“カチッ”と音がするところまで引き上げます。

ヘッドレストが固定されていることを確認してください。



チャイルドシート・ベビーシートをお子さまが前を向くように取り付ける場合は、リヤシートのヘッドレストを取りはずします。

ボタンを押したまま引き抜きます。

3 チャイルドシート・ベビーシートをリヤシートに取り付けます。

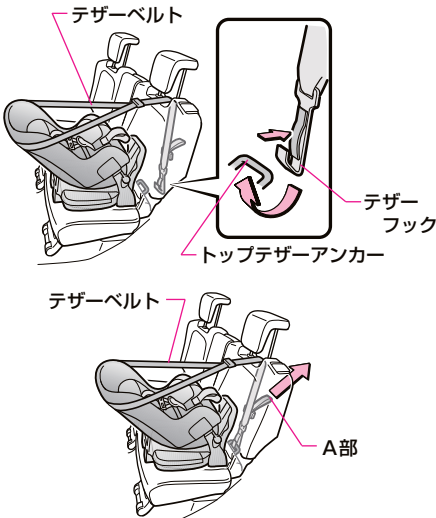
適合するチャイルドシート・ベビーシートの取り付け金具をISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーに連結して取り付けます。

※取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

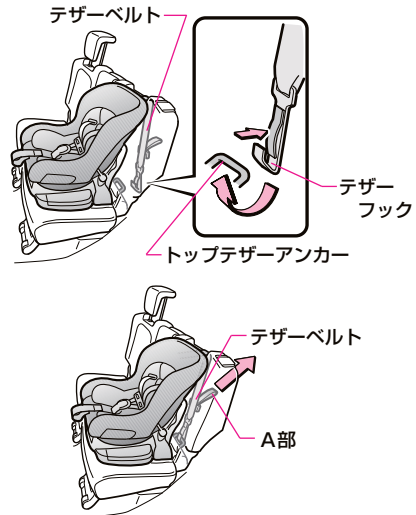
- シートの背もたれおよびシートクッションと、チャイルドシート・ベビーシートとの間にすき間ができないように、シートの背もたれの角度を調整してから取り付けてください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、テザーベルトがねじれないようにヘッドレストの間に通し、テザーフックをトップテザーアンカーにかけます。
- テザーベルトがピンと張るまでA部を強く引っ張って、チャイルドシート・ベビーシートを固定します。

■子供専用シートの取り付け例

ベビーシート



チャイルドシート



※イラストは説明のためのものであり、実際のチャイルドシート・ベビーシートの形状とは異なります。

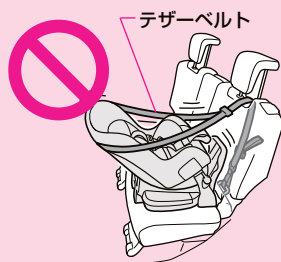
4 確実に固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシート・ベビーシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

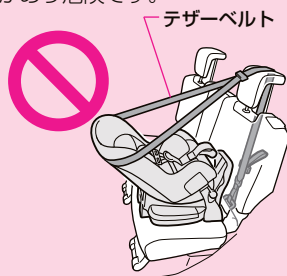


チャイルドシート・ベビーシートが固定されていることを必ず確認してください。

- チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシート・ベビーシートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上かけると、チャイルドシート・ベビーシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



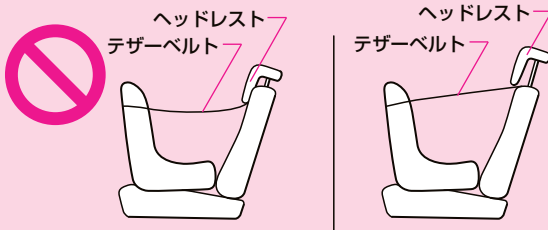


警告

トップテザーアンカーでチャイルドシート・ベビーシートを固定するときは、次のことをお守りください。

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシート・ベビーシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシート・ベビーシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- チャイルドシート・ベビーシートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・車両にチャイルドシート・ベビーシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。チャイルドシート・ベビーシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- ・チャイルドシート・ベビーシートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
扱
い

室
内
装
備
の
取
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

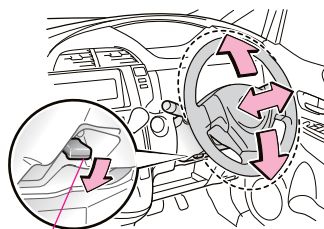
メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

ハンドル、ミラーの調整

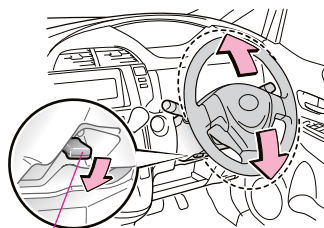
ハンドルの調整



ステアリングレバー

チルト & テレスコピックステアリング装着車

ステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを上下、前後に動かし適切な位置にして、ステアリングレバーを引き上げると固定されます。



ステアリングレバー

チルトステアリング装着車

ステアリングレバーを押し下げ、ハンドルを上下に動かし適切な位置にして、ステアリングレバーを引き上げると固定されます。



警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。



知識

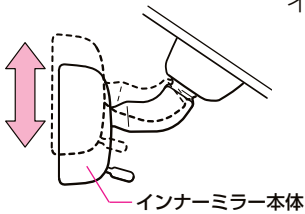
パワーステアリングの作動音について

ハンドル操作を行ったとき、“ウィーン” という音が聞こえることがあります。これは、パワーステアリングが作動しているときの音で異常ではありません。

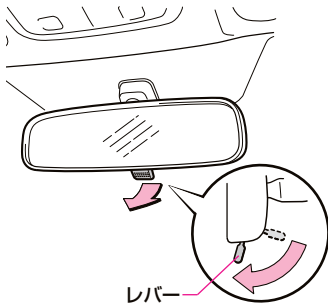
インナーミラーの調整

調整のしかた

インナーミラー本体を持って調整します。



防眩切り替えのしかた



通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。



走行中はインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

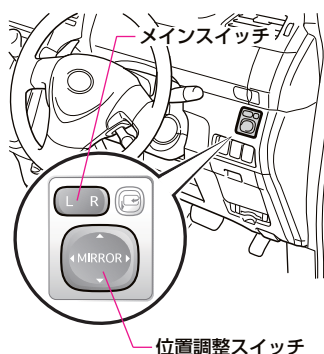
メンテナンス

万一のとき

索引

ドアミラーの調整

● 鏡面角度調整のしかた



1 メインスイッチを調整する側にします。

R…右側ドアミラー

L…左側ドアミラー

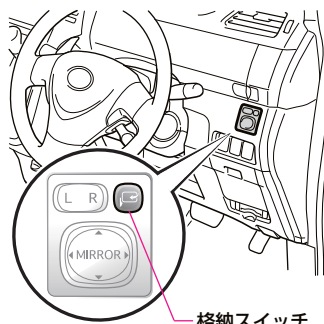
2 角度を調整します。

位置調整スイッチで、ドアミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

● 格納・復帰のしかた



格納スイッチを押すごとに、ON（格納）とOFF（復帰）に切り替わります。

	スイッチの状態	ミラーの状態
ON (格納)		
OFF (復帰)		

スマートエントリー & スタートシステム装着車

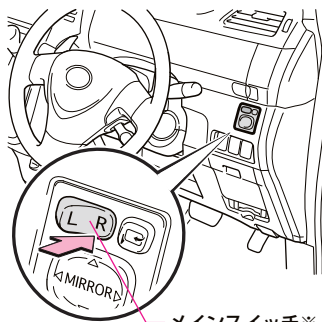
“エンジン スタート ストップ” スイッチがOFFのときは、手で格納・復帰することもできます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“LOCK”のときは、手で格納・復帰することもできます。

● リバース連動下向き機能 ★

後退時に、ドアミラーの角度を下向きにして下方の視界を確保します。



メインスイッチ※

※機能説明のためイラストでは右側(R)ですが、左側(L)でも作動します。

1 メインスイッチを右側(R)または左側(L)にしておきます。

メインスイッチが中立の状態ではリバース連動下向き機能は作動しません。

2 シフトレバーを⑥にします。(202、212ページ参照)

運転席側、助手席側とも同時にドアミラーの角度が下向きになります。



警告

走行中はドアミラーの調整をしないでください。

- 走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

電動格納式ミラー装着車では、ドアミラーが動いているときは手をふれたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

電動格納式ミラーの作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ONモードのとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中に “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手動で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
 - ・手動で操作したあとに “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモード、またはイグニッションONモードにしたとき
- 格納スイッチがOFF（復帰）の状態、手動でドアミラーを前方に倒したときは、 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモード、またはイグニッション ONモードにしてもドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをON（格納）にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが “ACC” または “ON” のとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中にエンジン スイッチを “LOCK” にすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手動で格納・復帰してもドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
 - ・手動で操作したあとにエンジン スイッチを “ACC” または “ON” にしたとき
- 格納スイッチがOFF（復帰）の状態、手動でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを “ACC” または “ON” にしてもドアミラーは復帰しません。
一度格納スイッチをON（格納）にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

知識

リバース連動下向き機能について ★

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ONモードのとき使用できません。
- シフトレバーを⑥にすると運転席側ミラーが約3°、助手席側ミラーが約4° 下を向きます。
- 次のうち、いずれかの操作を行うとミラーがもとの位置にもどります。
 - ・ シフトレバーを⑥以外にする。
 - ・ メインスイッチを中立の位置にする。
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする。

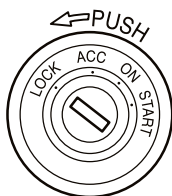
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが “ON” のとき使用できます。
- シフトレバーを⑥にすると運転席側ミラーが約3°、助手席側ミラーが約4° 下を向きます。
- 次のうち、いずれかの操作を行うとミラーがもとの位置にもどります。
 - ・ シフトレバーを⑥以外にする。
 - ・ メインスイッチを中立の位置にする。
 - ・ エンジン スイッチを “ACC” にする。

エンジンのかけ方

エンジン スイッチの切り替え方

 (P.105参照)



エンジン スイッチにキーを差し込み、キーをまわして切り替えます。

●キーを抜くときはキーを “ LOCK ” の位置にしてから引き抜きます。

エンジン スイッチ位置	エンジンの状態	各状態の働き
LOCK	停止	電装品が停止している状態です。 キーの抜き差しができる位置です。 キーを抜くとハンドルがロックされます。
ACC	停止	アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
ON	停止	すべての電装品が使用できます。
	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。
START	始動	エンジンを始動する位置です。 キーを離すと “ ON ” の位置にもどります。

● “ LOCK ” から “ ACC ” にするときは

ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

● “ ACC ” から “ LOCK ” にするときは

シフトレバーをPに入れてから、キーを押しながらまわします。



注意

エンジン停止時は、エンジン スイッチを “ ON ” または “ ACC ” のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。



スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

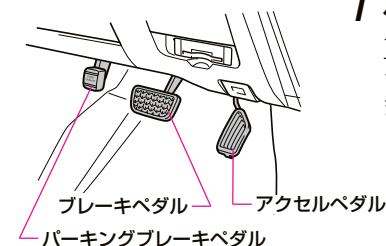
エンジン始動・停止のしかた

 (P.108参照)

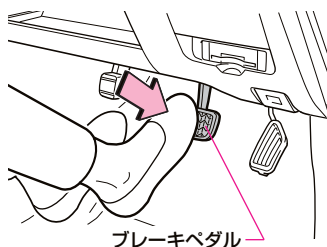
● エンジン始動のしかた

1 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢 (P.152参照) がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。



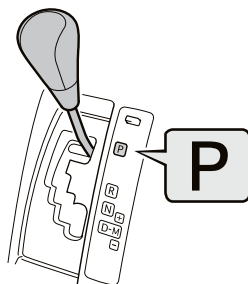
2 ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。



3 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーがPにあることを確認します。

●Nでも始動できますが、安全のためPで行ってください。



4 エンジンを始動します。

アクセルペダルを踏まずに、キーを“START”の位置までまわします。

●エンジン始動操作をしてもエンジンが始動しない場合は、一度キーを“LOCK”の位置にしてから再度エンジン始動操作をしてください。

●クランキングホールド機能 (次ページ参照) が作動します。



 スマートエントリー & スタートシステム装着車にお乗りの方は、参照ページをご覧ください。

目次

 警告
基本操作
早わかり運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

● エンジン停止のしかた

キーを “ ACC ” または “ LOCK ” の位置にまわします。



警告

車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



知識

クランキングホールド機能について

キーを “ START ” の位置にまわしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

エンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンをかけ直してください。

また、途中で作動を停止させる場合は、キーを “ ACC ” または “ LOCK ” の位置にします。

MEMO

目次



基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

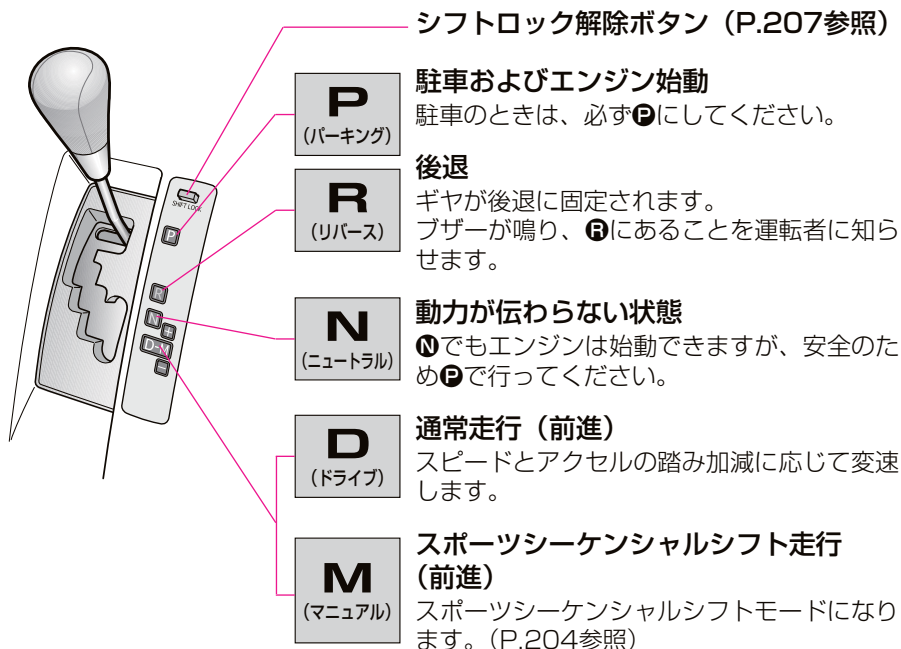
索引

シフトレバーの使い方

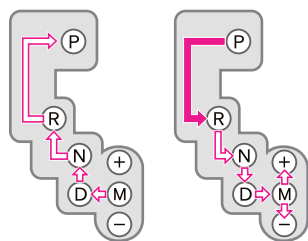
Super C V T - i

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車

シフトレバーの働き



● シフトレバーの取り扱い



●と●の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。



ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。



シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

目次

警告

基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

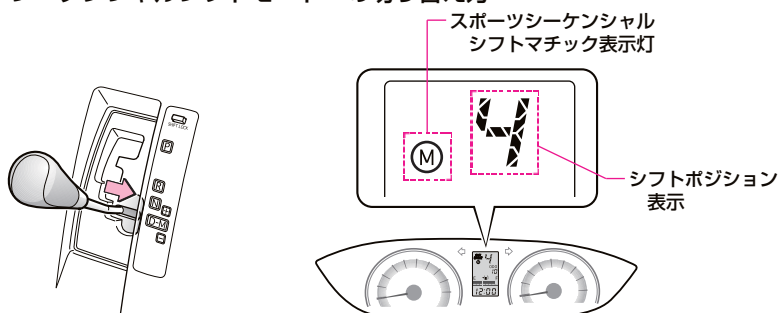
メンテナンス

万一のとき

索引

● スポーツシーケンシャルシフトモードの使い方

■ スポーツシーケンシャルシフトモードへの切り替え方



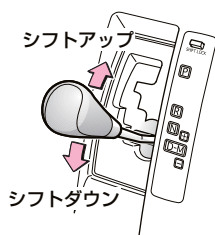
シフトレバーをMにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードになり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの+側または-側を操作することによって、変速段を切り替えることができます。

- 1～7の間で選択されている変速段がシフトポジション表示に表示されます。(P.226参照)

1⁺/₋ 2⁺/₋ 3⁺/₋ 4⁺/₋ 5⁺/₋ 6⁺/₋ 7

- スポーツシーケンシャルシフトモードにすると、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。(P.228参照)
- シフトレバーをDにすると、スポーツシーケンシャルシフトモードが解除され、通常の制御にもどります。

■ シフトレバーでのシフトチェンジのしかた

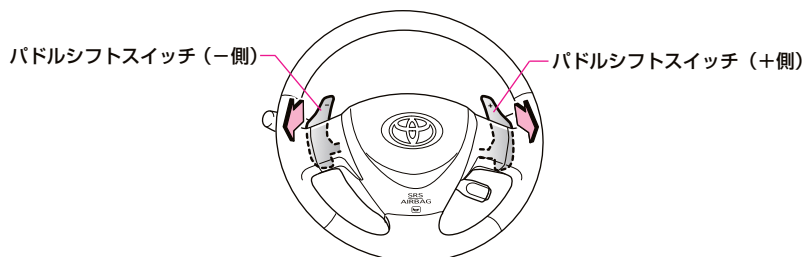


シフトアップするときは、シフトレバーを+側に動かします。

シフトダウンするときは、シフトレバーを-側に動かします。

- シフトレバーを操作するごとに、1段ずつ変速します。

■パドルシフトスイッチでのシフトチェンジのしかた



シフトアップするときは、スイッチの+側を引きます。
シフトダウンするときは、スイッチの-側を引きます。

●スイッチを操作するごとに、1段ずつ変速します。

■各変速段の働き

(M) 7	変速段がM7に固定されます。
(M) 6	変速段がM6に固定されます。
(M) 5	変速段がM5に固定されます。
(M) 4	変速段がM4に固定されます。
(M) 3	変速段がM3に固定されます。
(M) 2	変速段がM2に固定されます。
(M) 1	変速段がM1に固定されます。

知識

スポーツシーケンシャルシフトモードの変速段について

- M1以外で走行したあと、停車すると自動的にM1へシフトダウンされます。停車後、走行するときはM1からの発進となります。
- 停車時はM1に固定されます。

目次

警告

基本
操作運転
装置
の
取
り
扱
い室内
装
備
の
取
り
扱
い安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

警告ブザーについて

安全のため、または走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望する変速段にシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

システムの異常について

シフトレバーを**M**にしても、スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを**D**にしているときと同じ制御になります。

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリモードまたはOFFのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**D**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ブザーが鳴り、**D**にあることを運転者に知らせます。
 - ・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)
- シフトレバーが**P**以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすることはできません。
 - ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするときは、シフトレバーを**P**に入れてください。**P**以外でスイッチを押すと、スイッチはアクセサリモードになります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**D**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ブザーが鳴り、**D**にあることを運転者に知らせます。
 - ・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)
- シフトレバーが**P**以外ではエンジンスイッチからキーを抜くことはできません。
 - ・エンジンスイッチからキーを抜くときは、シフトレバーを**P**に入れてください。
P以外ではキーを“ACC”から“LOCK”の位置にまわさせません。

知識

安全機能について

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーが②からレバー操作できないときに使用します。

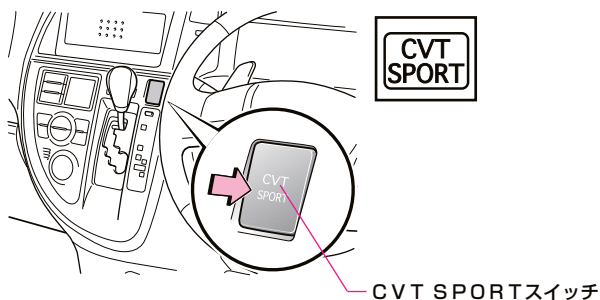
スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

CVT SPORTモードの使い方



CVT SPORTスイッチを押すとCVT SPORTモードに切り替わり、もう一度押すと解除されます。

- CVT SPORTモードにすると、メーター内のCVT SPORT表示灯が点灯します。(P.231参照)

目次

警告

基本
操作運転
装置
の
扱い室内
装備
の
扱い安全・快適
装備
の
説明
と
注意車
と
の
関
係
な
い
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引



CVT SPORTモードについて

CVT SPORTモードがON (CVT SPORT表示灯が点灯) のとき

- シフトレバーがDで走行中、以下のような効果があります。
 - アクセルを踏み込んだときは、加速領域の動力性能を向上させ、高い応答性と伸びのある加速感を実現します。
 - アクセルを離したときは、エンジン回転数を高い状態に維持し、再加速に備えます。
- シフトレバーがD以外のときは、CVT SPORTモードがOFFのときと同じ状態になります。

CVT SPORTモードがOFF (CVT SPORT表示灯が消灯) のとき

燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

通常はCVT SPORTモードがOFFの状態 (CVT SPORT表示灯が消灯している状態) で使用します。

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはOFFにすると、CVT SPORTモードは解除されます。

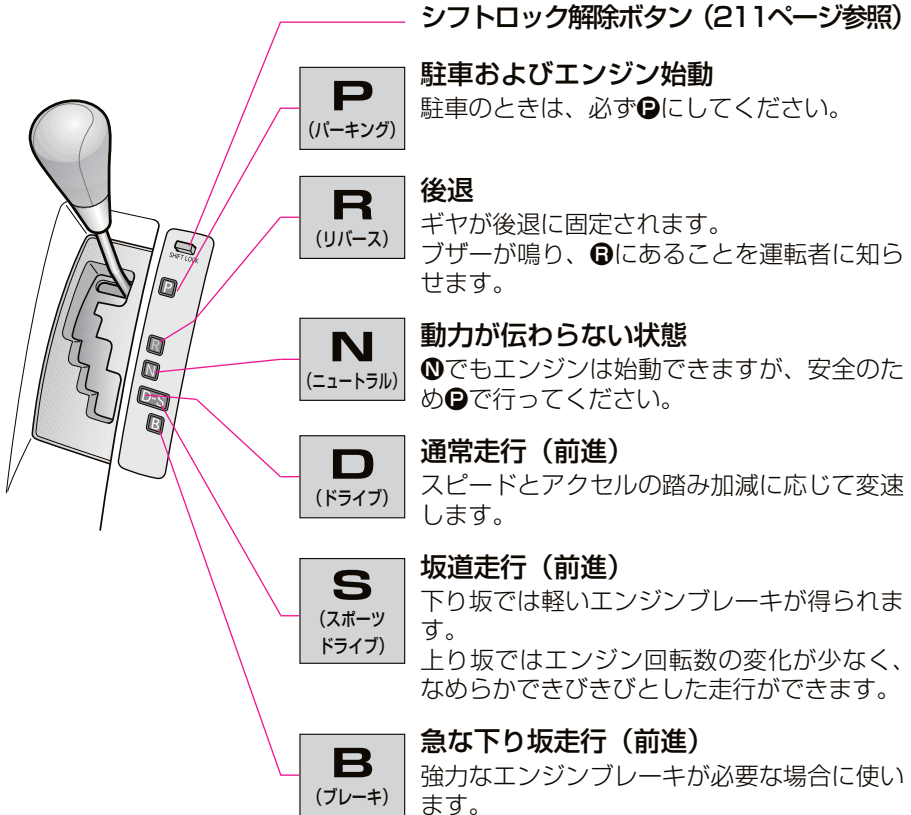
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。
- エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にすると、CVT SPORTモードは解除されます。

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く

1.3L車

● シフトレバーの働き



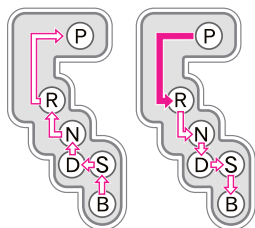
シフトロック解除ボタン（211ページ参照）

目次

警告

基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装
備
の
説
明
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

シフトレバーの取り扱い



● **P**と**D**の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。



ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。



シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。



知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはOFFのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・ シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - ・ 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)
- シフトレバーが**P**以外では “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにすることはできません。
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにするときは、シフトレバーを**P**に入れてください。**P**以外でスイッチを押すと、スイッチはアクセサリモードになります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・ エンジン スイッチが “ACC” または “LOCK” のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・ シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - ・ 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)
- シフトレバーが**P**以外ではエンジン スイッチからキーを抜くことはできません。
 - ・ エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーを**P**に入れてください。**P**以外ではキーを “ACC” から “LOCK” の位置にまわさせません。



知識

安全機能について

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーが②からレバー操作できないときに使用します。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

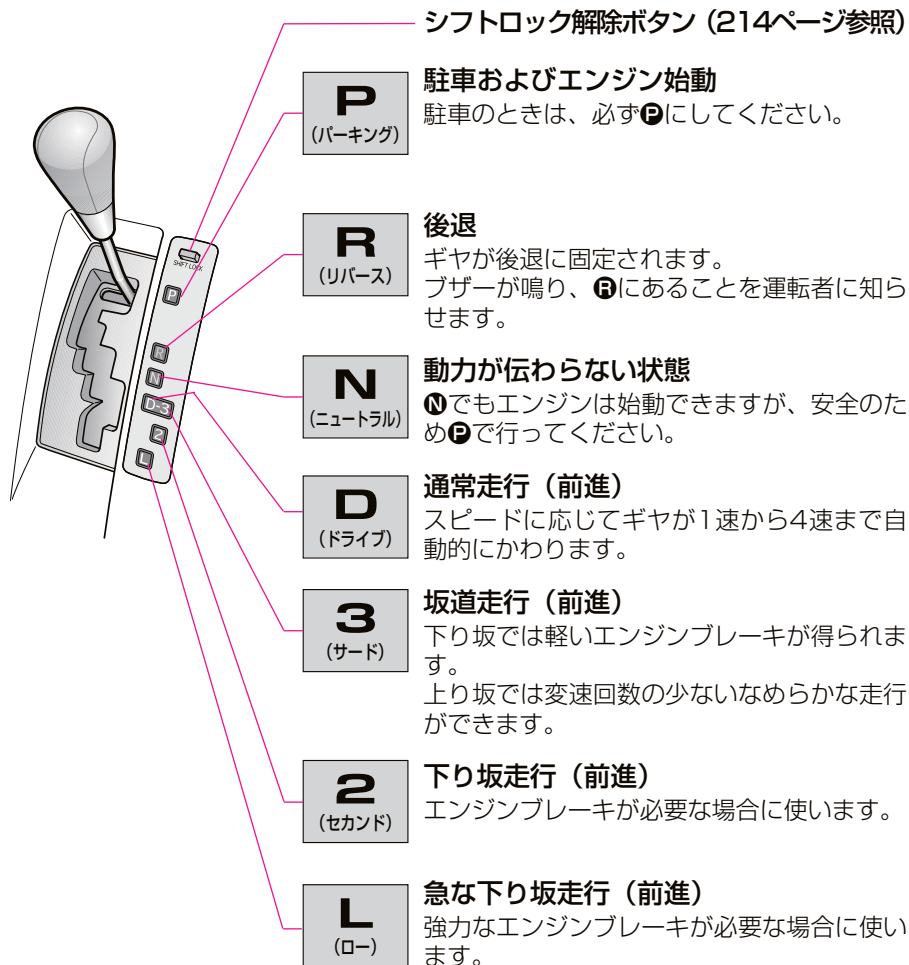
目次



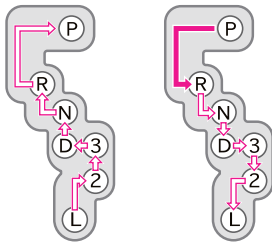
警告

基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備
の
説
明
と
注
意車
上
の
取
扱
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

シフトレバーの働き



シフトレバーの取り扱い



●**P**と**D**の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。



ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かします。



シフトレバーをゲートにそってそのまま動かします。

知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリモードまたはOFFのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - ・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）
- シフトレバーが**P**以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすることはできません。
 - ・“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするときは、シフトレバーを**P**に入れてください。**P**以外でスイッチを押すと、スイッチはアクセサリモードになります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - ・エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - ・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ・ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - ・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。（車外の人に対する警告音ではありません。）
- シフトレバーが**P**以外ではエンジンスイッチからキーを抜くことはできません。
 - ・エンジンスイッチからキーを抜くときは、シフトレバーを**P**に入れてください。**P**以外ではキーを“ACC”から“LOCK”の位置にまわさせません。



安全機能について

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーが②からレバー操作できないときに使用します。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッションONモードにして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

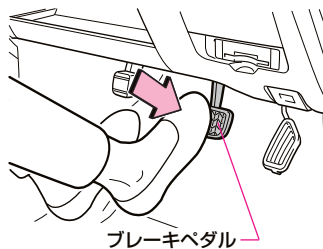
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にして、シフトロック解除ボタンを押しながらレバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

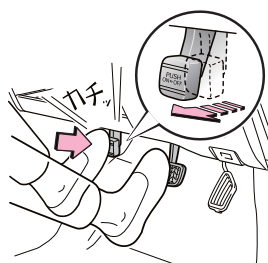
オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

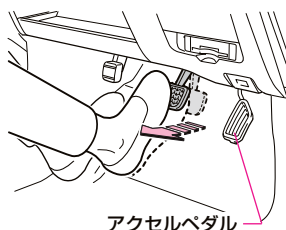
● 通常発進のしかた



1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを②に入れます。



2 左足でパーキングブレーキを解除します。
(P.219参照)



3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

目次



警告

基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メ
ン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索
引

● 上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーを②に入れます。
- 2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。
- 3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。



ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリーブ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

目次

警告

基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

● 通常の走行

シフトレバーを⑩に入れたまま走行します。

●アクセルとブレーキの操作だけで加速・減速します。

● 急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。

4WD車

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。(これをキックダウンといいます。)

● 坂道で走行するときは

■ 上り坂

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車

シフトレバーを⑨にして、坂道に応じた変速段で走行することによりなめらかな走行ができます。

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く

勾配に応じてシフトレバーを⑨にしておく、エンジン回転数の変化が少ないなめらかな走行ができます。

1.3L車

勾配に応じてシフトレバーを⑨にしておく、エンジン回転数の変化が少ないなめらかな走行ができます。

4WD車

アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを③または②に入れると、エンジン回転数の変化を抑えることができます。

■下り坂

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車

シフトレバーを**M**にして、坂道に応じた変速段でエンジンブレーキを併用します。

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが**D**のままでスピードが出すぎるときは、**B**に入れエンジンブレーキを併用します。

●シフトレバーを**S**に入れることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

1.3L車

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが**D**のままでスピードが出すぎるときは、**B**に入れエンジンブレーキを併用します。

●シフトレバーを**S**に入れることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。

4WD車

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが**D**のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて**2**または**L**に入れエンジンブレーキを併用します。

●シフトレバーを**3**に入れることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。



警告

走行中にはシフトレバーを**N**に入れないでください。

- 走行中はシフトレバーを**N**に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーを**R**に入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなどの思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーを1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車は**D**、**M**、1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く車両と1.3L車は**D**、**S**、**B**、4WD車は**D**、**3**、**2**または**L**に入れたまま惰性で後退したり、**R**に入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。



注意

シフトレバーを**N**に入れたまま走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

● 停車のしかた

- 1 車を止めます。シフトレバーは⑩のまま右足でブレーキペダルをしっかりと踏みま
す。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

- 2 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりとかけます。

- 3 長時間停車する場合は、シフトレバーを⑪または⑫に入れます。

● 駐車のしかた

- 1 車を完全に止めます。

- 2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりとかけます。

- 3 シフトレバーを⑫に入れます。

車が動き出さないためにも、必ずシフトレバーを⑫に入れてください。

- 4 エンジンを停止します。

車を離れるときは必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

目次

 警告
基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引



警告

走行中はシフトレバーをPに入れないでください。

- 走行中はシフトレバーをPに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中の空ぶかしはしないでください。シフトレバーがP、N以外に入っていると車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

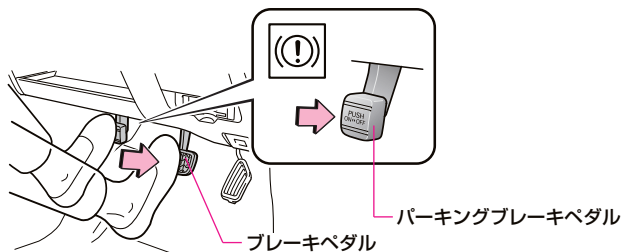
車から離れるときは必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがP以外に入っていたときに、クリーブ現象で車がひとりで動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをDに入れたままアクセルペダルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因になります。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

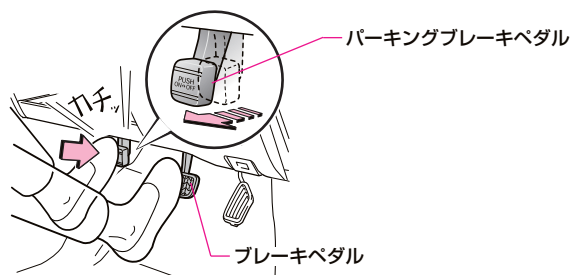
●パーキングブレーキをかけるときは



右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

●ブレーキ警告灯が点灯します。

●パーキングブレーキを解除するときは



右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

●ブレーキ警告灯が消灯します。



注意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。



知識

かけなおすときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

警告ブザーについて

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/hになると、警告ブザーが鳴ります。

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.348の「駐車するときは」をお読みください。

目次



基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

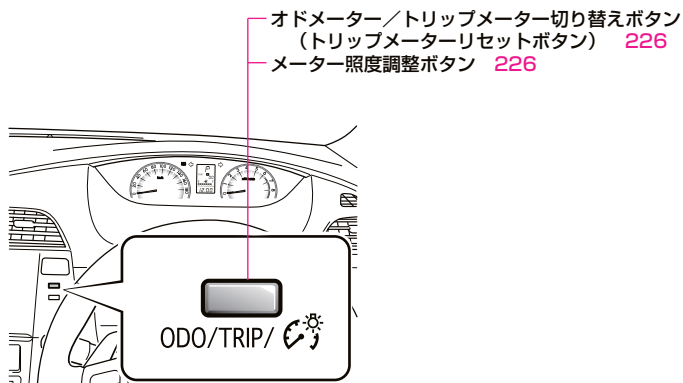
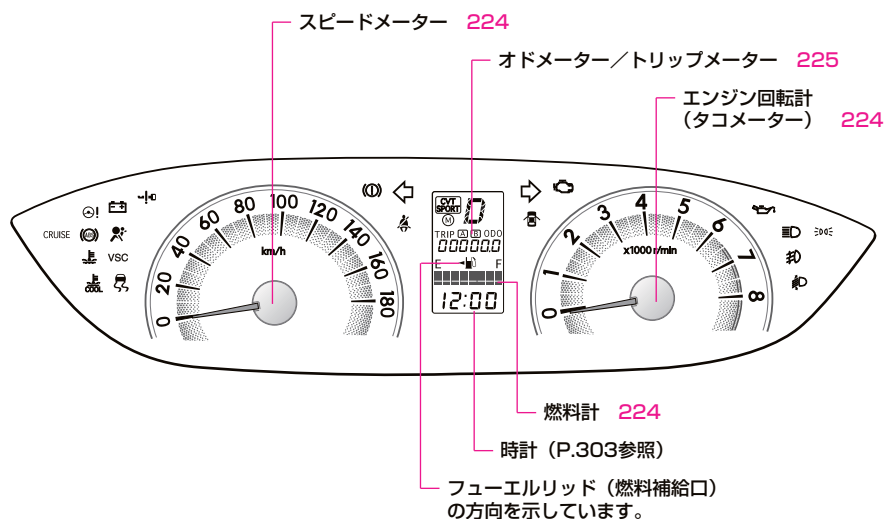
メ
ン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索
引

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター



※ 図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

※ グレード等によりメーター内の目盛りの意匠が異なる場合があります。

 知識

メーターについて

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
- エンジンを始動したときなどに、エンジン回転計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが異常ではありません

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを “ON” にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
- エンジンを始動したときなどに、エンジン回転計の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが異常ではありません

メーター照明について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、アクセサリモードまたはOFFにすると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ON” にすると点灯し、“ACC” または “LOCK” にすると消灯します。

目次



警告

基本
操作運転
準備室内
装備安全・
快適
装備車
との
上手
な
付き
合い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

●スピードメーター

車両の走行速度を示します。

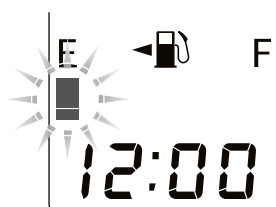
●エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。



指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

●燃料計



スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、燃料残量を示します。

燃料タンク容量は約42Lです。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、燃料残量が約6.3L以下になると、いちばん左の燃料残量表示が点滅します。燃料残量が約4.2L以下になると点滅速度が速くなります。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量を示します。

燃料タンク容量は約42Lです。

- エンジンスイッチが“ON”のとき、燃料残量が約6.3L以下になると、いちばん左の燃料残量表示が点滅します。燃料残量が約4.2L以下になると点滅速度が速くなります。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。

知識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が変わることがあります。
- 燃料補給後、表示が安定するまで少し時間がかかります。
- 燃料計にある「」印はフューエルリッド（燃料補給口）が車両助手席側後方にあることを示しています。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチが“ON”のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。

オドメーター／トリップメーター

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき次の表示をします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき次の表示をします。

■オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

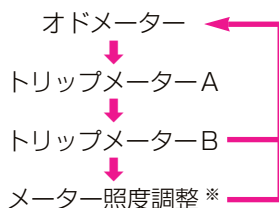
■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で示します。

● オドメーター／トリップメーター切り替えボタン (トリップメーターリセットボタン)

■ オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



※ ライトスイッチがONのとき

■ トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

● メーター照度調整ボタン

■ メーター照度調整表示に切り替えるには

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッションONモードでライトスイッチがONのとき、調整ボタンを押すと、トリップメーターB表示のあとに照度調整表示に切り替わります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” でライトスイッチがONのとき、調整ボタンを押すと、トリップメーターB表示のあとに照度調整表示に切り替わります。

■照度調整のしかた

メーター照度調整表示中、調整ボタンを約3秒以上押し続けると、メーター照明の明るさを、かえることができます。

- お好みの明るさになったら、ボタンから手を離します。
- 4段階で明るさのレベルを調整できます。

	表示	照度のレベル
明 ↑	-----≡	レベル1
	----≡	レベル2
	--	レベル3
↓ 暗	-	レベル4

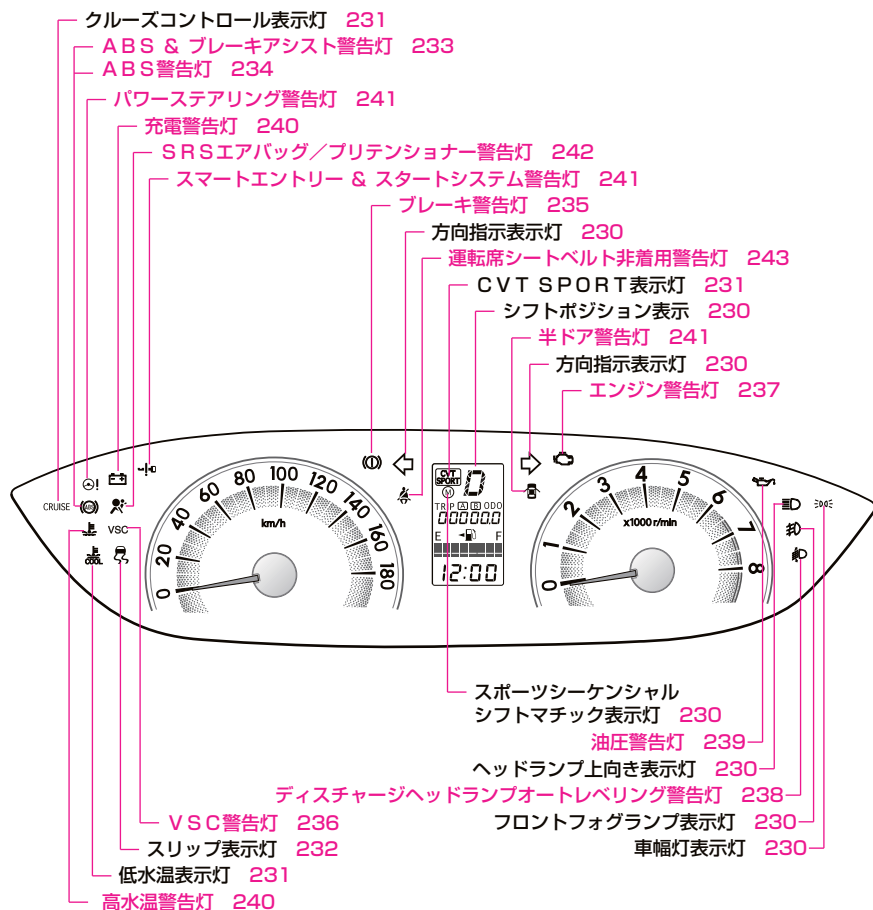
知識

照度調整表示について

次のような場合は、自動的に照度調整表示からオドメーター表示に切り替わります。

- 照度調整表示に切り替えてから、約10秒以上、ボタンを操作しなかったとき
- ライトスイッチをOFFにしたとき

表示灯、警告灯

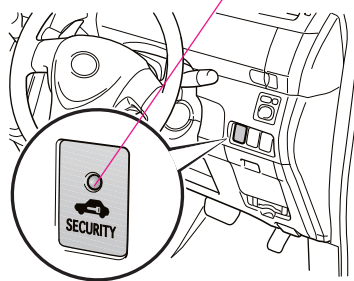


※ 図ではすべてのグレードにおける警告灯・表示灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯・表示灯はグレード等により異なります。

※ グレード等によりメーター内の目盛りの意匠が異なる場合があります。



セキュリティ表示灯 231



目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



● 方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。(P.249、256参照)



知識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。



● ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。(P.246参照)



● 車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。(P.245参照)



● フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプ装着車

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。(P.248参照)



● スポーツシーケンシャルシフトマチック表示灯

スポーツシーケンシャルシフトマチック装着車

シフトレバーを $\textcircled{M}$ にしてスポーツシーケンシャルシフトモードにすると点灯します。(P.204参照)



● シフトポジション表示

選択しているシフト位置を表示します。

●シフトレバーを $\textcircled{R}$ に入れたときは、枠が点滅しブザーが鳴ります。

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車

シフトレバーが $\textcircled{M}$ のとき、1～7の間で選択されている変速段を表示します。(P.204参照)



● 低水温表示灯

エンジン冷却水温が低いと点灯します。



注意

暖機を十分続けていても、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。



● セキュリティ表示灯

表示灯

盗難防止システム装着車

盗難防止システムが作動状態になると点滅します。(P.113参照)



● CVT SPORT表示灯

1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車

CVT SPORTモードにすると点灯します。(P.207参照)



● クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロール装着車

クルーズコントロールメインスイッチを押してシステムをONにすると点灯します。(P.258参照)



注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度OFFにしてから再度セットしてください。

以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。



● スリップ表示灯

VSC & TRC装着車

VSCシステムまたはTRCシステムが作動したときに点滅します。
(P.332、333参照)

また、車両が横すべりしそうになったときに点滅します。

■VSC作動警告ブザー

車両が横すべりしそうになったときに、断続音が鳴ります。

●運転状況によっては、スリップ表示灯の点滅のみで警告する場合があります。



エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

表示灯について

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。



ABS & ブレーキアシスト警告灯

VSC & TRC装着車

ABSまたはブレーキアシストシステムに異常があると点灯します。(P.329参照)

- 警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
 - ・ABS
 - ・ブレーキアシストシステム
 - ・VSC & TRC
- 警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。



注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ABSまたはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
 - 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しないとき
 - ・エンジンスイッチが“ON”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき
- なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば、異常ではありません。
ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。



● ABS 警告灯

VSC & TRC装着車を除く

ABSに異常があると点灯します。(P.329参照)

- 警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- 警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。



注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ABSに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき
- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば、異常ではありません。

ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ・ エンジン スイッチを “ON” にしても点灯しないとき
- ・ エンジン スイッチが “ON” で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば、異常ではありません。

ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後に消灯します。



ブレーキ警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、次のときに点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき
- パーキングブレーキをかけたままのとき
 - ・パーキングブレーキが解除されていても、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると数秒間点灯します。
- EBDに異常があるとき (P.331参照)

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”で、次のときに点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき
- パーキングブレーキをかけたままのとき
 - ・パーキングブレーキが解除されていても、エンジンスイッチを“ON”にすると数秒間点灯します。
- EBDに異常があるとき (P.331参照)

■ブレーキ警告ブザー

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約5km/h以上になると、警告ブザーが鳴ります。

**警告**

エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても警告灯が点灯したままのときは、ブレーキの効が悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効が悪いときはブレーキペダルを強く踏んでください。

**注意**

ABS & ブレーキアシスト警告灯またはABS警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

警告灯がABS & ブレーキアシスト警告灯またはABS警告灯と同時に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
この場合、ABS、またはブレーキアシストシステム(VSC & TRC装着車)に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。



ABS & ブレーキアシスト警告灯またはABS警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
- ・ パーキングブレーキが解除された状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- ・ エンジン スイッチが “ON” で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき
- ・ パーキングブレーキが解除された状態で、エンジン スイッチを “ON” にしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、警告ブザーが鳴ったときは、すみやかに停車し、パーキングブレーキを解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

VSC



VSC警告灯

VSC & TRC装着車

VSC & TRCシステムに異常があると点灯します。(P.332参照)

- 警告灯が点灯しているときは、VSC & TRCシステムは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。
- 警告灯が点灯したときは、スリップ表示灯も同時に点灯します。



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン スイッチを “ON” にしても点灯しないとき
- エンジン スイッチを “ON” にしても点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき



知識

警告灯について

エンジン スイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後に消灯します。



● エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、電子制御スロットルまたはオートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 警告灯が点灯し、アクセルペダルを踏んでもエンジン回転数が上昇しないときは電子制御系の異常が考えられます。このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。



知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。



ディスチャージヘッドランプ オートレベリング警告灯

ディスチャージヘッドランプ装着車

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（P.339参照）



注意

スマートエントリー & スタートシステム装着車

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときに、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。

警告灯が消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。エンジンスイッチを“ON”にしたときに、警告灯が数秒間点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。

警告灯が消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。



● 油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。

「油圧警告灯」はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。

(点検方法は「メンテナンスノート」またはP.386を参照してください。)



エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止してエンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走り続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときやエンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

🎓 知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スwitchを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。



● 高水温警告灯

エンジン回転中、エンジン冷却水温が異常に高くなったときに点滅します。



注意

警告灯が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に車を停車し、P424の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。



知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。



● 充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。



知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。



パワーステアリング警告灯

パワーステアリング制御システムに異常があると点灯します。

**注意**

警告灯が点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合ハンドル操作が重くなっていることがありますので、ハンドルをしっかり持って操作をしてください。

**知識**

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ ON ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。



半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。

**警告**

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



スマートエントリー & スタートシステム警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

P.115を参照してください。



● SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯

SRSエアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムに異常があると点灯・点滅します。(P.318、327参照)



警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- 走行中に点灯・点滅したとき

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを “ON” にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- 走行中に点灯・点滅したとき

知識

警告灯について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後に消灯します。



運転席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴り始めてから、約30秒後にブザー音が変わります。)

●シートベルトを着用すると消音します。



PASSENGER

助手席シートベルト非着用警告灯

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに助手席シートベルトを着用していないと点滅します。

ただちにシートベルトを着用してください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき、助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに助手席シートベルトを着用していないと点滅します。

ただちにシートベルトを着用してください。

■助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴り始めてから、約30秒後にブザー音が変わります。)

●シートベルトを着用すると消音します。



知識

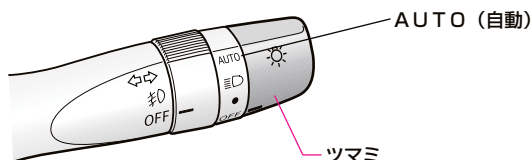
警告灯について

- センサーは、助手席シート座面に、ある一定以上の重量がかかったとき検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

スイッチの使い方

ランプの使い方

● コンライトの使い方 ★



ツマミをAUTOにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると、再び点灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。エンジンスイッチを“ON”にすると、再び点灯します。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

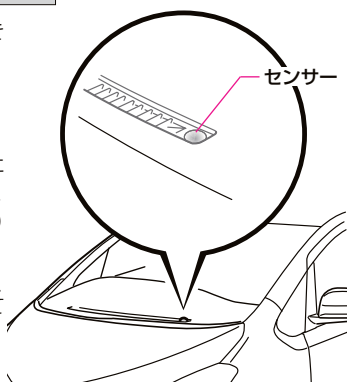
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

コンライトセンサーについて

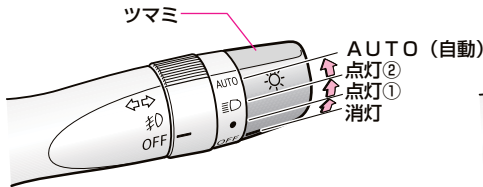
- コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.400の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

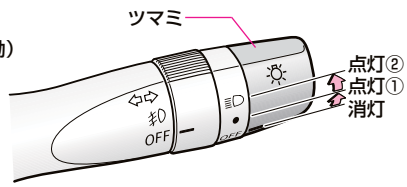


● ランプの点灯・消灯

コンライト装着車



コンライト装着車を除く



ツマミの位置	点灯するランプ
点灯①	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明・メーター照明
点灯②	①のランプ+ヘッドランプ

コンライト装着車

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

●AUTOにまわすと、自動で点灯・消灯します。(前ページ参照)

コンライト装着車を除く

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。



注意

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ” スwitchの状態に関係なく使用できます。(点灯①・点灯②で使用するとき)
- “エンジン スタート ストップ” スwitchがイグニッションONモードのとき使用できます。(AUTOで使用するとき)

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン スwitchの状態に関係なく使用できます。(点灯①・点灯②で使用するとき)
- エンジン スwitchが “ON” のとき使用できます。(AUTOで使用するとき)



知識

便利機能について

ランプ消し忘れ警告ブザー

スマートエントリー & スタートシステム装着車

ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

ライトスイッチが点灯①・点灯②のままエンジン スイッチを “LOCK” にして、運転席ドアを開くと、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

ランプオートカットシステム（コンライト装着車）

スマートエントリー & スタートシステム装着車

ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。

次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。

- “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにする。
- “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にし、もう一度イグニッション ON モードにする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

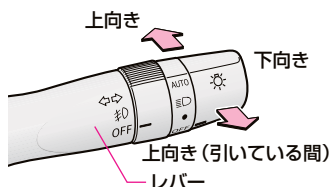
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

ライトスイッチが点灯①・点灯②のままエンジン スイッチを “LOCK” にして運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。

次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。

- エンジン スイッチを “ON” にする。
- エンジン スイッチを “LOCK” にし、もう一度 “ON” にする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。）

前方を遠くまで照らしたいときは



- ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
- ヘッドランプが消灯していてもレバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きとなります。
- ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。（P.230参照）

ヘッドランプの光軸上下調整のしかた

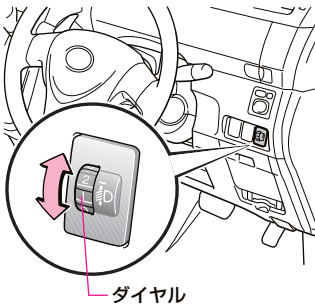
目次

警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
説
明
と
注
意
事
項車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
なメン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

ハロゲンヘッドランプ装着車



ヘッドランプに装着されています。
ダイヤルをまわすと、ヘッドランプの光軸（光の照らす方向）を下向きに調整できます。

●通常は0（ゼロ）の位置（光軸がいちばん上向きの位置）で使います。

知 識

光軸上下調整について

- 人や荷物をのせることにより車両前面が上を向いて、ヘッドランプの照らす範囲がいつもとちがう（いつもより上向きになっている）ときに、ダイヤルをまわしてヘッドランプの光軸を下向きにします。
人や荷物をおろしたあとには、必ずダイヤルを0（ゼロ）の位置にもどしてください。
- 乗員数に応じて下記の表を目安にダイヤル位置を調整してください。

ダイヤル位置の目安

乗員やラゲージルームの積載状況	ダイヤル位置		
	F F 車		4WD 車
	1.5L 車	1.3L 車	
運転席のみ乗車時	0		
運転席と助手席に乗車時	0		
5名乗車時	1.5		
5名乗車時でかつラゲージルーム満載時	2.5		2
運転席のみ乗車時でかつラゲージルーム満載時	3.5		

- 車検などで光軸調整をするときは、光軸上下調整ダイヤルを0（ゼロ）の位置（いちばん上向きの位置）にしてから行ってください。

作動条件について

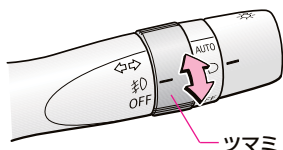
ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

フォグランプの使い方



雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

● フロントフォグランプの使い方 ★



ツマミを★にまわすと点灯し、OFFにまわすと消灯します。

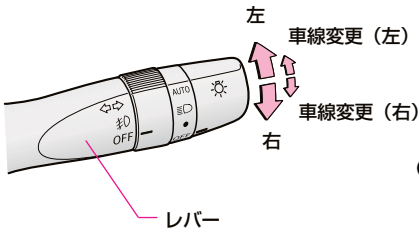
●フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。

知識

作動条件について

車幅灯またはヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

方向指示レバーの使い方



- レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
- 車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

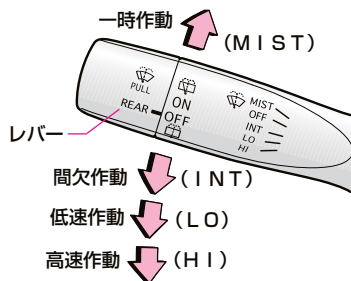
万
一
の
と
き

索引

ワイパー & ウォッシャーの使い方

●ワイパーの動かし方

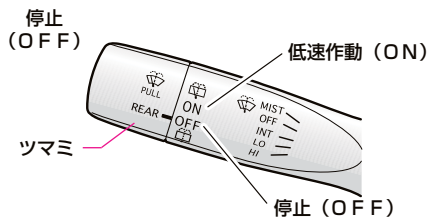
■フロント



レバーを操作すると、図のように作動します。

- 一時作動 (MIST) は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。

■リヤ



ツマミをまわすと、図のように作動します。



注意

ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

- ウィンドウガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- 洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモード、またはOFFにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

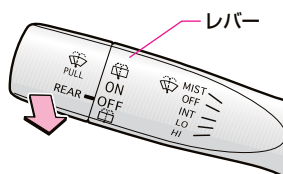
エンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

●ウォッシャー液の噴射のしかた

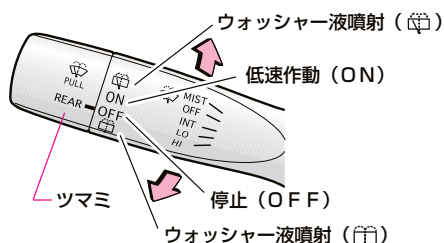
■フロント



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

●ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。

■リヤ



●ツマミをOFFの位置から下の◇側にまわすと、ウォッシャー液が噴射されます。

●低速作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミをONの位置から上の◇側にまわします。



注意

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

- 寒冷時はウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドウガラスに凍り付き視界不良を起こすおそれがあります。
- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷付けるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

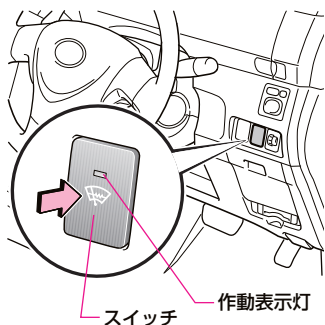
ウォッシャー液の補給については、P.387を参照してください。

フロントワイパーデアイサーの使い方



フロントウィンドウガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面を暖めてガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。

寒冷地仕様車



スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。



警告

作動中はフロントウィンドウガラスの下部と運転席側フロントピラー付近の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。



注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

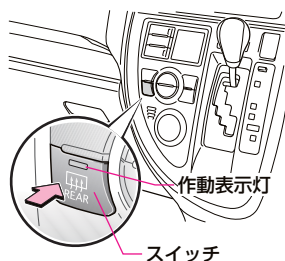
エンジン スイッチが “ ON ” のとき使用できます。

リヤウインドウデフォグガー(曇り取り)の使い方



リヤウインドウガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。

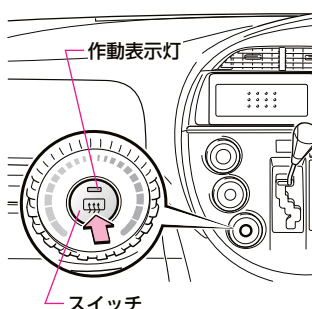
オートエアコン装着車



スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

マニュアルエアコン装着車



スイッチを押すと作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

●作動中は作動表示灯が点灯します。

●リヤウインドウガラスの曇りが取れたら、必ず停止させてください。



注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

目次



基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メン
テナ
ンス

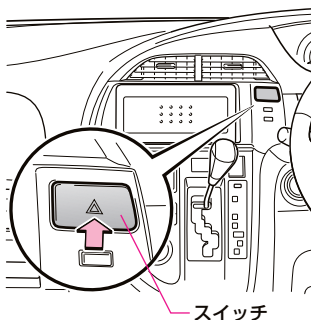
万
一
の
と
き

索引

非常点滅灯の使い方



故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



スイッチを押すと、すべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

●メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。



連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



作動条件について

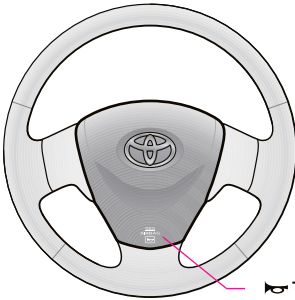
スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

ホーンの使い方



ハンドルの  マーク周辺部を押すと、ホーン（警告器）が鳴ります。

ホーンマーク



注意

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。ハンドルの固定方法については、P.192のハンドルの調整をご覧ください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

目次

警告

基本
操作

運転
装置

室内
装備

安全・
快適
装備

車
との
上手
な
付き
合い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

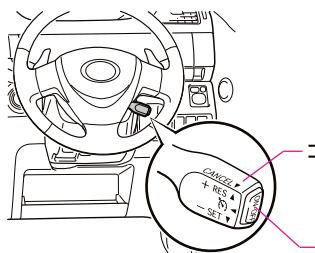
索引

クルーズコントロールの使い方★



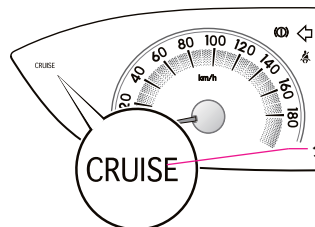
シフトレバーが**D**または**M**（M7、M6、M5、M4のいずれか）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度（約40 km/h～100 km/h）で走行できます。

● セットのしかた



コントロールスイッチ

メインスイッチ



クルーズコントロール表示灯（点灯）

1 メインスイッチを押してONにします。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

2 希望速度まで加速または減速します。

3 コントロールスイッチを下げ、手を離します。

以上の操作で定速走行を開始します。

● 一時的に加速、減速したいときは

■ 加速したいとき

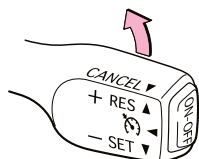
アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■ 減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。

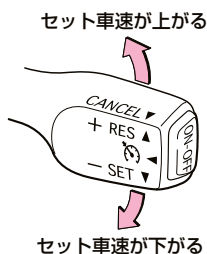
ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。



もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

● セット车速のかえ方

前ページの「セットのしかた」の 2、3 の手順でかえる方法と、次のコントロールスイッチでかえる方法があります。



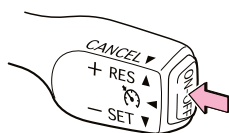
1 コントロールスイッチを操作します。

- 上げ続けるとセット车速が上がります。
- 下げ続けるとセット车速下がります。
- コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整 (約 1.5km/h) ができます。

2 希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。

● 解除のしかた

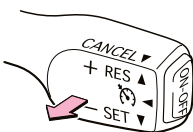
■ 使用を中止するとき



メインスイッチを押して OFF にします。

- メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。

■ 使用を一時的に中断するときは



コントロールスイッチを手前に引きます。

もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

目次

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

● システムの自動解除

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき
- セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約40km/h以下になったとき
- コントロールスイッチを下げ続けて車速が約40km/h以下になったとき
- V S Cの作動によりスリップ表示灯が点滅するとともにV S C作動警告ブザーが鳴ったとき（車両が横すべりしそうになったときはP.230を参照してください。）

次の方法で定速走行状態が解除された場合は、コントロールスイッチを上げ、手を離すもとの定速走行状態にもどります。

ただし、車速が約40km/h以下になったとき、またはセットした速度より車速が約16km/h以上低下したときは、解除する前の定速走行状態にはもどりません。

- コントロールスイッチを手前に引いての解除
- ブレーキペダルを踏んでの解除
- V S Cの作動による解除



警告

クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをOFFにしてください。

- クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをOFFにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次のような状況のときはクルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

交通量の多い道や急カーブのある道

道路の状況にあった速度で走行できないおそれがあります。

凍結路や積雪路などのすべりやすい路面

タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

急な下り坂

急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまうおそれがあります。



注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度OFFにしてから再度セットしてください。

以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合は、システムの異常が考えられます。走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

セット条件について

- セット車速は約40km/h～100km/hの間で設定できます。
- シフトレバーが**D**または**M**（M7、M6、M5、M4のいずれか）、以外にあるときは、セットできません。

エンジンを停止したときは

- メインスイッチは自動的にOFFになります。

横すべりしそうになったときは

運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯やVSC作動警告ブザーで警報する前に制御が解除されることがあります。

エンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用して定速走行しているときは、シフトレバーを**D**から**M**に操作してもクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。

セットした車速の消去について

以下の操作により、セットした車速は消去されます。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにする。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK”にする。

目次


 警告
基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備
の
解
説
と
注
意車
上
の
付
き
合
い
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き

索引

MEMO

4

室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い…………… 264	室内装備品の使い方…………… 298
オートエアコン	サンバイザー…………… 298
の使い方…………… 264	フロントパーソナルランプ…………… 299
マニュアルエアコン	ルームランプ…………… 300
の使い方…………… 272	ラゲージルームランプ…………… 301
吹き出し口の調整…………… 277	コンビニフック…………… 302
E T Cの取り扱い…………… 280	時計…………… 303
E T Cシステムについて…………… 280	センターコンソール／
E T Cを利用する前に…………… 281	カップホルダー／
E T Cの使い方…………… 282	小物入れ…………… 304
エラーコードについて…………… 294	ボトルホルダー…………… 306
	カードホルダー…………… 307
	コートフック…………… 307
	収納ボックス…………… 308
	収納トレイ／ポケット…………… 309
	デッキアンダートレイ…………… 310
	デッキフック…………… 312
	アクセサリーソケット…………… 313
	アンテナ…………… 314
	フロアマット…………… 315

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

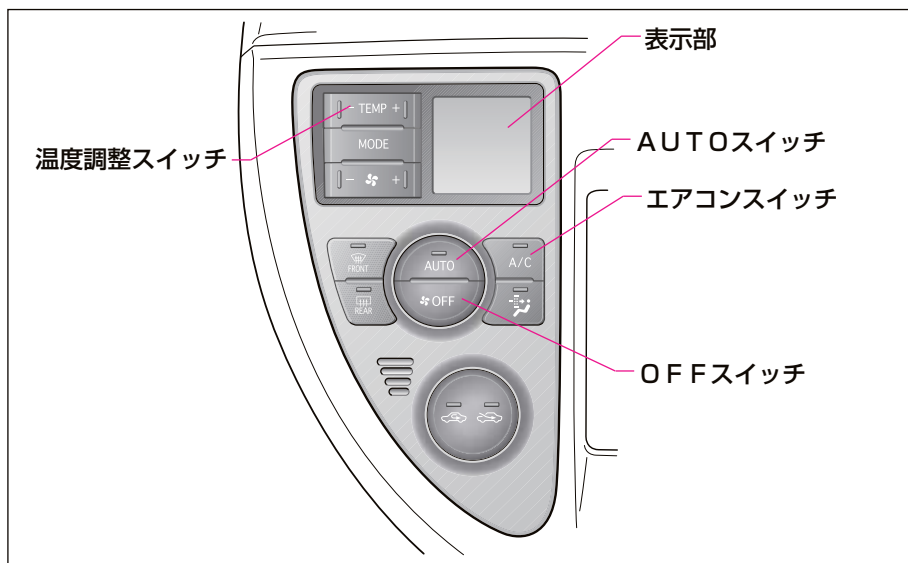
索引

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方★

● オート(AUTO)での使い方

AUTOスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口、風量が自動的に調整され、設定温度となります。

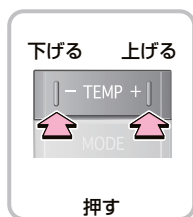


■ 作動させるには



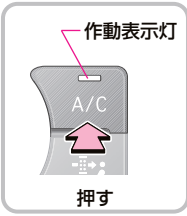
1 AUTOスイッチを押して吹き出し口と風量を自動調整にします。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ファンが自動的に作動します。



2 温度調整スイッチを押して温度を設定します。

- 温度を上げるときは＋側、下げるときは－側を押します。
- 設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
 - ・ 最大冷房にするとL O
 - ・ 最大暖房にするとH Iの表示になります。
- 設定温度が表示部に表示されます。



3 エアコンスイッチを押してエアコンをONにします。

- エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がONとOFFに切り替わります。
- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ファンが作動中に使用できます。
- 外気温が0℃近くまで下がるとエアコンは作動しません。

■ 作動を停止させるには



OFFスイッチを押します。

- ファンが停止します。



注意

バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。



知識

車内の温度が高いときは

駐車のと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

- 吹き出し口が または のとき、冬場などの寒いときには温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
- 吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには冷風の準備ができるまで、数秒間ファンが“弱”で作動します。
- 内外気切り替えスイッチが、外気導入のとき（P.268参照）AUTOスイッチを押すと、最大冷房時は内気循環になることがあります。

AUTOスイッチについて

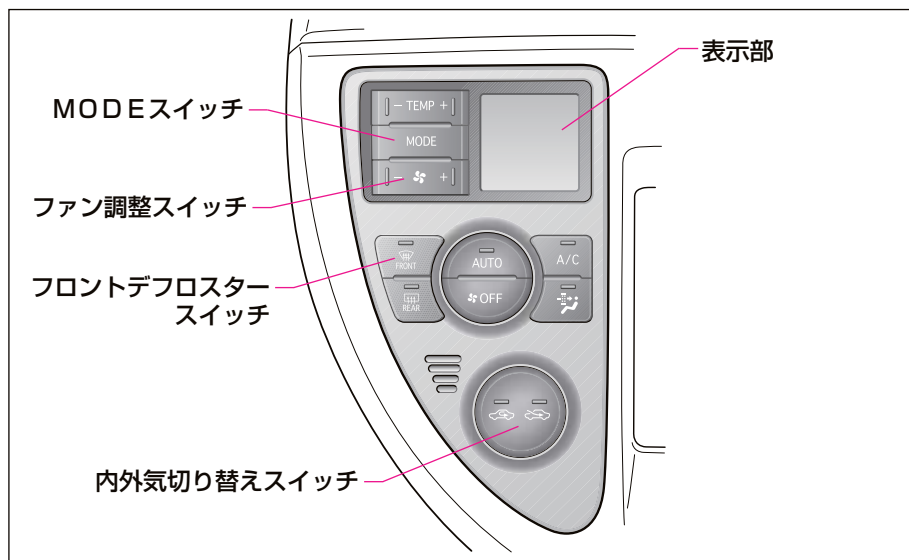
AUTOスイッチがONのときにMODEスイッチ（P.266参照）およびファン調整スイッチ（P.266参照）を操作すると、AUTOスイッチはOFFになります。

エアコンの臭いについて

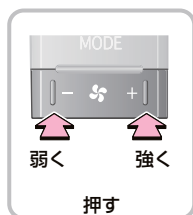
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

● お好みの状態にするには

各スイッチを操作することで、それぞれの設定で使用することができます。



■ 風量をかえる



ファン調整スイッチを押して風量を設定します。
風量を強くするときは+側、弱くするときは-側を押します。
● 風量が表示部に表示されます。
● ファンを停止させたいときはOFFスイッチを押します。
(P.265参照)

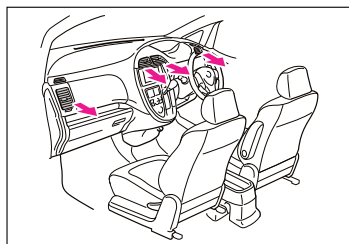
■ 吹き出し口をかえる



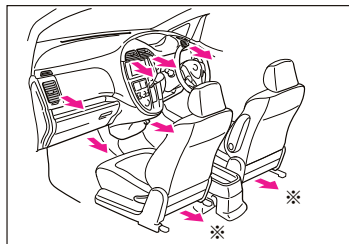
MODEスイッチを押して吹き出し口を選択します。
スイッチを押すごとに、吹き出し口が切り替わります。
(次ページ参照)
● 吹き出し口が表示部に表示されます。

<吹き出し口選択の目安>

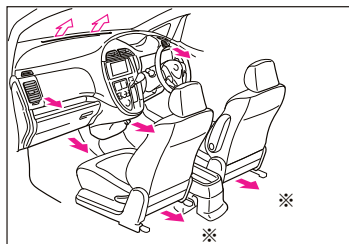
上半身に送風するとき



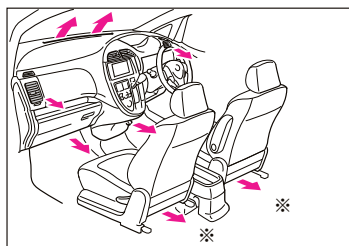
上半身と足元に送風するとき



足元に送風するときは



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



↑ は手動でこの吹き出し口を選択したときは送風されません。

※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

■外気導入・内気循環の切り替えをする



内外気切り替えスイッチを押して外気導入と内気循環に切り替えます。

●スイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

作動表示灯	モード
 外気点灯	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
 内気点灯	内気循環 外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

■ガラスの曇りを取る



1 フロントデフロスタースイッチを押します。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。
- エアコンが自動的にONになります。



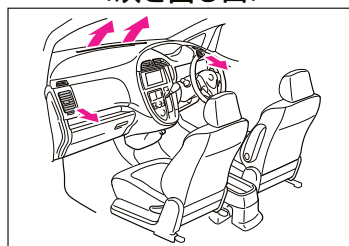
2 内外気切り替えスイッチで外気導入にします。

- 外気導入のときは、作動表示灯が消灯します。

窓ガラスの曇りを取りたいときは



<吹き出し口>



警告

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
外気とウインドウの温度差でウインドウ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。



知識

内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切り替えスイッチで内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
- 設定温度や室内温度・外気温度などにより自動的に内気循環、または外気導入へ切り替わることがあります。

補助ヒーター（PTCヒーター）について

寒冷地仕様車

エンジン始動直後からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時（エアコンコンピューターが急速暖房を必要と判断したとき）
- エンジンが冷えているとき
- 外気温度が低いとき

エンジンが暖まると自動的に補助ヒーターは停止します。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る（前ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。

- 風量を増す。（ファン調整スイッチを操作する。）
- 設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

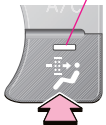
エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

花粉除去スイッチの使い方

中央、運転席側、助手席側吹き出し口からフィルターを通ったきれいな風を顔の周辺に送風し、降乗車時やドアガラスを開けて走行したときなどに車室内に入った花粉を早期に除去します。

作動表示灯



押す

スイッチを押すと花粉除去モードに切り替わり、もう一度押すと通常制御にもどります。

- 花粉除去モード時はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- 車室内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。(通常は約3分後、外気温が低いときは約1分後に通常制御にもどります。)

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき使用できます。

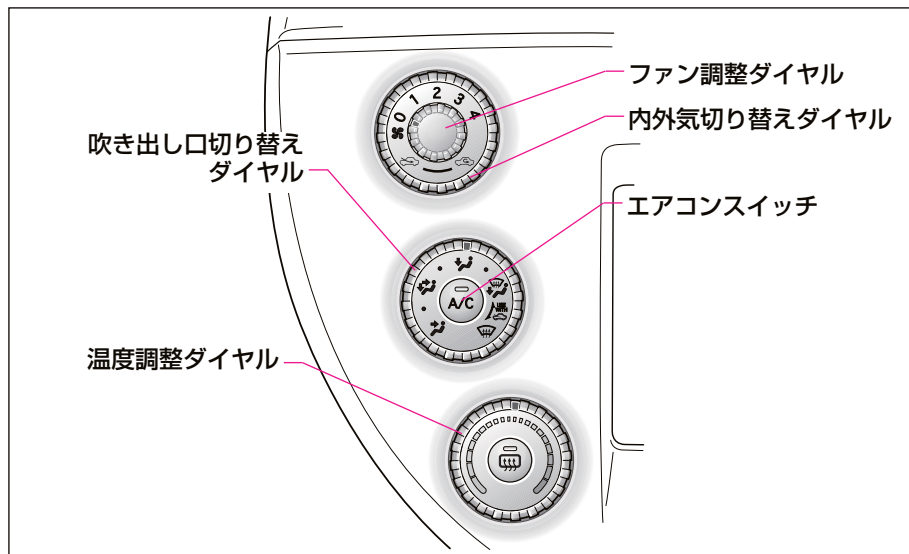
花粉除去スイッチについて

- 花粉除去スイッチを押すと次のように制御されます。
 - ・ファンが作動します。
 - ・内気循環に切り替わります。(外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。)
 - ・吹き出し口は  に切り替わります。(外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のため切り替わらない場合があります。)
- 雨天時に花粉除去スイッチを押すと、ガラスが曇ることがあります。そのときは、フロントデフロスタースイッチ(P.269参照)を押してください。
- 通常制御時でも、フィルターを通ったきれいな風が送風されます。

マニュアルエアコンの使い方★

● お好みの状態にするには

各ダイヤルまたはスイッチを操作することで、それぞれの設定で 사용할 ことができます。



■ 風量をかえる



ファン調整ダイヤルをまわして風量を設定します。

風量を4段階に切り替えることができます。

風量を強くするときは右側、弱くするときは左側にまわします。

●0の位置にするとファンが停止します。

■ 吹き出し口をかえる

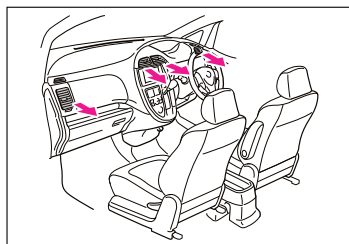


吹き出し口切り替えダイヤルをまわして吹き出し口を選択します。

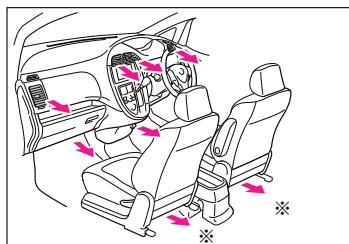
●ダイヤル位置を各吹き出し口の間にすると、各吹き出し口の中間ぐらいの吹き出し口を選択できます。

＜吹き出し口選択の目安＞

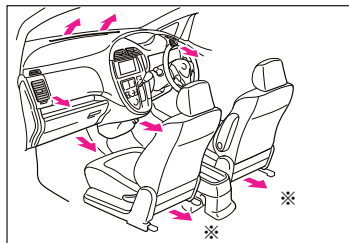
上半身に送風するとき



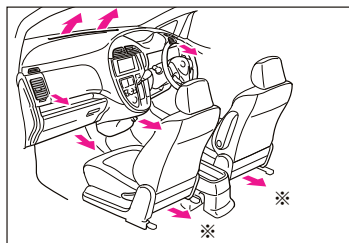
上半身と足元に送風するとき



足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇りを取るとき



※は寒冷地仕様車のみ送風されます。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

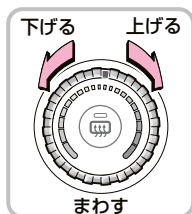
■エアコンをONにする



エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がONとOFFに切り替わります。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- ファンが作動中に使用できます。
- 外気温が0℃近くまで下がるとエアコンは作動しません。

■温度を調整する



温度調整ダイヤルをまわして温度を設定します。

- 温度を上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。

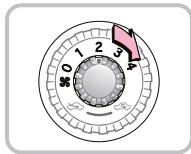
■外気導入・内気循環の切り替えをする



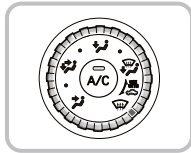
内外気切り替えダイヤルを の位置にまわすと外気導入、 の位置にまわすと内気循環に切り替わります。

ダイヤル位置	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をシャ断している状態です。トンネルや渋滞など外気がよごれているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

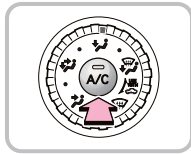
■ガラスの曇りを取る



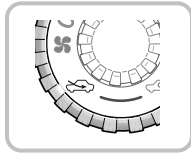
1 ファン調整ダイヤルでファンを作動させます。



2 吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にします。



3 エアコンが作動していないときは**エアコンスイッチ**を押してエアコンを作動させます。

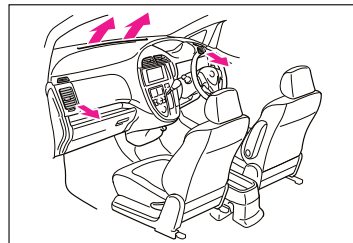


4 内外気切り替えダイヤルで外気導入にします。

窓ガラスの曇りを取り
りたいときは



<吹き出し口>



警告

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にしないでください。
外気とウィンドウの温度差でウィンドウ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで汚れた外気を車内に入れたくないときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切り替えダイヤルで内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

吹き出し口について

吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にし、温度調整ダイヤルを中間位置で使用すれば、暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が中央および運転席側、助手席側吹き出し口から送風されます。

補助ヒーター（PTCヒーター）について

寒冷地仕様車

エンジン始動直後からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。次の条件をすべて満たすと、自動的に作動します。

- ファンが作動しているとき
- 最大暖房時（温度調整ダイヤルがいちばん右（高温側へ最大）のとき）
- エンジンが冷えているとき
- 外気温が低いとき

エンジンが暖まると自動的に補助ヒーターは停止します。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る（前ページ参照）操作と併せて、次の操作を行います。

- 風量を増す。（ファン調整ダイヤルを操作する。）
- 設定温度を上げる。（温度調整ダイヤルを操作する。）

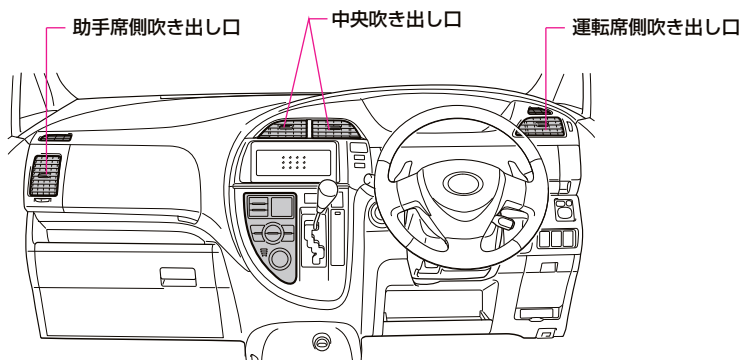
車内の温度が高いときは

駐車のと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンの臭いについて

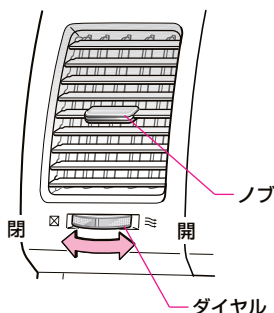
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

吹き出し口の調整

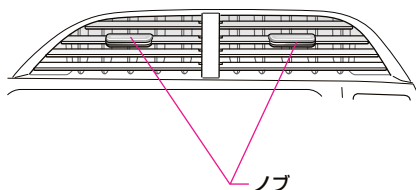


● 風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

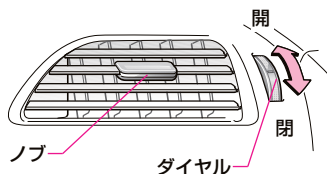
助手席側吹き出し口



中央吹き出し口



運転席側吹き出し口



- ノブを動かすと風向きの調整ができます。
- 運転席側、助手席側吹き出し口はダイヤルをまわして、吹き出し口を開閉することができます。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



知識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

MEMO

目次



基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

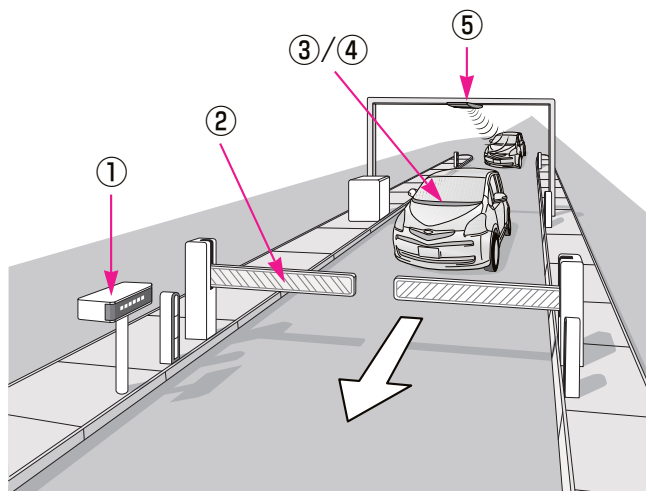
索引

E T Cの取り扱い ★

E T Cシステムについて

E T C (Electronic Toll Collection) システムは、有料道路の通過をスムーズに行うために、自動で料金を精算するシステムです。

路側無線装置と車両のE T Cユニットとの間で無線通信を行い、料金はお客様が登録した銀行口座から後日引き落とされます。



①路側表示器

料金所のE T Cレーンに設置されています。進入車両に対し、適切に通行したかどうかなどのメッセージが表示されます。

②発進制御装置（開閉バー）

料金精算を確実にするために、料金所のE T Cレーンに必要なに応じて設置されています。通過車両の発進を制御するもので、踏み切りの遮断機のようなものです。通信が正常に行われると開きます。

③E T Cユニット

車両に装着されています。E T Cカードに格納されている料金精算に必要なデータを路側無線装置と通信するための機器です。

④E T Cカード

E T Cユニットに装着します。I Cチップを搭載した、E T C機器用カードのことです。E T Cカードでは、このI Cチップに料金精算に必要なデータが保持されています。

⑤路側無線装置

料金所のE T Cレーンに設置されています。料金精算のため、車両のE T C機器との通信を行うためのアンテナです。

E T C を利用する前に

E T C システムを利用するには、以下の点に注意してください。



警告

安全のため、運転者は走行中に E T C カードの抜き差し、および E T C ユニットの操作を極力しないでください。

走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。



注意

その他、E T C ユニットを用いたサービス（スマート I C など）には、様々な制約があります。サービス提供者が案内する利用方法をご確認ください。

E T C カードを挿入する前に



注意

E T C カードの有効期限切れにご注意ください。E T C カードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。お手持ちの E T C カードに記載された有効期限を、あらかじめ確認してください。

E T C カードを挿入したあとに



注意

E T C カードを確実に挿入し、正常に作動していることを確認してください。

- E T C を利用する際は、あらかじめ E T C カードが確実に E T C ユニットに挿入されていることと、E T C ユニットが正常に作動していることを確認してください。
- E T C ユニットが E T C カードを認証するまでには数秒かかりますので、料金所手前での E T C カードの挿入はエラーの原因となる場合があります。

料金所を通過するときは



注意

E T C レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。

- E T C レーンに進入するときは、十分な車間距離をとり、約 20km/h 以下の安全な速度で進入してください。
- E T C レーンに設置されている開閉バーは、E T C ユニットと路側無線装置の間の通信、あるいは E T C ユニットと E T C カードとの通信が正常に行われなかった場合は、開かないことがありますので、ご注意ください。
- E T C レーンを通行するときは、前車との車間距離を保持した上で、開閉バーの手前で安全に停止できるように十分に減速し、開閉バーが開いたことを確認してから通行してください。

目次



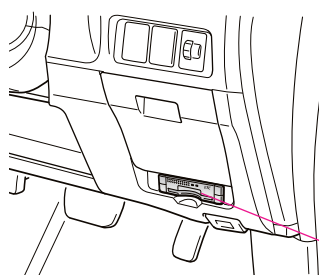
警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備の
解説と
注意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
なメン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

ETCの使い方

本書では、メーカーオプションのETCユニットの操作のみを説明しています。

● ETCユニット



ETCユニットは、運転席口アボックスの下にあります。

はじめてETCシステムをご利用される前に、ETCユニットのセットアップ手続きが必要です。トヨタ販売店にご相談ください。(セットアップ手続きには別途費用が発生します。)



注意

ETCユニットの内部に異物などを入れないでください。

- ETCユニットの内部に異物などを入れないでください。ETCユニットが故障するおそれがあります。
- ETCユニットに衝撃を与えないでください。ETCユニットが故障、破損するおそれがあります。
- 濡れた手でETCユニットに触れたり、水（液体など）を付着させないでください。ETCユニット内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。
- 汚れたときは、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。ワックス、シンナー、アルコールなどは絶対に使用しないでください。ETCユニットが変形・故障する場合があります。
- 車両1台に対して複数のETCユニットを取り付けると、ゲートの開閉バーが開かない場合があります。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき使用できます。

製品に貼られているシールについて

本製品は電波法の基準に適合しています。製品に貼り付けられているシールはその証明ですので、はがさないでください。また、本製品を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

車のナンバープレートを変更する場合は

車のナンバープレートが変更になった場合は、再度ETCユニットのセットアップ手続きが必要となりますので、トヨタ販売店にご相談ください。

ETCアンテナについて

インストルメントパネル内中央付近にあります。



注意

路側無線装置との通信のさまたげにならないよう、ETCアンテナ上方（インストルメントパネル中央付近）には、物を置かないでください。

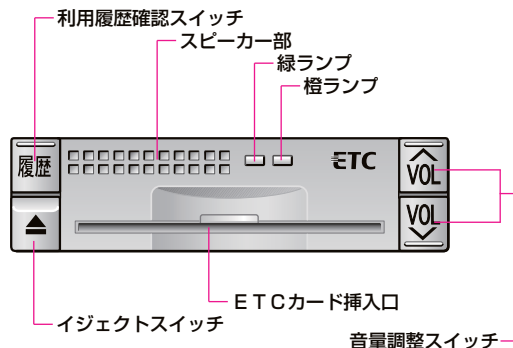
知識

フロントガラスのよごれなどについて

フロントガラスのよごれや積雪がひどい場合は、それらを取り除いてください。

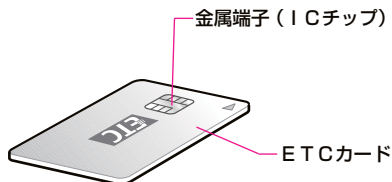
各部の名称

■ ETCユニットについて



■ ETCカードについて

ETCカードの取得には、お客様自身による、別途申し込みが必要です。



ETCカードの取り扱いについては、ETCカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。

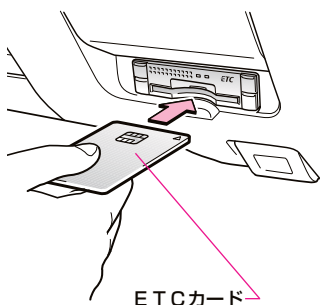
- ETCカードの取り扱いについては、ETCカード発行会社の提示する注意事項にしたがってください。
- ETCカードには有効期限があります。有効期限内のETCカードをご利用ください。
- セロハンテープ・シールなどが貼ってあるETCカードや、金属端子（ICチップ）がよごれているETCカードは使用しないでください。ETCユニットが正常に作動しなくなったり、ETCカードが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

● 使用するとき

■ 乗車時の操作

1 エンジンを始動します。
ETCユニットの電源が入り、緑ランプと橙ランプが同時に点灯したあと、しばらくすると消灯します。

2 左図のように正しい挿入方向でETCカードをETCユニットにしっかりと挿し込みます。「ピッ」と音がして、緑ランプが点滅します。



3 ETCカードを認証します。

● 正しく認証された場合

音声案内	「ポーン ETCカードが挿入されました」
ETCユニット	緑ランプが点灯したまま

ETCシステムは、この状態でご利用ください。

● 正しく認証されなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコード（P.294参照）を音声でお知らせします。



注意

ETCユニットやETCカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。「統一エラーコード一覧」（P.294参照）の記載にしたがって対処してください。

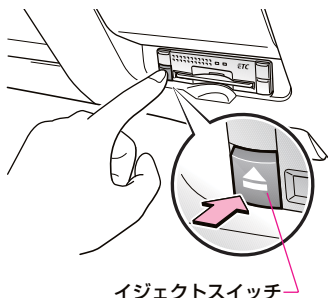


知識

ETCユニットについて

- 橙ランプが点灯しているときは、ETCユニットのセットアップ手続きができていないので使用できません。
- 有効期限切れや解約済みのETCカードは使用できません。これらのカードをETCユニットに挿入してもエラー表示はされませんが、開閉バーは開きません。

■降車時の操作



イジェクトスイッチ

1 安全な場所に停車し、エンジンを停止する前に ETCユニットのイジェクトスイッチを押します。

ETCカードを抜く前にエンジンを停止すると、カードの抜き忘れをお知らせする音声案内が ETCユニットより出力されます。
(P.288参照)

2 ETCユニットからETCカードを抜きます。

3 エンジンを停止します。

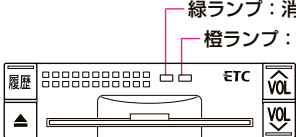
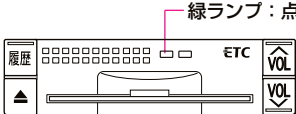
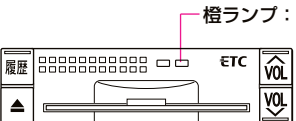
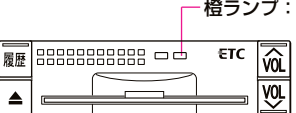


注意

緑ランプが点滅中はETCカードを抜かないでください。

- 緑ランプが点滅中はETCカードを抜かないでください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。
- ETCユニットやETCカードにエラーが発生した場合は、橙ランプが点滅します。状況に応じて、次のように対応してください。
 - 統一エラーコード（01～07）が音声出力された場合は、「統一エラーコード一覧」（P.294参照）に記載されている処置にしたがってください。
 - エンジン始動時にエラーが発生した場合は、いったんエンジンを停止させ、再度始動してみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ETCカード挿入時にエラーが発生した場合は、いったんETCカードを抜き、挿入方向を確認して再度挿し込んでみてください。それでもエラーが続くときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ETCカードを放置して車から離れないでください。
車内の温度上昇により、ETCカードが変形したり、ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

■ ETCの作動状態を知るには

ETCユニットの作動状態	ランプの点灯状態
スマートエントリー & スタートシステム装着車 ● “エンジン スタート ストップ” スイッチがOFFのとき ● “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードで、ETCカードが未挿入のとき スマートエントリー & スタートシステム非装着車 ● エンジン スイッチが “LOCK” のとき ● エンジン スイッチが “ON” で、ETCカードが未挿入のとき	緑ランプ：消灯 橙ランプ：消灯 
ETCが正常に作動しているとき ● ETCカードが正しく認証されたとき ● ETCゲートで正常に通信できたとき ● ETCゲートで正常に精算処理ができたとき	緑ランプ：点灯 
ETCの作動に異常があったとき ● ETCカードとは種類の異なるカードを挿入したとき ● 挿入したETCカードが正しく認識されなかったとき ● ETCシステムに異常があるとき ● ETCゲートで正常に通信できなかったとき ● ETCゲートで精算処理ができなかったとき ● ETCのアンテナに異常があるとき	橙ランプ：点滅 
ETCがセットアップ手続きされていないとき	橙ランプ：点灯 

目次


 警告
基本操作
早わかり運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



ETCカードの取り扱いについて

ETCカードを放置して車から離れないでください。ETCカードが盗難にあうおそれがあります。

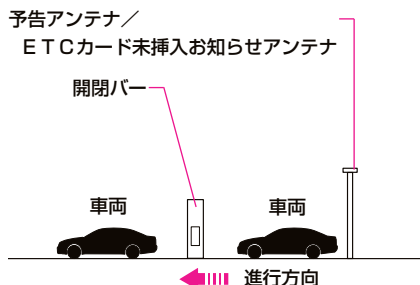
カード抜き忘れ警告について

- ETCカードを抜く前にエンジンを停止すると、ETCユニットから「ピー カードが残っています」と音声出力されます。
- カード抜き忘れ警告の音声を出力しないようにすることもできます。
 - 音声を出力をさせない場合は、車を停車させ、ETCユニットにETCカードが挿入され緑ランプが点灯している状態で、「履歴」と「」スイッチを同時に約2秒間押し続けます。操作をするごとに「音声出力する／音声出力しない」が切り替わり、選択した設定が保持される（設定が切り替わる）とETCユニットから「ピッピッ」と音がします。
 - ETCユニットの音声案内を中止（音量0）に設定した場合は、「ピー」とブザー音のみ出力されます。

● 走行中のランプ表示と通知音について

走行中は、次のようにETCユニットのランプ表示と通知が行われます。
ただし、安全のため運転者は走行中にランプ表示を見ないでください。

■ ETCゲート（入口）、検札所、予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナを通過したとき



通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のようになります。

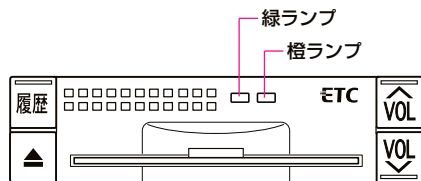
● 通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音※	「ピッ」

※ ETCカード未挿入お知らせアンテナを通過したときは、通知されません。

● 通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。
「統一エラーコード一覧」(P.294参照)の記載にしたがって対処してください。



注意

ETCカード未挿入お知らせアンテナ、ETCゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ETCカードを抜かないでください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。

知識

ETCゲートを通過するときは

ETCカードが未挿入の状態、予告アンテナやETCカード未挿入お知らせアンテナを通過した場合は、橙ランプが点滅し、「ピー ETCをご利用できません」と案内されます。これはETCが利用できないことをお知らせするもので、ETCユニットが故障したわけではありません。

■ ETCゲート（出口／精算用）を通過したとき

通信が正常に行われたかどうかにより、通知される内容がそれぞれ次のように異なります。

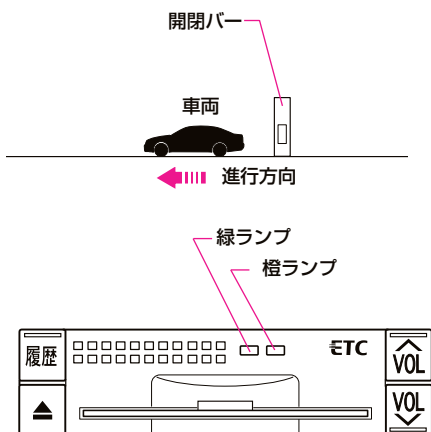
●通信が正常に行われた場合

ランプ表示	緑ランプが点灯したまま
通知音	なし
音声案内	通行料金を通知

●通信が正常に行われなかった場合

橙ランプが点滅し、統一エラーコードを音声でお知らせします。

「統一エラーコード一覧」(P.294参照)の記載にしたがって対処してください。



注意

ETCゲート進入時は、十分減速してください。

- ETCゲート進入時は、十分減速してください。
- ETCゲート通過時は、ETCゲート付近に表示されている案内にしたがって走行してください。
- ETCゲートの開閉バーが開かない場合は、料金所係員の指示にしたがってください。
- その他、道路事業者の発行する利用方法にしたがってください。
- 必ず、ETCゲート（入口）で使用したETCカードで、ETCゲート（出口／精算用）または検札所を通過してください。
- ETCカード未挿入お知らせアンテナ、ETCゲート、検札所、予告アンテナ付近では、ETCカードを抜かないでください。
ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。



知識

通行料金の音声案内について

通知される通行料金は、割引きなどにより実際と異なる場合があります。



知識

ゲート通過時の通知について

道路側システムにより通信が正常に行われた場合、1つのゲートで2回通知されることがあります。

道路設備について

- 予告アンテナは、料金所の手前に設置され、E T Cユニットと通信し、E T Cゲートを利用できるかどうかをE T Cユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- E T Cカード未挿入お知らせアンテナは、料金所の手前に設置され、E T Cユニットと通信し、正しくE T Cカードが挿入されていない場合にE T Cユニットを通じて運転者にあらかじめ通知するためのアンテナです。
- 予告アンテナ・E T Cカード未挿入お知らせアンテナは、道路側のシステムにより、設置されている場合と設置されていない場合があります。

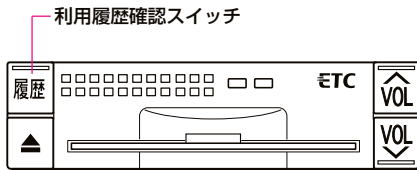
目次

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

● 利用履歴の確認について

E T Cユニットの利用履歴確認スイッチで、有料道路の利用日および通行料金を音声で確認できます。

E T Cカードが挿入され、緑ランプが点灯した状態で、停車中に利用履歴確認スイッチを押すと、最新の利用履歴が音声で案内されます。



- 利用履歴確認スイッチを押すごとに、古い利用履歴に切り替わります。なお、最も古い利用履歴の次は、最新の利用履歴に切り替わります。
- 案内終了後、約1秒以上たってからスイッチを押した場合は、最新の利用履歴から案内されます。



E T Cゲート、検札所、予告アンテナ／E T Cカード未挿入お知らせアンテナ付近では、利用履歴の確認を行わないでください。路側無線装置と通信ができなくなるおそれがあります。



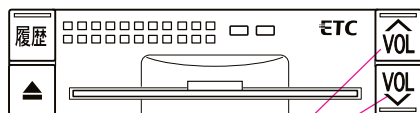
知識

利用履歴について

- 利用履歴はE T Cカードに記録されるため、記録件数は使用するE T Cカードにより異なります。(最大100件)
- 利用履歴の最大記録件数を超えた場合は、最も古い利用履歴が消去されます。
- 利用履歴がない場合は、「**利用履歴はありません**」と案内されます。
- 利用日の情報が正しくない場合は、「**利用日付は不明です**」と案内されます。
- 通行料金の情報が正しくない場合は、「**料金は不明です**」と案内されます。

音量調整について

ETCユニットの音量調整スイッチで、ETCユニットから出力される音声案内の音量を調整することができます。



音量調整スイッチ

ETCユニットの音量調整スイッチで、ETCユニットから出力される音声案内の音量を8段階に調整することができます。

音量を

- 大きくするときはスイッチの **↑VOL** 側
- 小さくするときはスイッチの **↓VOL** 側を押します。

音量を調整すると、調整結果が音声で案内されます。

音量	音声案内
1～8	「音量〇〇です」
0	「音声案内を中止します」

知識

音量調整について

- 音量調整は、以下のような案内に有効です。
 - 未セットアップ状態の通知
 - エラー発生時のブザー音
 - カード抜き忘れ警告（P.288参照）
 - 利用履歴の確認
 - 音量調整時の案内
- 音量調整を中止（音量0）に設定してあっても、エラー発生時には音量1で出力されます。
- ETCユニットが未セットアップ状態（セットアップ手続きをしていない状態）の通知は、ETCユニットを消音（音量0）にすると出力されません。

エラーコードについて

統一エラーコード一覧

エラーが発生すると、橙ランプが点滅するとともに統一エラーコードが音声出力されます。この場合は、以下の表にもとづき、処置をしてください。

(例) エラー03が発生したときは、次のように音声で案内されます。

音声案内：「ピッピッ カードを読めません エラー03」

コード	異常状態	想定される要因	処置
01	ETCカード 挿入異常	● ETCカードが通信時に挿入されていない ● ETCカードの挿入状態が悪い	ETCカードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。
02	データ処理異常	● ETCカードへの読み出し、書き込みエラー ● ETCカードとユニットの接点不良（ETCカードアクセス中の瞬断） ● 読み出し中、書き込み中カードのイジェクト	ETCカード挿入時： 挿入されたETCカードのデータが読み出せませんでした。再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。 ETCゲート通過前： 料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 車両停止後、料金所係員の指示にしたがってください。 ETCゲート通過後： 次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。 料金所係員のいる一般レーン（ETC／一般共用レーンを含む）へ進入してください。
03	ETCカード 異常	● ETCカードが故障している ● ICカード以外のカードが挿入され、通信しない ● ETCカードの誤挿入（裏面、挿入方向違い）	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。正しいETCカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。

コード	異常状態	想定される要因	処置
04	E T Cユニット故障	自己診断の結果、E T Cユニットが故障していると判断された	再度エンジンを始動してみてください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
05	E T Cカード情報の異常	● E T Cカードとの認証エラー ● E T Cカード以外の I Cカードが挿入 ● 認証中 E T Cカードのイジェクト ● 未セットアップ状態での E T Cカードの挿入	挿入されたカードが E T Cカードであると認識できませんでした。正しい E T Cカードであること、および挿入方向などをご確認のうえ、再度挿入してください。 エラーが解消しない場合は、トヨタ販売店へお問い合わせください。
06	ユニット情報の異常	路側無線装置との認証エラー	ユニットと料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。 料金所係員の指示にしたがってください。
07	通信異常	路側無線装置との通信が途中で終了	

知識

統一エラーコードについて

- E T Cカード未挿入お知らせアンテナなどと通信したときに、統一エラーコード（07）と通知されることがありますが、E T Cユニットの故障ではありません。
- E T Cユニットの無線通信を利用して、駐車場管理システムが運用されています。有料道路の料金支払いと異なる通信を行った場合、統一エラーコード（01）または（07）と通知されることがありますが、E T Cユニットの故障ではありません。

E T Cゲート通過後のエラー発生時は

E T Cゲート通過後にエラーが発生した場合、E T Cカードを抜くとエラー音が停止します。再度、E T Cカードを挿入すると「**ポーン E T Cカードが挿入されました**」の音声と同時に緑ランプが点灯しますが、次の料金所にて車両の停止が案内されることがあります。

目次



基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

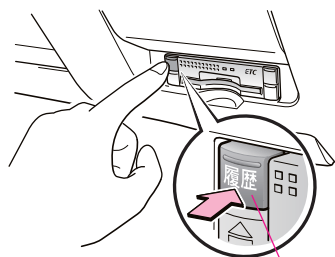
索引

● 記録されているエラーコードを確認するには

ETCユニットは、最後に発生した統一エラーコード（P.294参照）を記録しています。コードの確認をする場合は、次のように行います。

- 1 イジェクトスイッチを押し、ETCカードを抜きます。

- 2 利用履歴確認スイッチを約2秒以上押します。
最後に案内された統一エラーコードが音声で案内されます。



利用履歴確認スイッチ

MEMO

目次

基本
操作
早
わ
か
り運
転
装
置
の
取
り
扱
い**室
内
装
備
の
取
り
扱
い**安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メ
ン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

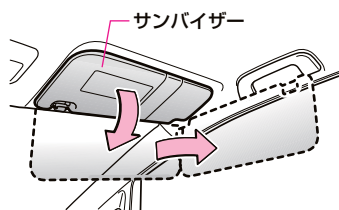
室内装備品の使い方

サンバイザー



日差しがまぶしいときに使用します。

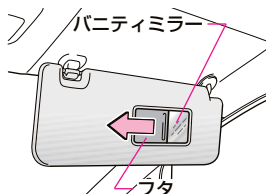
側面にまわして使用することもできます。



知識

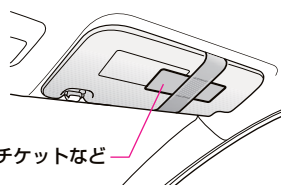
便利機能について

バニティミラー★



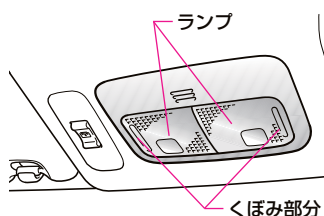
サンバイザーの裏側に化粧用ミラーが付いています。フタをスライドさせて使用します。

チケットホルダー



サンバイザーの表側にあります。チケットなどを収納することができます。

フロントパーソナルランプ



くぼみ部分を押しと押しした側のフロントパーソナルランプが点灯し、もう一度押しと消灯します。



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

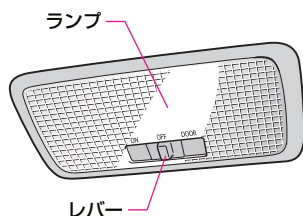
車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

ルームランプ



- レバーがONの位置のとき点灯します。
- レバーがOFFの位置のとき消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- レバーがDOORの位置のときは、ドアの開閉、解錠・施錠、“エンジンスタートストップ”スイッチの状態などと連動して、ルームランプが点灯・消灯します。
(詳しくは、P.99、132の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。)

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- レバーがDOORの位置のときは、ドアの開閉、解錠・施錠、エンジン スイッチの状態などと連動して、ルームランプが点灯・消灯します。
(詳しくは、P.99、132の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。)



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

バッテリーあがり防止機能について

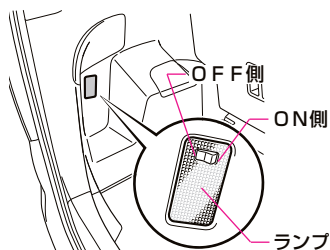
スマートエントリー & スタートシステム装着車

いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（DOORの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチにキーが差し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、ルームランプ（DOORの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き、ルームランプが自動的に消灯します。

ラゲージルームランプ



- OFFのときは消灯します。
- ONのときはバックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態に関係なく使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチの状態に関係なく使用できます。

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

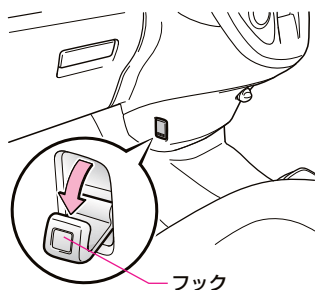
万
一
の
と
き

索引

コンビニフック★



買い物袋などの手下げ部を固定することができます。



センターコンソール下にあります。
フックを手前に引き出して使用します。
●使用しないときは格納してください。

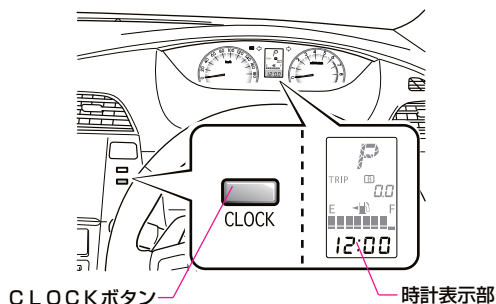


注意

**重たいものや大きなものをフックに掛けないでください。
(最大荷重約4kg)**

- 重たいものや大きなものをフックに掛けないでください。(最大荷重約4kg)
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
- フックを使用しないときは、格納しておいてください。
指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

時計



CLOCKボタン

時計表示部

“時” “分” を調整するときは

- 1 CLOCKボタンを約1秒以上長押しします。
“時” 調整モード (“時” 表示が点滅) に切り替わります。
- 2 “時” を調整します。
CLOCKボタンを押すごとに “時” が進み、押し続けると早送りされます。
- 3 CLOCKボタンから手を離し、約5秒間待ちます。
“分” 調整モード (“分” 表示が点滅) に切り替わります。
- 4 “分” を調整します。
CLOCKボタンを押すごとに “分” が進み、押し続けると早送りされます。
- 5 CLOCKボタンから手を離し、約5秒間待ちます。
時計が作動を開始します。

時報に合わせるときは

時報と同時にCLOCKボタンを押すと、正時に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は1:00に、1:30～1:59の場合は2:00になります。



知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッションONモードのとき表示されます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ON” のとき表示されます。

目次



警告

基本
操作運転
装置
の
扱い室内
装備
の
扱い安全・快適
装備
の
解説
と
注意車
との
上手
な
付き合い方メン
テナ
ンス万
一
の
とき

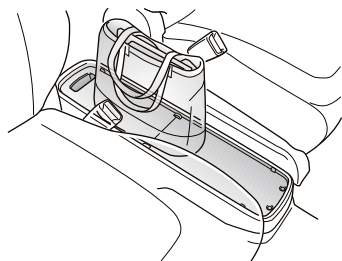
索引

センターコンソール／カップホルダー／小物入れ



センターコンソールはトレイとして使用できます。また、可動部を起こせばカップホルダー／小物入れとしても使用できます。

● トレイとして使用する



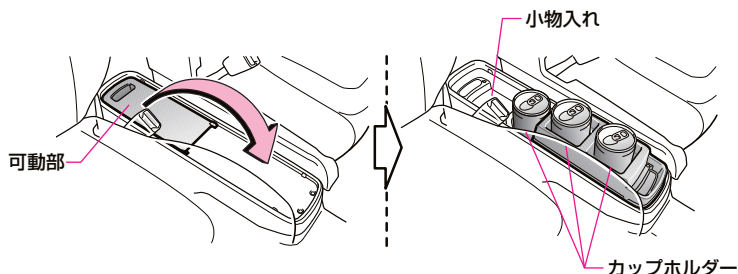
トレイとして使用できます。



警告

走行中はトレイを使用しないでください。トレイの上に物を置いたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどに物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● カップホルダー／小物入れとして使用する



可動部を起こして使用します。



警告

カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。

- カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタをしておいてください。



注意

カップホルダーを破損から守るためカップホルダーに手をついたりしないでください。

- カップホルダーを破損から守るためカップホルダーに手をついたりしないでください。カップホルダーが破損するおそれがあります。
- 可動部を開閉するときは、指などを挟まないように注意してください。
- カップホルダーにはペットボトルや安定性の悪いものを置かないでください。倒れる可能性があります。ペットボトルなどはボトルホルダーに置いてください。



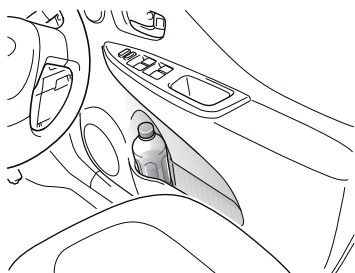
知識

カップホルダーについて

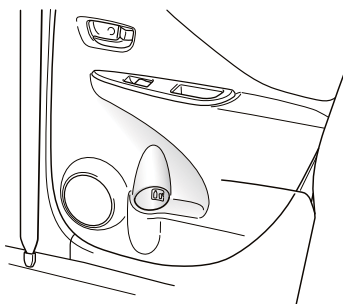
前側の2ヶ所は500mlまでの紙パックの飲み物を置くことができます。

ボトルホルダー

■前席ドア



■後席ドア



各席ドアにあります。



注意

走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

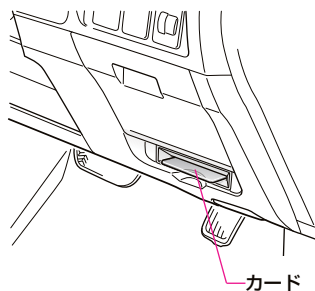
知識

ボトルホルダーについて

- 必ずペットボトルのフタを閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

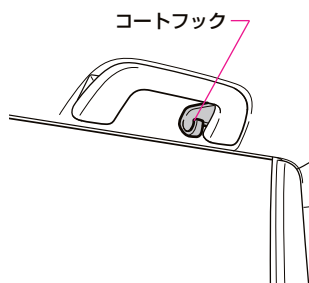
カードホルダー

ETC装着車を除く



運転席インストルメントパネル右下にあります。

コートフック



運転席側後席天井にコートフックがあります。



警告

コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。

前後席SRSカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次

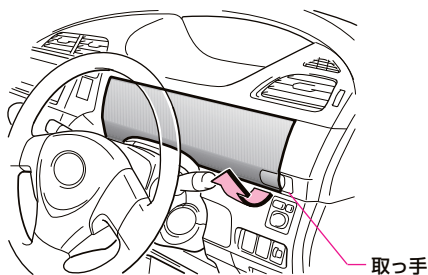


警告

基本
操作
早
わ
か
り運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メ
ン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

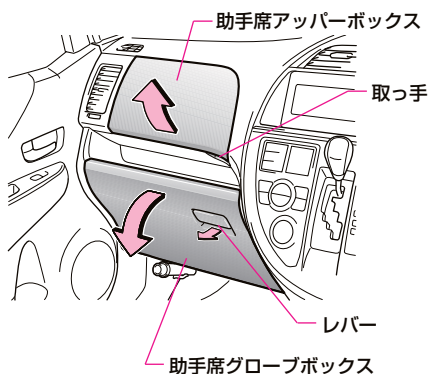
収納ボックス

■運転席アッパーボックス

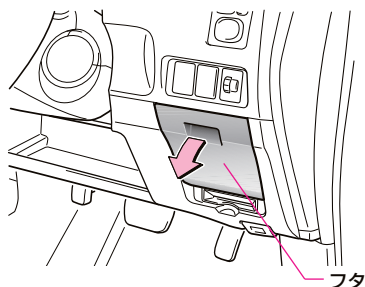


レバー、または取っ手を引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。

■助手席ボックス



■運転席ロアボックス



フタを引いて開けます。
●使用しないときは閉めておいてください。



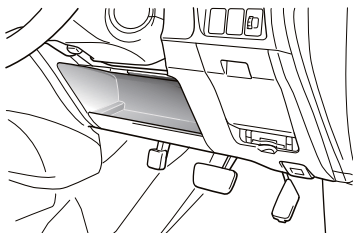
警告

収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。

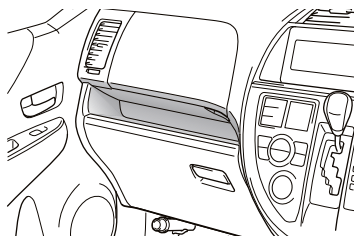
- 収納ボックスのフタを開けたまま走行しないでください。
急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席アッパーボックスは、走行中にフタの開閉をしないでください。特にハンドルの中に手を入れてフタを開けるようなことはしないでください。ハンドル操作に支障をきたし、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

収納トレイ／ポケット

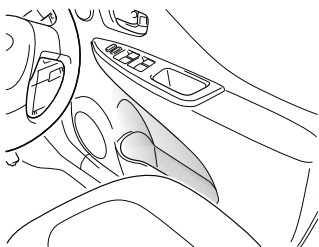
■運転席アンダートレイ



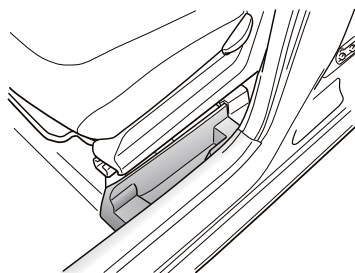
■助手席トレイ



■各席ドアポケット



■シートサイドトレイ



警告

収納トレイ／ポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください。
急ブレーキ、急旋回したときなどに置いたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

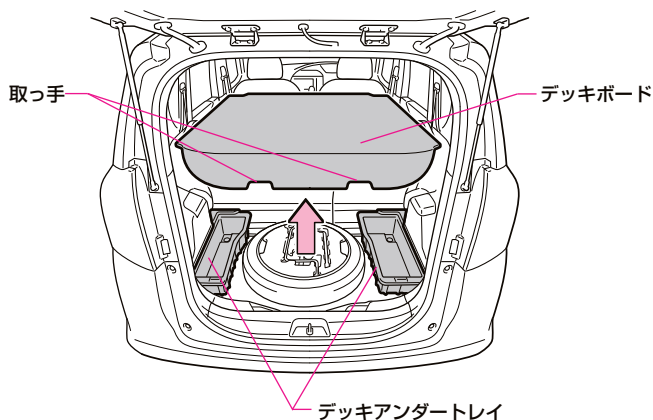
デッキアンダートレイ



デッキボードの下に荷物を収納することができるトレイがあります。
また、トレイは取りはずすこともできます。

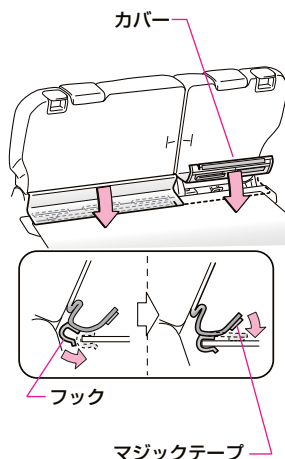
4WD車

● デッキボードの取りはずし方



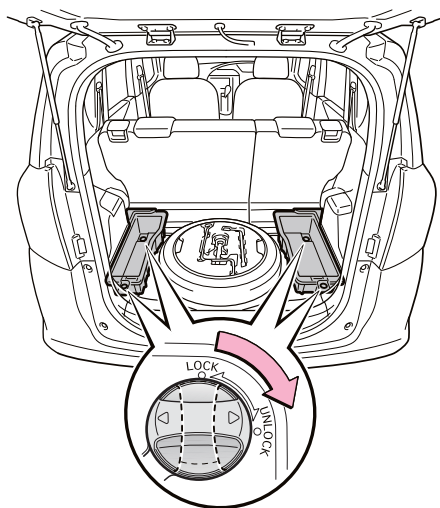
デッキボードの取っ手を持ってはずします。

■ もとにもどすときは



フック（運転席側1ヶ所／助手席側2ヶ所）をかけ、
カバーをマジックテープで固定します。

● デッキアンダートレイのはずし方



ツマミをUNLOCKの方向にまわしてロックを解除し、取りはずします。

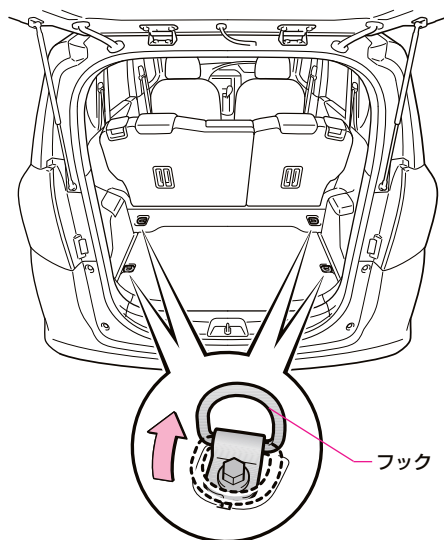
目次

警告

基本
操作
早
わ
か
り運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メ
ン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

デッキフック

FF車



使用するときは、フックを取り出します。

●使用しないときは、格納しておいてください。

知識

デッキフックについて

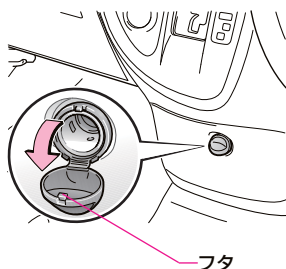
積荷の固定用として使用してください。

●フックは4カ所あります。

アクセサリースOCKET



電気製品の電源（DC12V）として使用できます。



フタを開けて使用します。

●使用しないときは、フタを閉めておいてください。



注意

アクセサリースOCKETを使わないときは、フタを閉めておいてください。

- アクセサリースOCKETを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水などがかかっていると、故障したり、ショートするおそれがあります。
- 最大電気容量をこえる電気製品を使用すると車両ヒューズが切れることがあります。
- エンジンを停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっている、アイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがることがあります。

知識

作動条件について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ONモードのとき使用できます。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき使用できます。

最大電気容量について

使用する電気製品は、必ずDC12Vで最大電流10A（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。

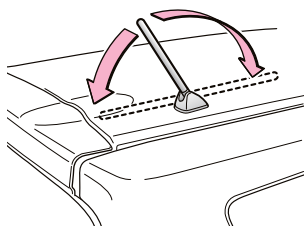
目次

基本
操作運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
い安
全
・
快
適
装
備
の
説
明
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
なメン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

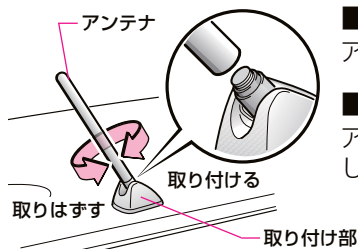
アンテナ

● 格納のしかた



アンテナを前またはうしろに倒して格納します。

● 脱着のしかた



■取りはずすときは

アンテナをまわして取り付け部から取りはずします。

■取り付けるときは

アンテナを取り付け部にねじ込み、しっかりと固定します。

■ラジオを装着された方は

ラジオ受信時は節度感のあるところまで立てて使用してください。



注意

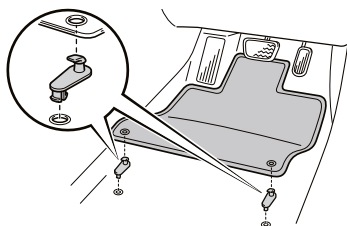
アンテナの取り扱いにはご注意ください。

- 自動洗車機にかけるときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
- 次のようなときは、アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
 - ・車庫などにアンテナが当たるとき
 - ・カーカバーをかけるとき
- 洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けてください。

フロアマット



お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。



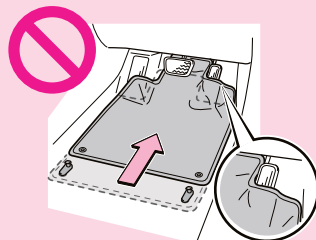
フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。



警告

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - ・運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - ・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。
 - ・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
 - ・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。
- 運転する前に、以下のことを確認してください。
 - ・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行ってください。
 - ・エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。



目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO

安全・快適装備 の解説と注意

SRSエアバッグ	318	Super CVT-i	334
SRSエアバッグとは	318	Super CVT-iとは	334
SRSエアバッグ作動の しくみ	319	Super ECT	335
SRSエアバッグが作動 するとき	320	Super ECTとは	335
シートベルト関係	327	電子制御スロットル (ETCS-i)	336
シートベルトの働き	327	電子制御スロットルとは	336
ABS、ブレーキアシスト	329	Vフレックスフルタイム4WD	337
ABS、ブレーキアシスト とは	329	Vフレックスフルタイム4WD とは	337
ABSやブレーキアシスト が作動しているとき	330	ディスチャージ ヘッドランプ	339
EBDの働き	331	ディスチャージ ヘッドランプとは？	339
VSC & TRC	332		
VSCとは	332		
TRCとは	333		

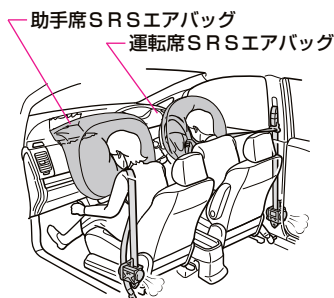
SRS※エアバッグ

SRSエアバッグとは

SRSエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、SRSエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。

また、正しく取り扱えば効果のあるSRSエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

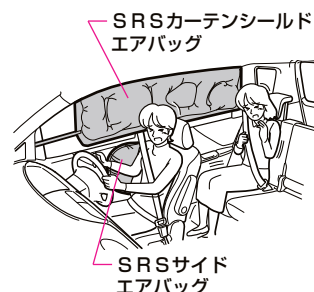
● 運転席・助手席SRSエアバッグ



運転席・助手席SRSエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。

助手席エアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

● SRSサイドエアバッグ・ SRSカーテンシールドエアバッグ



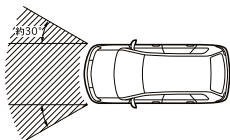
SRSサイドエアバッグは前席乗員、SRSカーテンシールドエアバッグは前後席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、SRSサイドエアバッグは前席乗員の胸などの上体に、SRSカーテンシールドエアバッグは前後席乗員のおもに頭部に作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

※Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

SRSエアバッグ作動のしくみ

● 運転席・助手席SRSエアバッグの作動



車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。衝撃は車両前方・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、運転席・助手席SRSエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送りSRSエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着するとセンサーが正常に衝撃を感知できなくなり、SRSエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

● SRSサイドエアバッグ・ SRSカーテンシールドエアバッグの作動

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。衝撃はセンターピラー、リヤピラー・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。

目次

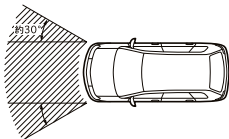
警告

基本
操作運転
装置
の
扱い室内
装備
の
扱い安全・
快適
装備
の
説明車
上
の
手
な
ま
の
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き索
引

SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

● 作動する場合



運転席・助手席SRSエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

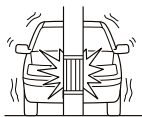
● 作動しにくい場合

■運転席・助手席SRSエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。



●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合

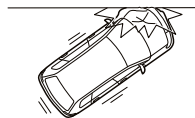


●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

次のような場合にも衝突による衝撃がゆるめられるため、作動しない場合があります。



●トラックの荷台下などへめぐりこみ衝突した場合

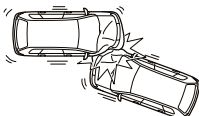


●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、作動する車速は高くなります。



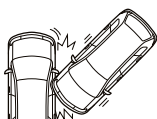
●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。



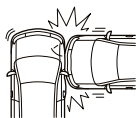
●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。



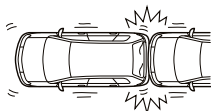
●斜め側面から衝撃を受けた場合



●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

●本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。



●側面や後方から衝撃を受けた場合
(運転席・助手席SRSエアバッグ)



●車両が横転、転覆した場合

●車両下部に衝撃を受けた場合

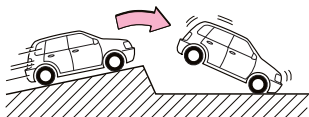
次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。



●縁石などにぶつかった場合



●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えた場合



●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合



SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

乗車するときには必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.176をお読みください。
- ・シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近付きすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

<運転者の方は>

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員の方は>

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。

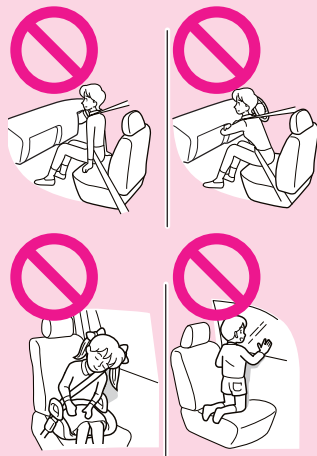
シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.152をお読みください。

- ・ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。
- ・ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・お子さまはリヤシートに座らせて必ずシートベルトを着用させてください。
- ・シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。





警告

SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ・助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。(P.37参照)

- ・やむを得ず助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取り付けてください。
- ・お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。



- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- ・SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。



- ・フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- ・フロントピラー・リヤピラーやルーフサイド部の取りはずし、取り付けなどSRSカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。



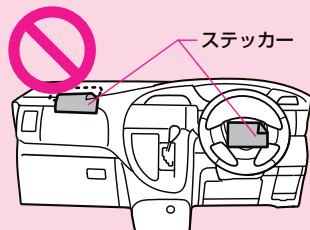
- ・サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわるとSRSエアバッグの誤作動につながります。
- ・車両前部または車両客室部の不適切な修理をしないでください。不適切な修理を行うとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。



S R Sエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、S R Sエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ S R Sエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。



- ・ インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席 S R Sエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。



- ・ フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けしないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものが S R Sサイドエアバッグ展開部をおおうと、S R Sサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。



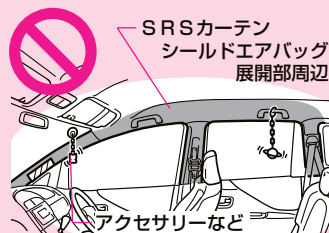
- ・ フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けしないでください。S R Sサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



**警告**

SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ・フロントウィンドウガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリ、ハンズフリーマイクなどを取り付けしないでください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

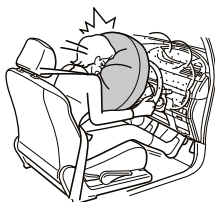


- ・リヤ席のコートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
- ・無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ・車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をするとSRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部、フロント・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたきなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後はSRSエアバッグ構成部品にふれないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。

**注意**

SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

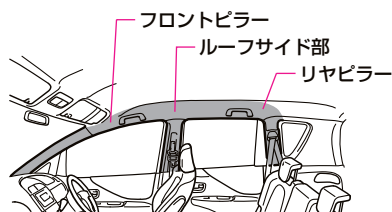
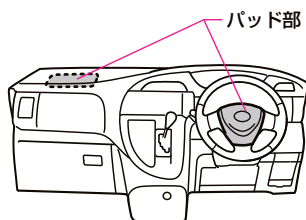
- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。





SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある方は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 衝突時などに助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウィンドウガラスが破損することがあります。
- 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でSRSエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではSRSエアバッグは作動しません。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロント・リヤビラー、ルーフサイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。



スマートエントリー & スタートシステム装着車

- エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。
燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“エンジンスタートストップ”スイッチを一度OFFにします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。
燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度“LOCK”にします。

シートベルト関係

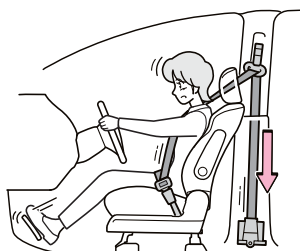
シートベルトの働き

プリテンショナー & フォースリミッター付シートベルトの働き

フロントシートベルト

- プリテンショナー機構は、乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

〈プリテンショナー機構〉



【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

〈フォースリミッター機構〉



【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

E L R機構付シートベルトの働き

3点式シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

目次

警告

基本
操作

運転
装置
の
取
り
扱
い

室内
装
備
の
取
り
扱
い

安全・
快速
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引



警告

プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、プリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・シートベルトを正しく着用する。(P.176参照)
 - ・シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する。(P.152参照)
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし、分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。



注意

車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。



知識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには作動しない場合があります。

- コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき
- なお、次のような場合は作動する場合がありますが、本来の効果を発揮しません。
- 側面や後方から衝撃を受けたとき
 - 車両が横転、転覆したとき

作動後について

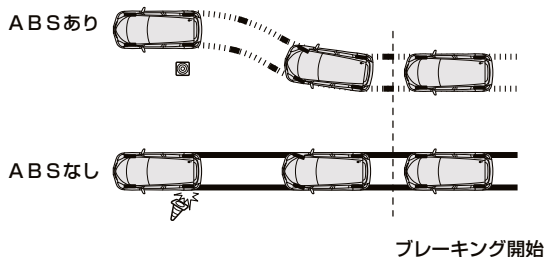
プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ABS※、ブレーキアシスト

ABS、ブレーキアシストとは

ABSの働き

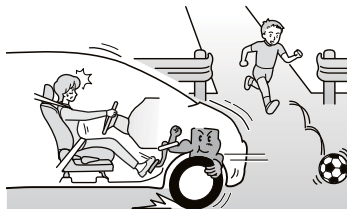
ABSは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。



ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、

- 緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
 - 緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
- などにブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に、運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。



運転者の踏力での制動力
+
ブレーキアシストの制動力



ABSの効果



ブレーキ性能の
十分な発揮

ABS、ブレーキアシストについて

ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転に心がけてください。

また、ABSやブレーキアシスト（VSC & TRC装着車）は、車輪に取り付けられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤのサイズが4輪とも同じでないと正確に判断できなくなるおそれがあります。P.57の「タイヤについての注意」をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。

※ ABSは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ABSやブレーキアシストが作動しているとき

● 運転について



- 急ブレーキ時は、ABSやブレーキアシストが効果を発揮するようにブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。
- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ*をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。
※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。



思いきり踏む



踏み続ける



ゆるめたり、ポンピングはしない

● 作動について

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。
- ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが異常ではありません。

VSC & TRC装着車

- ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くなるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

VSC & TRC装着車を除く

- ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くなるようになり、ABSが作動することがあります。

EBD※¹の働き

ABSの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。



警告

ABSやブレーキアシストを過信しないでください。

● **ABSやブレーキアシストを過信しないでください。**

ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ABSやブレーキアシストを過信せず速度をおさえ、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。

- ・ ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※²が起こった場合は効果を発揮できません。

※2 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

● **ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。**

次の場合などは、ABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- ・ 砂利道、新雪路を走行しているとき
- ・ タイヤチェーンを装着しているとき
- ・ 道路の継ぎ目などの段差をのりこえるとき
- ・ 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

● **ブレーキアシストはブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。**

知識

作動条件について

- ABS、ブレーキアシスト（VSC & TRC装着車）は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を停止します。
- 雨の日に、マンホールのフタ、橋の継ぎ目、工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ABSが作動しやすくなります。

作動音について

- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ABSの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。（VSC & TRC装着車を除く）

※1 EBDは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

VSC^{※1} & TRC^{※2}

VSCとは

VSC & TRC装着車

VSCは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.57の「タイヤについての注意」をよくお読みください。



VSCを過信しないでください。VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、VSC作動警告ブザー（断続音）が鳴ったり、スリップ表示灯（P.232参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知識

作動条件について

- VSCは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。
- VSC警告灯（P.236参照）が点灯しているときは、VSCは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

※1 VSCは、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

※2 TRCは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

TRCとは

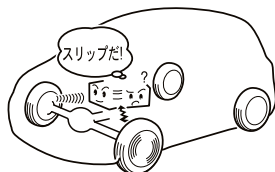
VSC & TRC装着車

● TRCの働き

すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップしはじめると、車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感知し、エンジンに対して出力を一瞬下げようとし、また、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。
- TRCが作動すると、スリップ表示灯（P.232参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じるがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

● TRCのしくみ



タイヤのスリップは4輪に取り付けられたセンサーからの信号を比較し、駆動輪のいずれかの信号が他の車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

● TRCとタイヤの関係について

TRCは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出がかわり、コンピューターがスリップと判断したりします。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.57の「タイヤについての注意」を参照してください。



警告

TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心がけ、スリップ表示灯（P.232参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

知識

作動条件について

通常はエンジンスイッチを“ON”にすると、TRCが作動可能状態になります。

- VSC警告灯（P.236参照）が点灯しているときは、TRCは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

目次



警告

早基本
わ操作

取り
転載
扱い
置の

取り
室内
扱い
装備
の

の安全・
解説と
注意
装備

付き
車との
合い
上手な
方

メンテナンス

万のとき

索引

Super CVT-i

Super CVT-i とは

FF車

Super CVT-i は、無段変速システムやロックアップシステム、登降坂変速制御システムとの統合制御などにより、なめらかで快適な走行と燃費性能を両立させた電子制御無段変速機です。

無段変速システムの働き

無段変速システムは、一對のプーリーと金属ベルトによって無段に変速を行います。そのため、変速ショックのないスムーズな走行が可能です。また、エンジンの出力を効率よく引き出すことができるため、優れた低燃費特性を実現しています。

ロックアップシステムの働き

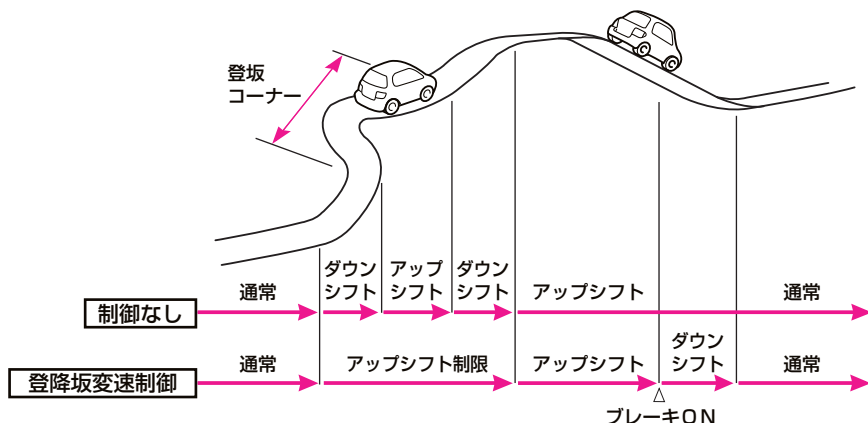
トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

ロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーが1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車では**Ⓐ**、**Ⓜ**、1.5L車（FF車）のシーケンシャルシフトモード装着車を除く車両と1.3L車では**Ⓐ**、**Ⓢ**または**Ⓔ**にあれば自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーが**Ⓐ**または**Ⓢ**で走行しているときに、登坂していると判断された場合、アップシフトを制限し、スムーズな走行を実現します。

また、降坂時には降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的にダウンシフトしエンジンブレーキがかかります。



注意

走行中、エンジン警告灯（P.237参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ECT

Super ECTとは

4WD車

Super ECTは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

● フレックスロックアップシステムの働き

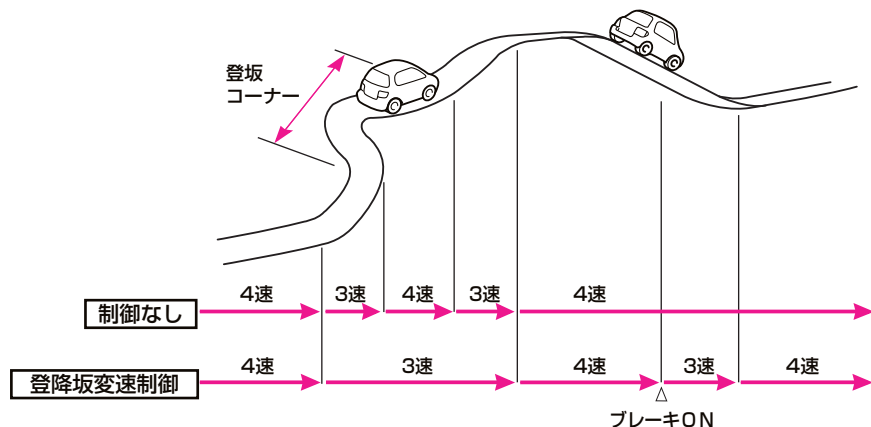
トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーが①、③にあれば自動的に作動します。

● 登降坂変速制御システムの働き

アップダウンのあるワインディング路などをシフトレバーが①で走行しているときに、登坂していると判断された場合、4速へのシフトアップを制限し、3速によるスムーズな走行を実現します。

また、降坂時では4速で走行しているときに、降坂していると判断された場合、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンしエンジンブレーキがかかります。



注意

走行中、エンジン警告灯（P.237参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次



警告

基本
操作

運転
装置の
取り扱い

室内
装備の
取り扱い

安全・
快適装
備の
解説と
注意

車と
の上手
な
付き合い方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索
引

電子制御スロットル（ETCS-i※）

電子制御スロットルとは

電子制御スロットルは、各運転条件においてアクセル開度に対するエンジン出力を最適にコントロールし、車両の優れた操作性を確保する装置です。

エンジン電子制御システムなどとの統合制御により、様々な運転領域にわたって、良好なアクセルコントロール性の確保に貢献します。



エンジン警告灯（P.237参照）が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。

※ETCS-iは、Electronic Throttle Control System-intelligent（エレクトロニック・スロットル・コントロール・システム-インテリジェント）の略。

Vフレックスフルタイム4WD

Vフレックスフルタイム4WDとは

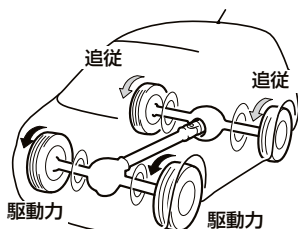
4WD車

通常はほぼFF走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生すると、ビスカスカップリングの作用により自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。

Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性に寄与する装置です。

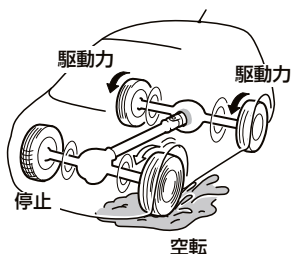
Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.51の「Vフレックスフルタイム4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

通常時（FF走行）



通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（FF）に近い状態で走行します。

コーナリング時や雪道（4WD走行）



コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生すると、ビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。

通常走行にもどると、2WDになります。

タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.57の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

目次

警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
扱
い

室
内
装
備
の
取
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
説
明
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索
引



宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあります。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - ・4輪の空気圧の差が著しいとき
 - ・空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.360参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.399参照）

ディスチャージヘッドランプ★

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。



ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。



オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

荷物の積みおろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。

目次



基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

MEMO

6

車との上手な 付き合い方

雨の日の運転について	342
雨の日の運転	342
寒冷時の取り扱い	343
冬の前の準備、点検	343
運転する前に	344
走行するときは	345
駐車するときは	348
経済的な運転	349
環境にやさしく経済的な運転を するために	349
環境保護のために	351
使用済み部品、廃オイル類は 適正な処理をする	351

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

雨の日の運転について

雨の日の運転

● すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので慎重に走行してください。

- 雨の降りははじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日はハイドロプレーニング現象*でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるのでスピードは控えめにしてください。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し接地力を失ってしまう現象。



警告

すべりやすい路面では慎重に運転してください。

- すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。



警告

冠水した道路を走行しないでください

- 冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- 万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合
 - エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です。）
 - プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

● エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
(P.398の「推奨するエンジンオイル」参照)

● ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

● 冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12℃
寒冷地	50%	-35℃



注意

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

● バッテリーの液量、比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

● 冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- 積雪路、凍結路では冬用タイヤを装着し、あわせてタイヤチェーンをご用意ください。冬用タイヤの装着サイズについては、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤを取り替えるときは、必ずP.57の「タイヤについての注意」をお読みください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- 必ずラクティス指定のトヨタ純正チェーンを使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● 寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時は、通常のワイパーブレードを使用してください。

目次



基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安全・快適装備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索
引

運転する前に

● 屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

● ガラスに付いた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷付けずに落とすことができます。



注意

フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

● ランプ類に付いた雪や霜は

ランプ類に付いた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にもときどき点検してください。

● 足まわりなどに付いた氷塊は

車体などに傷を付けないように取り除いてください。

● 外気取り入れ口に積もった雪は

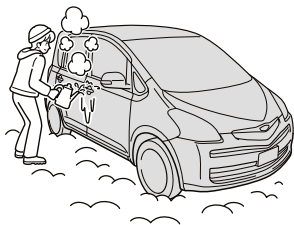
フロントウィンドウガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。

雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

● ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

● ドアが凍結したときは



お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。

無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

● 靴についた雪をよく落とす



ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

● すべりやすい路面では“急”の付く操作はしない

急発進、急ハンドル、急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。



警告

シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● フェンダー裏側に付いた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

● ブレーキ装置に付いた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

● すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.57の「タイヤについての注意」をお読みください。



警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは前2輪に取り付けてください。
- タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- 必ずラクティス指定のトヨタ純正チェーンを使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側にあたり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取り付ける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

1 エンジンを停止します。

シフトレバーをPにし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.404の「工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取り付ける場合には輪止めが必要です。

- 輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 フルキャップ装着車はホイールキャップをはずします。

（P.413の「タイヤ交換のしかた」参照）



警告

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので慎重に運転してください。



注意

タイヤチェーンを取り付けるときは、ディスクホイールやホイールキャップに傷を付けないよう注意してください。

- フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップを付けたままタイヤチェーンを取り付けると、ホイールキャップに傷が付くことがあります。
- アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。
- トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車するときは

● エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● パーキングブレーキはかけない



寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■ 平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをPにし、輪止めをします。

■ やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをPにします。

● 輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。

● 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。



パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

● ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

● ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付いたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときはエンジンを停止します。

5分間のアイドリングを止めて、ガソリン約65ccの節約。

▶CO₂ 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。

10kgの荷物をおろして50km走るとガソリン約15ccの節約。

▶CO₂ 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。

空ぶかしを1回止めてガソリン約6ccの節約。

▶CO₂ 約1150g削減（300回／月）

カーエアコンは少し控えめに。

エアコンを6分停止してガソリン約70ccの節約。

▶CO₂ 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧はこまめにチェック。

適正値で50km走ると50kPa {0.5kg/cm²} 減のときに比べてガソリン約150ccの節約。

▶CO₂ 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。

急発進1回止めてガソリン約17cc、急加速1回止めて約11ccの節約。

▶CO₂ 約360g削減（各20回／月）

経済速度でロスなし走行。

一般道路で40～50km/h、高速道路では80km/hがベスト。

100km/hを80km/hにして燃費10～30%向上。

●法定速度を守り、安全運転に心がけてください。

たとえば加速

加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。

シフトアップやロックアップが確実にでき、効率がよくなります。

たとえば下り坂、減速

早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。

ガソリンエンジンでは燃料噴射の停止により燃費がよくなります。

平地走行でも

アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。

思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど低燃費となります。

目次



警告

基本
操作

運転
装置
の
扱い

室内
装備
の
扱い

安全・
快適
装備
の
説明
と
注意

車
の
上
手
な

付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

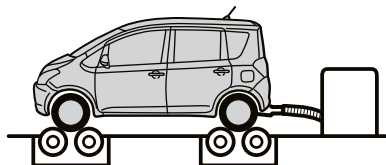
索引

「10・15モード」とは

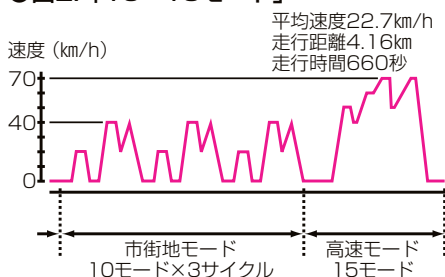
車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件にしたがって測定された燃費です。

このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

●図1. シャシーダイナモーター



●図2. 「10・15モード」



「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したのですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、たとえば

- 走行速度の平均が「10・15モード」より低い
- 停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
- 急な加速を行なった

など条件の違いにより燃費が悪くなります。

※数値は、2.0Lクラスの乗用車（AT車）の燃費11.7km/L（10・15モード）を基準に計算してあります。（各車両型式の燃費は、車両カタログをご覧ください。）

※CO₂排出量は、ガソリン1LあたりのCO₂排出係数0.64で計算してあります。

参考資料 ●[日本自動車工業会](#)：「あしたへ ECO-MOTION」

●[日本自動車連盟](#)：「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

環境保護のために

使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする

- バッテリーは鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
- タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルは放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。購入した販売店に処分を依頼してください。
- 不凍液は冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。
川などに流すと水質汚濁の原因になりますので、不凍液の交換はトヨタ販売店にご相談ください。
- エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスC F C 12）は、大気に放出されるとオゾン層の破壊を進めます。
トヨタではオゾン層を破壊しない代替フロンガス（H F C 134a）に全車切り替えを完了しています。（93年完）
それでも、代替フロンガス（H F C 134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえでガス充填をしてください。

目次



基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

MEMO

7

メンテナンス

車の手入れ	354
日頃の手入れ	354
外装の手入れ	354
内装の手入れ	356
エアコンの手入れ	357
タイヤの点検	360
キーの電池交換	361
ヒューズの点検、交換	365
外装の電球（バルブ）交換	371
日常点検	380
日常点検について	380
エンジンルームの点検	380
車のまわりの点検	388
運転席に座っての点検	391
走行しての点検	393
メンテナンスデータ	394
メンテナンスデータ	394
ユーザーカスタマイズ機能	400
ユーザーカスタマイズ機能	400
初期設定項目	402
初期設定項目	402

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

● 洗車、ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

● 月に1度はワックスがけを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

● 保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。



注意

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの落下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

● 洗車するときは

十分水をかけながら、よごれを洗い落とし、洗い落としのあとは水を拭き取ります。

- 車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- よごれのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
- はん点が残らないように水を拭き取ります。

● 高圧洗車機を使うときは

ノズルの先端をドアガラスなどに近付けすぎないでください。近付けすぎると水圧が高いため、車内に水が入るおそれがあります。

● 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- リヤスポイラー装着車は、洗車機によってはスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損するおそれがあります。

● アルミホイールの手入れ

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
- 光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

● ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安）に行います。



警告

エンジンルーム内に水をかけないでください。

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると凍結して、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり走行できなくなる場合があります。
- 洗車後はブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。



注意

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷が付きます。
- フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。

内装の手入れ

室内の清掃

カーリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。



警告

車内に水をかけないでください。

- 車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。前席フロアにSRSサイドエアバッグの配線があるため、水がかかるとSRSサイドエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあり危険です。また、フロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぼおそれがあります。



注意

クリーナーに含まれる成分に注意してください。

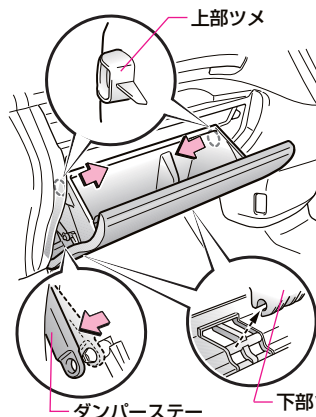
- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

エアコンの手入れ

● エアコンガス（冷媒）の点検

冷媒が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に点検、補充をしてください。
エアコンガス（冷媒）の点検については、トヨタ販売店にご相談ください。

● エアフィルターの交換



1 スマートエントリー&スタートシステム装着車

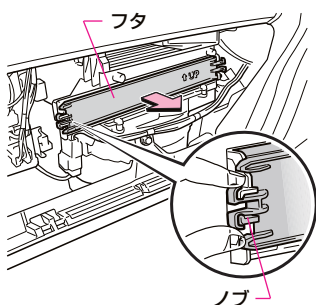
“エンジン スタート ストップ” スイッチを
OFF にします。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK” にします。

2 グローブボックスをはずします。

グローブボックスを開け、ダンパーステアを取りはずしてから、グローブボックス上部のツメをグローブボックスを内側にたわませながら左側から片側ずつはずし、グローブボックスをいっぱいまで開き、下部ツメを引き抜いて取りはずします。

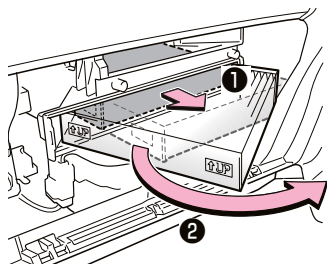


3 フィルターケースのフタをはずします。

フタの左側にあるノブをつまみながら手前に引いて取りはずします。

4 フィルターを取り出します。

- ① フィルターを手前に引き出してから、
- ② 図の矢印の方向に回転させながらフィルターを取り出します。



目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

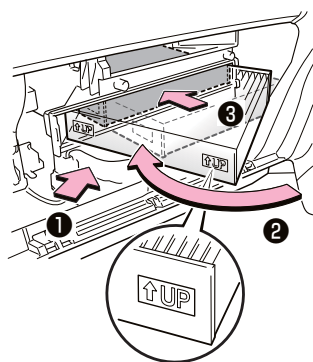
安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



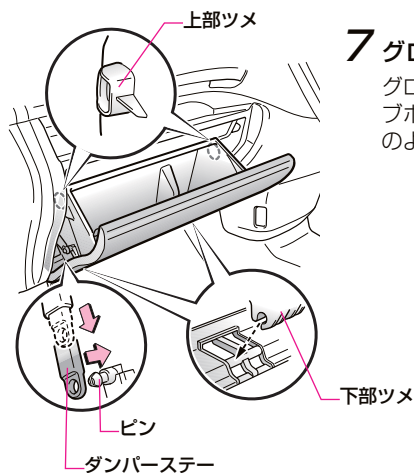
5 新しいフィルターを取り付けます。

- ① フィルターを斜めにセットし、
- ② 図の矢印の方向に回転させ、
- ③ フィルターを挿入します。
- フィルターの「↑UP」のマークの矢印が上になるようにして確実に取り付けます。

6 フィルターケースのフタを取り付けます。

フィルターケースの切り欠きにフタのツメをあわせて取り付けます。

- フタの「↑UP」のマークの矢印が上になるようにして確実に取り付けます。



7 グローブボックスを取り付けます。

グローブボックス下部のツメを取り付けてから、グローブボックス上部のツメをはめ込み、ダンパーステーを図のように伸ばしピンに差し込みます。



注意

エアフィルターを交換するときは、次のことをお守りください。

- エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- エアフィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。
- エアフィルターの裏と表を間違えないように、エアフィルターをフィルターケースに確実に取り付けてください。
- 必ずエアフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- エアフィルターの交換は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにしてから行ってください。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エアフィルターの交換は、エンジン スイッチを“LOCK”にしてから行ってください。



知識

エアフィルターの交換について

- エアコンにはエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。
- エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
- エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

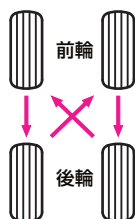
交換の目安

エアフィルター（微細塵フィルター）…………… 20,000km【10,000km】ごと

【 】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤの点検

● タイヤローテーション（タイヤ位置交換）



タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。



警告

タイヤローテーションを行ったあとは、指定空気圧に調整してください。指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

※高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。



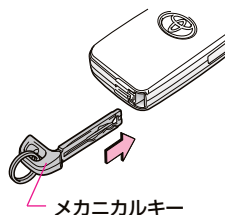
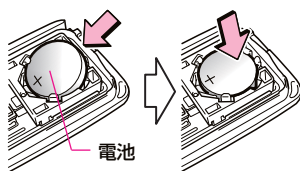
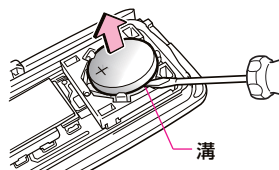
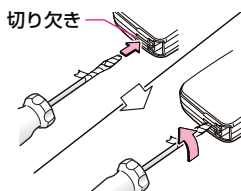
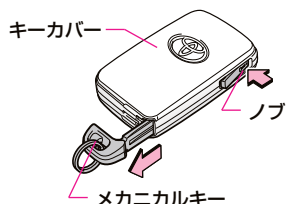
注意

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

- 日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
(P.57の「タイヤについての注意」参照)
- タイヤ・ディスクホイール・ディスクホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。(P.66の「その他の注意」参照)

キーの電池交換 ★

● 電子キーの電池交換



1 メカニカルキーを取り出します。

ノブのキーマークのある側を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。

市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。

● 傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

3 電池を取り出します。

市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 新しい電池を取り付けます。

電池を斜めに挿入し、上から押さえ付け、確実に取り付けます。

● 電池の⊕側を上にして取り付けます。

5 キーカバーを取り付けます。

6 メカニカルキーを取り付けます。

7 作動確認をします。

いずれかのスイッチを押したとき、本体のLEDが点灯することを確認します。



警告

電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時には取り外した部品などを紛失しないようにご注意ください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などが付着しないように注意してください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。



知識

電池について

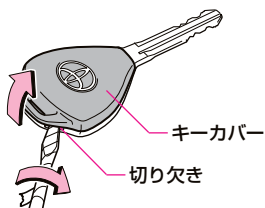
使用電池……リチウム電池CR1632

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での変換をおすすめします。

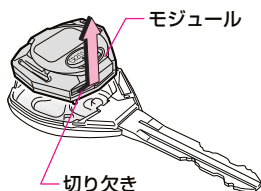
● ワイヤレスドアロックリモコンキーの電池交換



1 キーカバーをはずします。

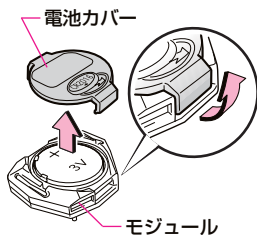
市販のマイナスドライバーを切り欠きに差し込み、矢印のようにひねりながらカバーをあけます。

● 傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。



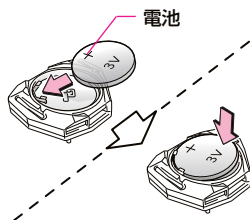
2 モジュールを取り出します。

切り欠きに爪などをかけて、モジュールを本体から取り出します。



3 電池カバーをはずします。

モジュールの電池カバーを取りはずします。



4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

5 電池カバーを確実に取り付けます。

6 モジュールおよびキーカバーを取り付けます。

モジュールを本体の中にもどし、キーカバーを取り付けます。

7 作動確認をします。

目次

警告

基本操作

運転装置の取り扱い

室内装備の取り扱い

安全・快適装備の解説と注意

車との上手な付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



警告

電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時には取り外した部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池カバーを曲げたりしないように注意してください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。



知識

電池について

使用電池……リチウム電池CR2016

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客さまご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。

次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

ヒューズの点検・交換のしかた

1 スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタートストップ”スイッチをOFFにします。

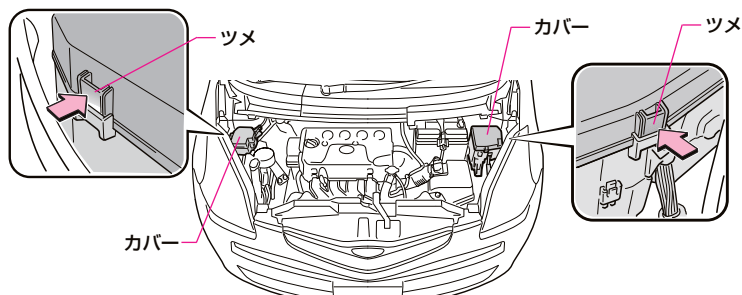
スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“LOCK”にします。

2 ヒューズボックスを開けます。

ヒューズラベルが、フタまたはカバーに表示されています。

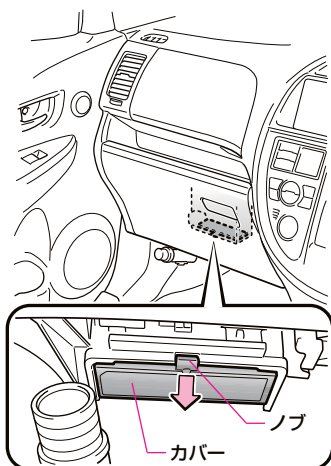
■エンジンルーム内ヒューズボックス



ツメを押しながらカバーを取りはずします。

■室内ヒューズボックス

助手席側インストルメントパネル下にあります。



ノブを引いてカバーを取りはずします。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

4 ヒューズを交換します。

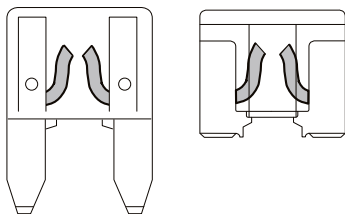
ヒューズが切れていたら、ヒューズラベルの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

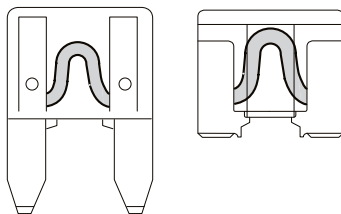
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・取り替えても再びヒューズが切れるとき
- ・取り替えても電気系統の装置が働かないとき

切れた状態



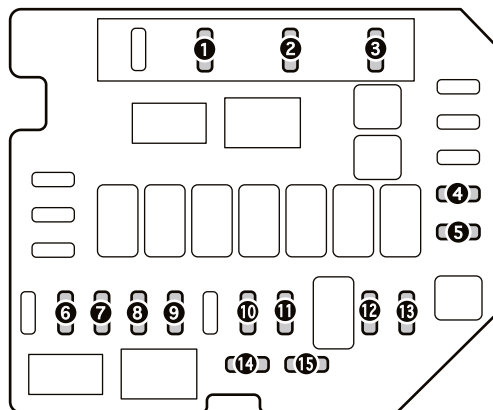
切れていない状態



規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

● ヒューズの受け持つ装置

■ エンジンルーム内ヒューズボックス（助手席側）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	AM2	15A	インジェクター、IGコイル
②	HORN	10A	ホーン
③	E F I	20A	E F I コンピューター
④	F R D E F	20A	フロントワイパーデアイサー
⑤	ABS2/VSC2	30A	ABS/VSC
⑥	ST	30A	スターター
⑦	S-LOCK ※ ¹	20A	電子制御ステアリングロック
⑧	DOME	15A	ルームランプ
⑨	ECU-B	7.5A	電子キー、メーター
⑩	ETCS	10A	電子制御スロットル
⑪	HAZ	10A	非常点滅灯
⑫	H-LP L O R H	15A	ヘッドランプ ロービーム（右）
⑬	H-LP L O L H	15A	ヘッドランプ ロービーム（左）
⑭	H-LP H I L H ※ ²	10A	ヘッドランプ ハイビーム（左）
⑮	H-LP H I R H ※ ²	10A	ヘッドランプ ハイビーム（右）

※¹ コンライト装着車

※² コンライト装着車を除く

*車の仕様により設定のないヒューズもあります。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

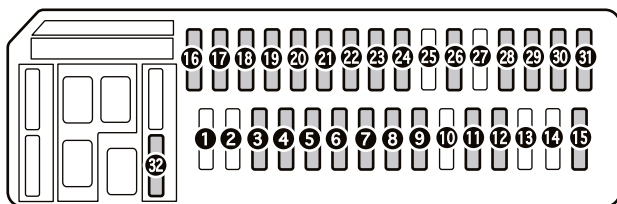
車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

■室内ヒューズボックス



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	—	—	—
②	—	—	—
③	W I P	20A	ワイパー
④	RR W I P	15A	リヤワイパー
⑤	WSH	15A	ウォッシャー
⑥	ECU I G	10A	ABS、VSC & TRC、電動パワーステアリング、電子キー
⑦	GAUGE	10A	シフトロック
⑧	OBD2	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
⑨	STOP	10A	制動灯
⑩	—	—	—
⑪	D/L	25A	ドアロック
⑫	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
⑬	—	—	—
⑭	—	—	—
⑮	AM1	25A	エンジン スイッチ
⑯	T A I L	10A	尾灯、番号灯、車幅灯
⑰	P A N E L 1	7.5A	室内照明
⑱	A/C	7.5A	エアコン
⑲	D D O O R	20A	運転席ドア ECU
⑳	R L D O O R	20A	左後席パワーウインドゥ
㉑	R R D O O R	20A	右後席パワーウインドゥ
㉒	S H A D E	20A	パノラマルーフシェード
㉓	C I G	15A	アクセサリソケット
㉔	A C C	7.5A	電動ミラー、 ETC
㉕	—	—	—
㉖	I D/UP	10A	E F I コンピューター
㉗	—	—	—
㉘	AM1 NO.2	7.5A	ジャンクション ブロック ECU
㉙	R R FOG	7.5A	リヤフォグランプ
㉚	I G N	7.5A	E F I コンピューター
㉛	M E T	7.5A	メーター
㉜	A C C 2	7.5A	電動ミラー、 ETC

*車の仕様により設定のないヒューズもあります。

目次

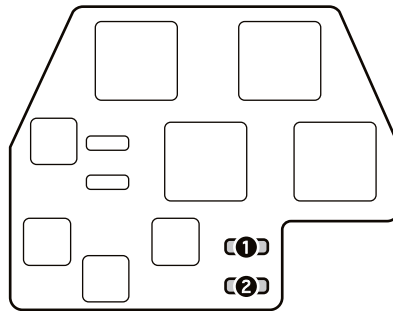


警告

基本
操作運転
装置
の
取
扱
い室内
装
備
の
取
扱
い安全・快適
装備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

■エンジンルーム内ヒューズボックス（運転席側）★



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	H-L P H I R H ※	10A	ヘッドランプ ハイビーム（右）
②	H-L P H I L H ※	10A	ヘッドランプ ハイビーム（左）

※ コンライト装着車

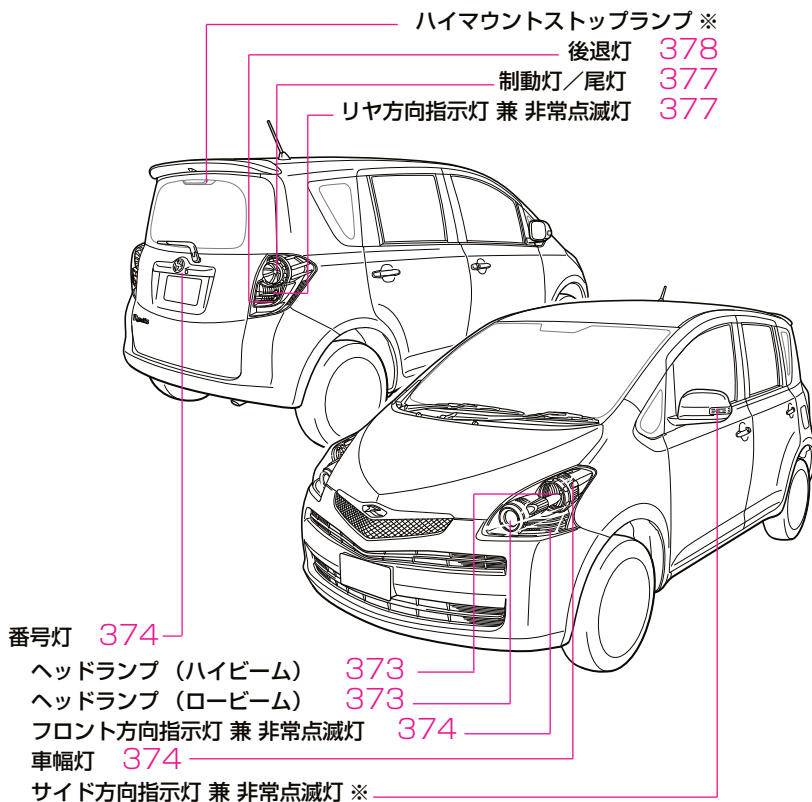
*車の仕様により設定のないヒューズもあります。

外装の電球（バルブ）交換

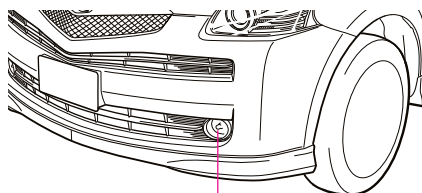
この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。



フロントフォグランプ装着車



フロントフォグランプ 375

目次



基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

安全・快適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引



警告

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な障害ややけどにつながる
おそれがあります。

- ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電するおそれがあります。（ディスチャージヘッドランプ装着車）
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。



注意

電球の取り扱いには注意してください。

- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落したり、物をぶつけたり、傷を付けたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手でふれずにきれいな手袋を着用してください。
- 必ず同じW数の電球を使用してください。（P.395参照）
- 電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。



知識

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

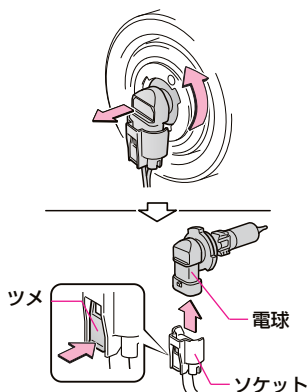
電球の交換について

電球の交換作業について不慣れな方や、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ(ハイビーム)

■取りはずし方

ボンネットを開け、電球を矢印の方向にまわして取りはずし、ツメを押して電球からソケットを取りはずします。



■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

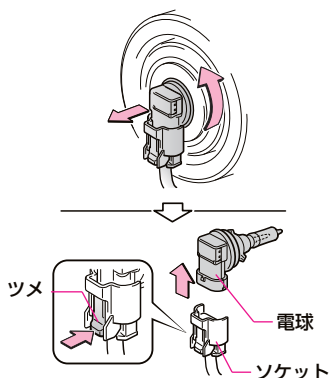
※ 図は助手席側で説明しています。

ヘッドランプ(ロービーム)

ディスチャージヘッドランプ装着車を除く

■取りはずし方

ボンネットを開け、電球を矢印の方向にまわして取りはずし、ツメを押して電球からソケットを取りはずします。

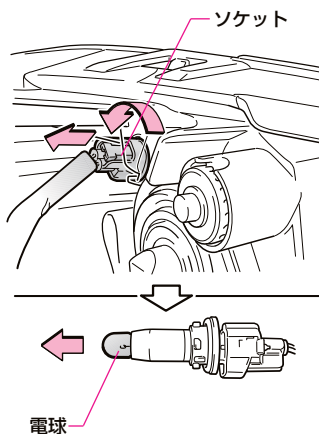


■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

● 車幅灯



■取りはずし方

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

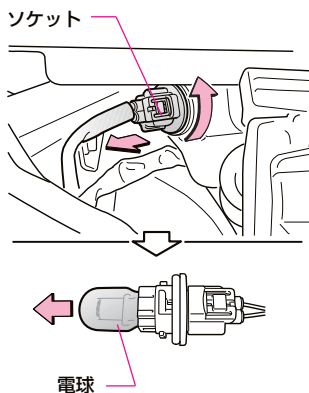
●エンジンルーム内のヒューズボックスのカバーをはずすことにより作業がしやすくなります。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

● フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯



■取りはずし方

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ソケットから電球を取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

※ 図は助手席側で説明しています。

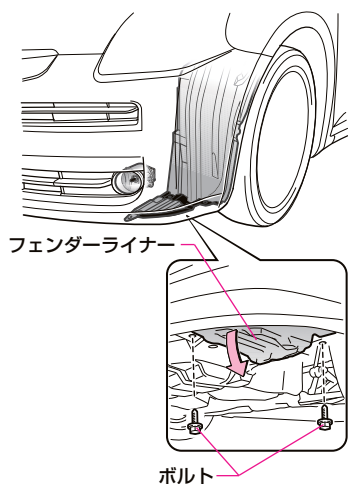
● フロントフォグランプ

■取りはずし方

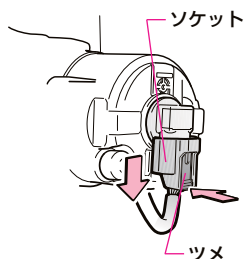
1 ボルトをはずしフェンダーライナーをずらします。

ボルト（2本）をはずし、フェンダーライナーとバンパーの間から手が入れるように、フェンダーライナーをうしろ側へずらします。

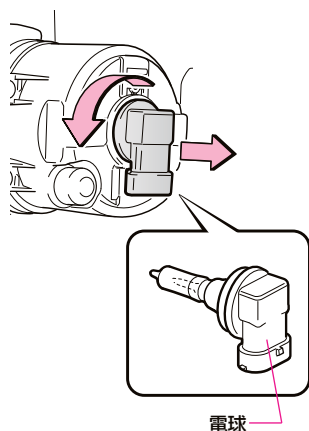
●バンパー側固定部はクリップにより固定されており、ボルトをはずすとクリップが取れることがあります。



2 ツメを押して電球からソケットを取りはずします。



3 電球を矢印の方向にまわして取り出します。



※ 図は助手席側で説明しています。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

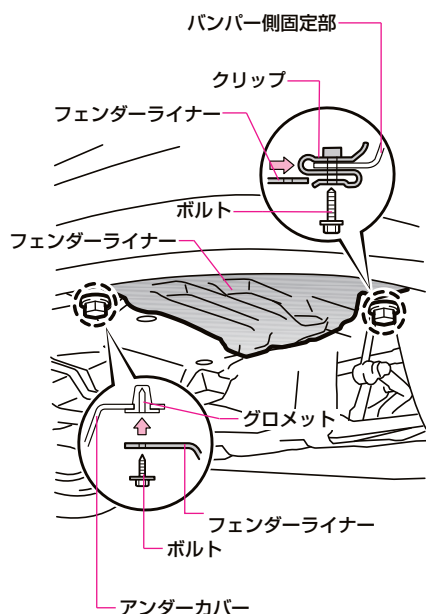
- フェンダーライナーの取り付け方については次の手順で取り付けます。

①バンパー側固定部へクリップを左図のように取り付けます。

- バンパー側固定部はクリップにフェンダーライナーを差し込んでおきます。

②フェンダーライナーをクリップに差し込みながら、前側へずらしめます。

③ボルト（2本）を取り付けます。



注意

フロントフォグランプの電球を交換するときは、けがなどをしないよう十分に注意してください。

めくったフェンダーライナーとバンパーとの隙間に手を入れて作業するときは、フェンダーライナーやボディの角などで手を切らないよう軍手などを着用し、けがをしないよう注意してください。

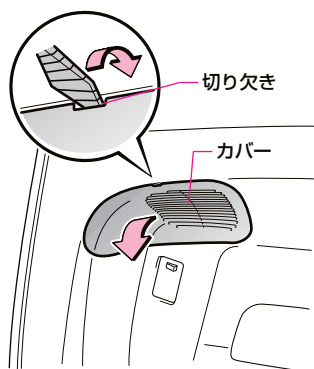
● リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯／尾灯

■取りはずし方

1 バックドアを開け、カバーを取りはずします。

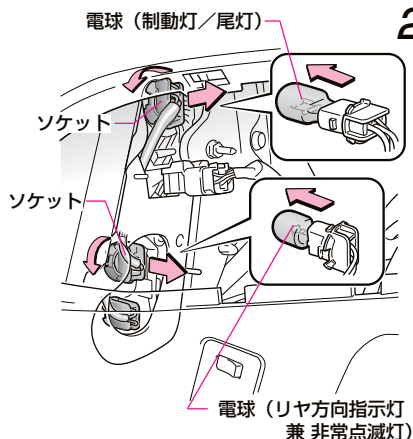
カバーの切り欠き（1ヶ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷付き防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。



2 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。



■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。



ソケット付近にあるボルトなどの突起部で手にけがをしないよう注意してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

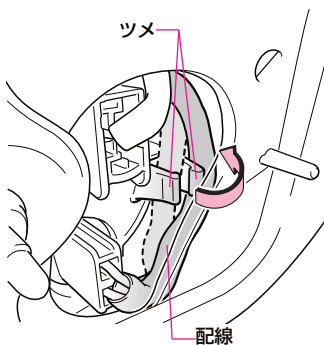
索引

● 後退灯

■取りはずし方

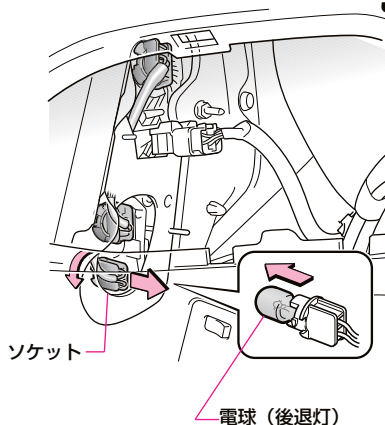
1 バックドアを開け、カバーを取りはずします。(前ページ手順1参照)

2 ツメから配線をはずします。



3 電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。



■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。



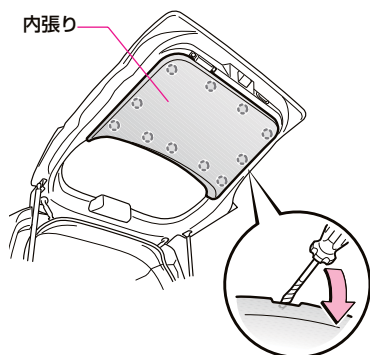
注意

ソケット付近にあるボルトなどの突起部で手にけがをしないよう注意してください。

※ 図は助手席側で説明しています。

番号灯

■取りはずし方



※上図の ● はクリップの位置を示しています。

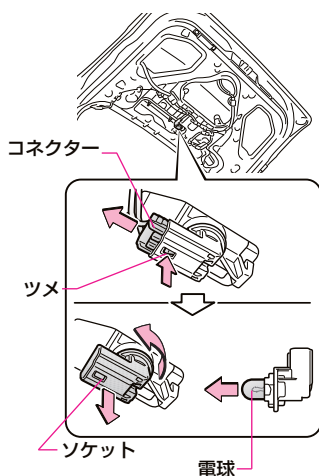
1 バックドアを開け、内張りを取りはずします。

内張りの切り欠き（1カ所）にマイナスドライバーを差し込んで取りはずします。

●傷付き防止のため、マイナスドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

2 電球を取りはずします。

ツメを押してコネクターをはずしてから、ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。



■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。



注意

バックドアの内張りを取りはずすときは、内張りを固定しているクリップ（11箇所）の破損や紛失に注意してください。

目次



警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

日常点検

日常点検について

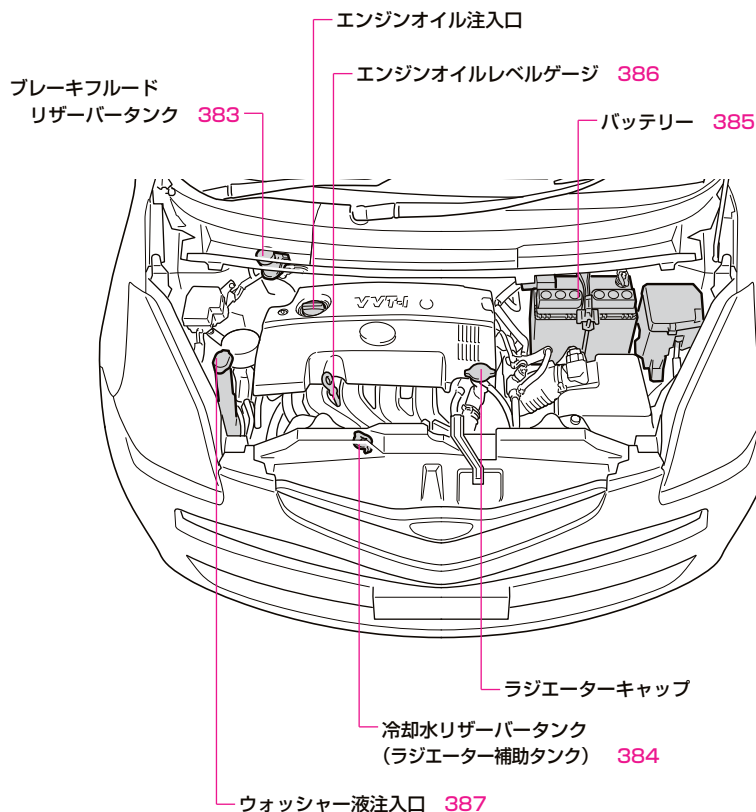
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

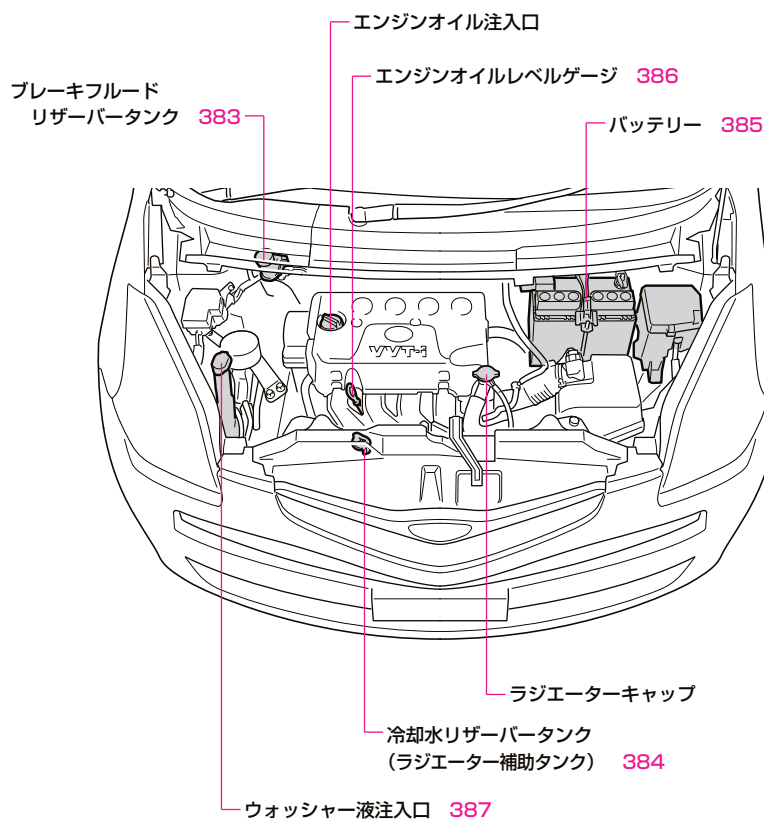
点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

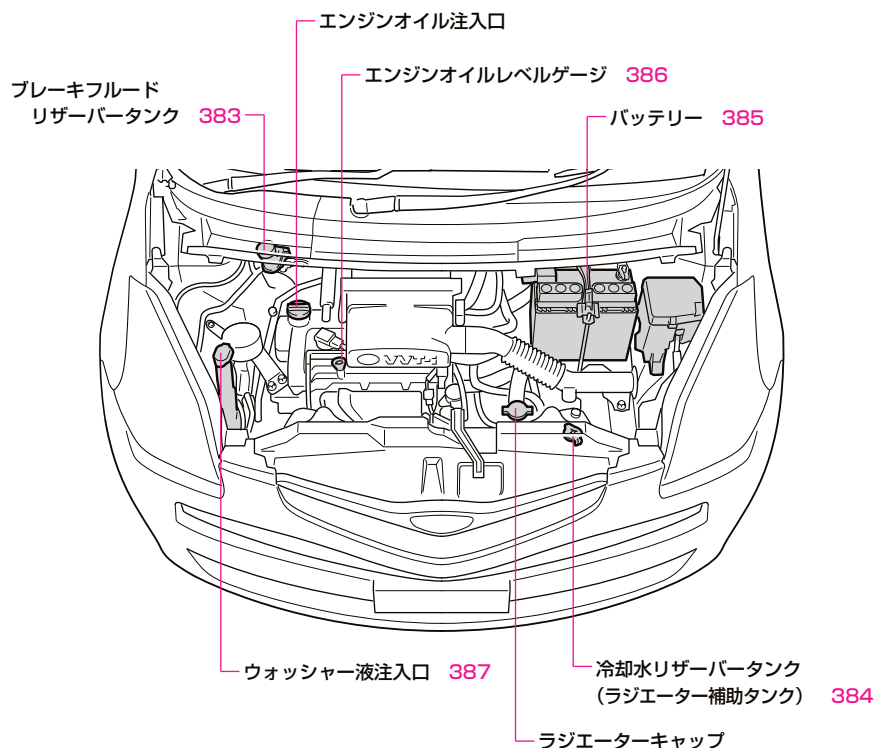
1NZ-FEエンジン搭載車（FF車）



1NZ-FEエンジン搭載車（4WD車）



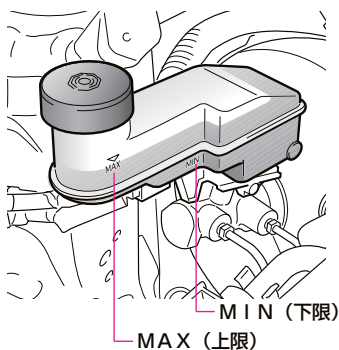
2S Z-F Eエンジン搭載車



警告

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

● ブレーキの液量



ブレーキフルードの量がリザーバートankのMAX (上限)とMIN (下限)の間にあるかを点検します。



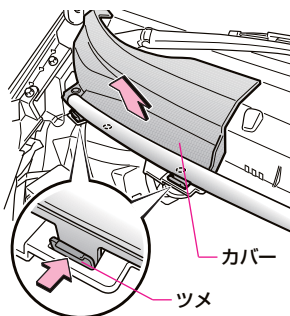
警告

ブレーキフルードが不足しているとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



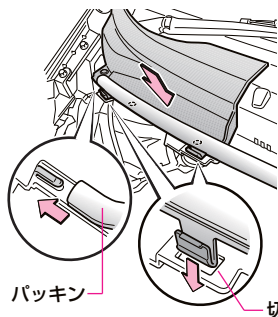
知識

ブレーキフルードを交換するときは



カバーをはずして行います。

●取りはずすときは、ツメを押しながらカバーを持ち上げます。



●取り付けるときは、カバーのツメを切り欠きにあわせて取り付け、パッキンをはめ込みます。

目次



基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

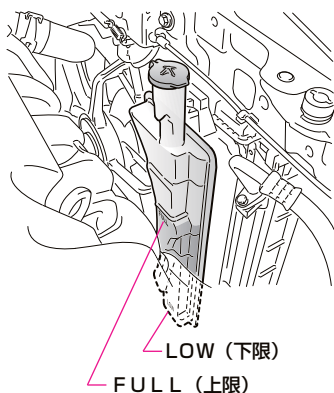
メ
ン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

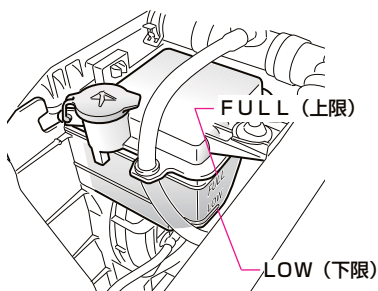
索
引

● 冷却水の量

1NZ-FEエンジン搭載車



2SZ-FEエンジン搭載車

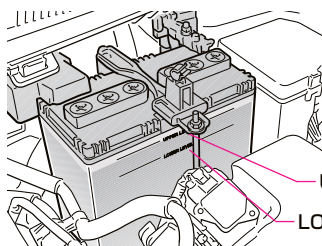


冷却水の量がリザーバタンクのFULL（上限）とLOW（下限）の間にあるかを点検します。



冷却水の量が不足していると、ラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。
また、水のみで使用していると寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水を適切な濃度でご使用ください。

● バッテリーの液量



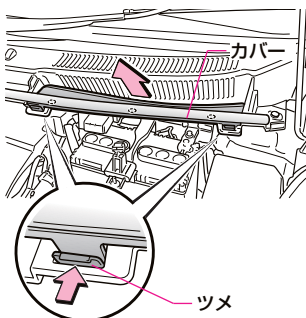
バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。



バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

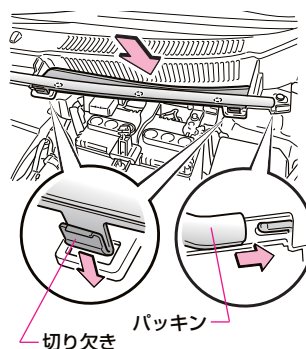
知識

バッテリーを取りはずすとき、ブースターケーブルを接続するときは



カバーをはずして行います。

●取りはずすときは、ツメを押しながらカバーを持ち上げます。



●取り付けるときは、カバーのツメを切り欠きにあわせて取り付け、パッキンをはめ込みます。

目次



基本
操作
早
わ
か
り

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

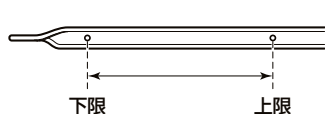
車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メ
ン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

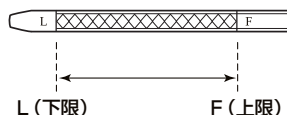
索
引

● エンジンオイルの量



エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

●レベルゲージの形状はエンジンにより異なります。



⚠ 警告

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な障害ややけどにつながるおそれがあります。

- エンジンを停止してください。

エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。

- エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

エンジンオイルは定期的に点検・交換してください。

- 定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼き付きなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。

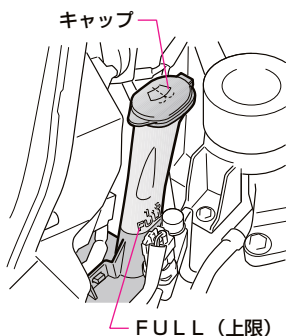
・エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。

- オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。

- エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように布などを当てて点検してください。

万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

● ウインドウウォッシャーの液量



ウォッシャータンク側面から、液面を確認します。ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

■ ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。



警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。



注意

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。



知識

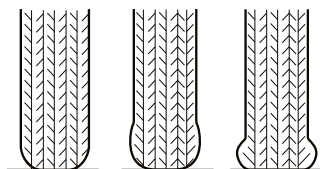
リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.57の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤの空気圧



過大

適正

不足

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）をみて、空気圧が適正であるかを点検します。

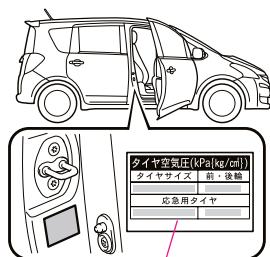
- 月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。



指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

🎓 知識

指定空気圧について



「タイヤ空気圧」の表

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.399参照）でご確認ください。

- スペアタイヤも点検してください。
- 指定空気圧でのたわみ状態を確認しておく、タイヤを目視点検するときに参考になります。
- 指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

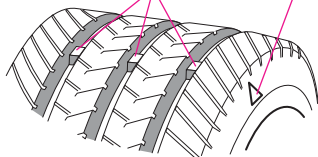


タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

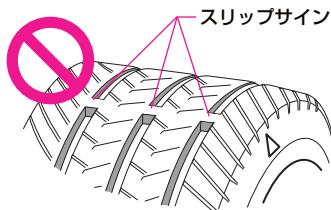
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルがとられたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

● タイヤの溝の深さ、異常摩耗

スリップサインの位置を示すマーク
スリップサイン



〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1



〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。

また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。



摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ていないタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

● 灯火装置、方向指示器のよごれ、損傷

各ランプのレンズに、よごれや破損、ヒビ割れなどがないかを点検します。



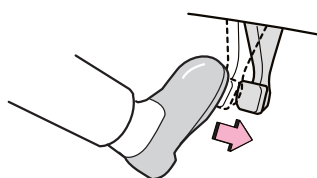
知 識

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同じ現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水 droplet が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転席に座っての点検

● パーキングブレーキの踏みしろ

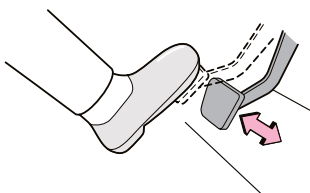


パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、“カチカチ”音が基準値の範囲（P.394参照）で止まるかを点検します。

● エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合は良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

● ブレーキペダルの踏みしろ



エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱい踏み込み、床板とのすき間（P.394参照）を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

目次



警告

基本
操作

運転
装置
の
取
扱
い

室内
装
備
の
取
扱
い

安全・快適
装
備
の
説
明
と
注
意

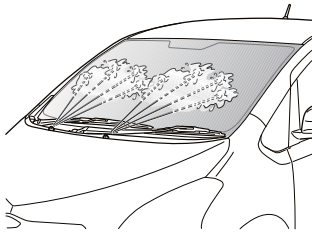
車
上
手
な
方
法
の
説
明

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

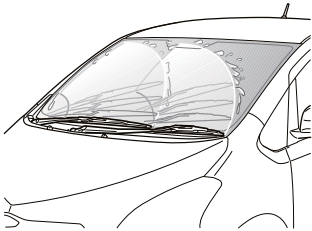
索
引

● ウインドウウォッシャーの噴射状態



エンジンを始動し、ウインドウウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央に当たるかを点検します。

● ワイパーの払拭状態



エンジンを始動し、ウインドウウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いかを点検します。



洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもとめてください。

● 灯火装置、方向指示器の作動

エンジンを始動し、各灯火装置、方向指示器を作動させ、ランプが点灯または点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

● ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。



走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキのパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効が悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、停止したりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

● 前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

目次



早基本
わ操
り作

取運
り転
扱扱
い置
の

取室
り内
扱装
い備
の

の安全・
解説快
と適
注装
意備

付車
きとの
合上手
い方
な

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

● 点検基準値

項 目		メンテナンスデータ	
ブレーキペダル	遊び [mm] (負圧なしの状態)	1～6	
	踏み込んだときの床板との すき間 [mm] 〔踏力 300N {30kgf}〕 (エンジンONの状態)	リヤドラムブレーキ車	72
		リヤディスクブレーキ車	77
パーキング ブレーキ	踏みしろ [ノッチ ※] 〔操作力300N {30kgf}〕	FF車	リヤドラムブレーキ車 7～10
			リヤディスクブレーキ車 8～11
		4WD車	7～10
Vリブドベルト	たわみ量 [mm] 〔押力 100N {10kgf}〕 (冷間時)	2SZ-FE	6.5～7.5
		1NZ-FE	11～13

※ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

● バルブ（電球）のワット数

項 目		メンテナンスデータ
バルブ (電球)	ワット数	ヘッドランプ
		ハロゲンヘッドランプ装着車
		・ ハイビーム 60W (バルブタイプ：HB3)
		・ ロービーム 55W (バルブタイプ：H11)
		ディスチャージヘッドランプ装着車
		・ ハイビーム (ハロゲン) 60W (バルブタイプ：HB3)
		・ ロービーム (ディスチャージ) 35W (バルブタイプ：D4S)
		車幅灯 5W
		フロントフォグランプ ★ 55W (バルブタイプ：H11)
		フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 21W (アンバーバルブ)※1
		サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 LED※2
		番号灯 5W
		制動灯／尾灯 21／5W
		リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 21W (アンバーバルブ)※1
		後退灯 16W
		フロントパーソナルランプ 8W
		ルームランプ 8W
		ラゲージルームランプ 5W
		ハイマウントストップランプ LED※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

※2 LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

● 油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項 目			容量[L] (参考値)	銘 柄
冷却水	2S Z - F E	C V T	5.4	トヨタ純正スーパーロング ライフクーラント 凍結保証温度 [濃度30% -12℃ 濃度50% -35℃]
	1N Z - F E	C V T	5.1	
		A T	4.7	
オートマチック トランスアクスル フルード (F F車)	2S Z - F E		6.3	トヨタ純正 C V TフルードT C
	1N Z - F E		6.7	
オートマチックトランスアクスルフルード (4WD車)			6.5	トヨタ純正 オートフルードWS
トランスファーオイル (4WD車)			0.45	トヨタ純正 ハイポイドギヤオイルS X (API.GL-5,SAE85W-90)
リヤディファレンシャルオイル (4WD車)			0.5	
ブレーキフルード			――	トヨタ純正 ブレーキフルード2500H

● 油脂類の容量と銘柄

項 目		容量 [L] (参考値)		銘 柄
		オイルのみ交 換時充てん量	オイルとオイル フィルター交換 時充てん量	
エンジン オイル	2S Z - F E	2.9	3.2	トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20※ (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30)
	1N Z - F E	3.4	3.7	トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)

※ 0W-20は最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル

API規格SM／EC、SL／ECか、ILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION (イルサック サーティフィケーション) マークがついています。

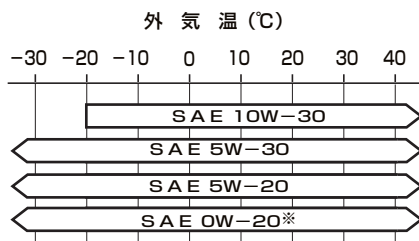


APIマーク



ILSAC CERTIFICATION
マーク

・下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20は最も省燃費性に優れたオイルです。



注意

F F車のオートマチックトランスアクスルフルードは、必ずトヨタ純正CVTフルードTCを使用してください。他のフルードを使用したり、混合して使用すると、故障の原因となります。

● ウォッシャータンク容量

項 目		メンテナンスデータ	
ウォッシャータンク	容量 [L] (参考値)	寒冷地仕様車を除く	1.8
		寒冷地仕様車	2.3

● 燃料の量と種類

項 目		メンテナンスデータ	
燃料 (フューエルタンク)	容量 [L] (参考値)	無鉛レギュラーガソリン	42

● タイヤ・ホイール仕様

タイヤサイズ		項目			
		ホイールサイズ		P.C.D.	オフ セット量
		リムサイズ	スチールホイール		
標準 タイヤ	175／60R16 82H	16×5.5 J	16×5.5 J	100mm ×4 (穴)	39mm
応急用 スペア タイヤ	T 125／70D16 96M	16×4 T			

タイヤの種類	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm ² }]
標準タイヤ	220 {2.2}
1.5L FF 車	230 {2.3}
応急用スペアタイヤ	420 {4.2}

● 車両仕様

名 称	型 式	エンジン	駆動方式	グレード
ラクティス	SCP100	2SZ-FE (1.3L ガソリン)	FF (前輪駆動)	X
	NCP100	1NZ-FE (1.5L ガソリン)		G
	NCP105		4WD (4輪駆動)	X
				G

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレス ドアロック機能 (P.138参照)	ドアを施錠・解錠したときの非常 点滅灯の点滅、ブザー音	点滅する、ブザー音あり ／ 点滅しない、ブザー音なし
	解錠後のドアを開けなかったとき の再施錠するまでの時間	約30秒 ／約60秒
イルミネーテッド エントリーシステム (P.99参照)	ドアを開けてから閉めたときの 消灯までのタイマー時間	約15秒 ／約7.5秒／約30秒
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをOFFにしたときの 点灯、消灯作動	約15秒間点灯 ／点灯しない
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがOFFのとき、運転席 ドアまたは助手席ドアを解錠した ときの点灯、消灯作動	約15秒間点灯 ／点灯しない
ランプ自動点灯・消 灯システム (P.244参照)	コンライトセンサーの感度調整	レベル3 レベル1～5
	ランプを点灯するまでの時間	標準 長め

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレス ドアロック機能★ （P.138参照）	ドアを施錠・解錠したときの非常 点滅灯の点滅	点滅する／点滅しない
	解錠後のドアを開けなかったとき の再施錠するまでの時間	約30秒／約60秒
イルミネーテッド エントリーシステム （P.132参照）	ドアを開けてから閉めたときの消 灯までのタイマー時間	約15秒／約7.5秒／約30秒
	“エンジン スタート ストップ” スイッチをOFFにしたときの 点灯、消灯作動	約15秒間点灯／点灯しない
	エンジン スイッチが“LOCK” のとき、運転席ドアを解錠したとき の点灯、消灯作動	約15秒間点灯／点灯しない
ランプ自動点灯・消 灯システム （P.244参照）	コンライトセンサーの感度調整	レベル3 レベル1～5
	ランプ246を点灯するまでの時 間	標準 長め

初期設定項目

初期設定項目

以下の項目は、バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行った後などに、システムを正しく動かせるため初期設定が必要です。参照ページをお読みになり、初期設定を行ってください。

項目	初期設定が必要なとき	参照ページ
バックドア	バッテリーがあがったとき、ヒューズが切れたとき	P.104、137
パノラマルーフ★	パノラマルーフのシェードの開閉中でバッテリーが上がったとき、ヒューズが切れたとき	P.146

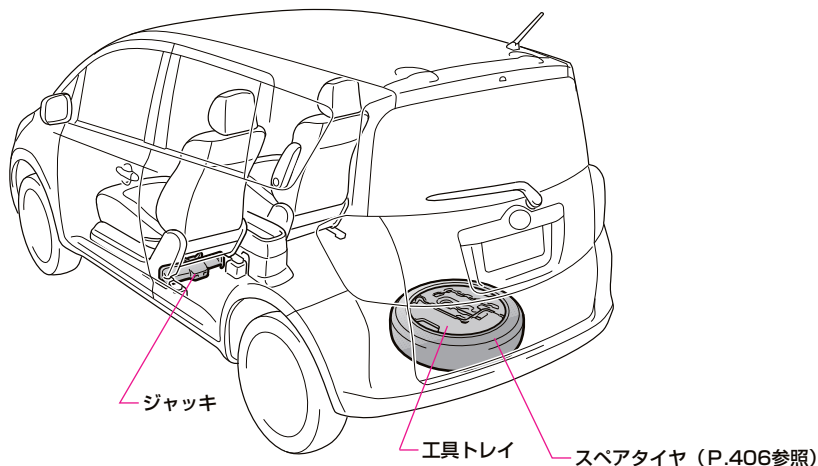
8

万一のとき

工具、スペアタイヤ、発炎筒……………	404
工具、スペアタイヤ、ジャッキ	
の格納場所	404
ジャッキ、スペアタイヤの	
取り出し方	405
発炎筒の使い方	410
故障したときは……………	411
路上で故障したときは	411
動けなくなったときは	411
パンクしたときは……………	412
タイヤの交換	412
バッテリーがあがったときは……………	420
バッテリーあがりとは	420
オーバーヒートしたときは……………	424
オーバーヒートとは	424
けん引について……………	426
けん引のしかた	426
事故が起きたときは……………	430
あわてずに次の処置を行って	
ください	430
車両を緊急停止するには……………	431
緊急停止のしかた	431

工具、スペアタイヤ、発炎筒

工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所



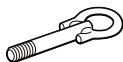
- 工具、スペアタイヤは、ラゲージルームに格納されています。
- ジャッキは助手席の下に格納されています。
- 工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認してください。
- デッキボードの取りはずし方についてはP.310を参照してください。

■工具トレイ

工具トレイにはホイールナットレンチ、けん引フック、ジャッキハンドルが入っています。



ホイールナットレンチ



けん引フック



ジャッキハンドル



警告

工具やジャッキを使用したあとは、指定の場所に確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、指定の場所に確実に格納してください。指定以外の場所に放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に搭載されているジャッキはお客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

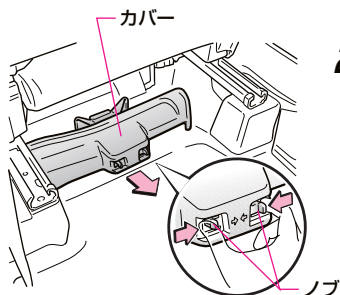


注意

車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外使用しないでください。

ジャッキ、スペアタイヤの取り出し方

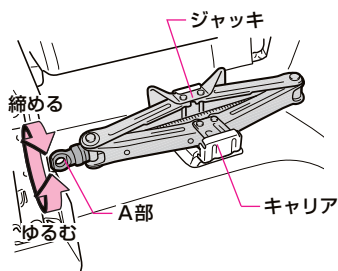
● ジャッキの取り出し方



1 助手席の前後位置をいちばん前にします。
(P.154参照)

2 カバーを取りはずします。

ノブを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずします。



3 ジャッキを取り出します。

ジャッキのA部をゆるめ、ジャッキを取り出します。

■ 格納のしかた

格納するときは、ジャッキがキャリアに固定されるようにA部を締め、確実に固定します。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

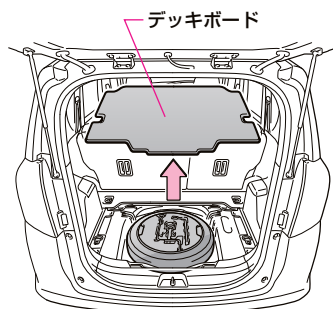
メンテナンス

万一のとき

索引

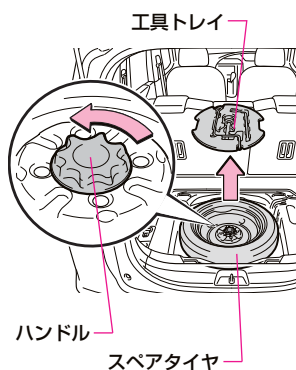
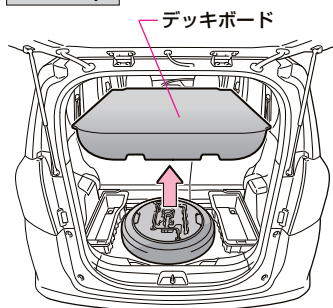
● スペアタイヤの取り出し方

FF車



1 デッキボードを取りはずします。

4WD車



2 工具トレイを取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

ハンドルを左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

■格納のしかた

取り出したときと逆の手順で行います。

●スペアタイヤが確実に固定されていることを確認します。



必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.399で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。

目次



基本
操作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

室
内
装
備
の
取
り
扱
い

安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

● 応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



警告

応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。

- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm²}
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤや、ディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



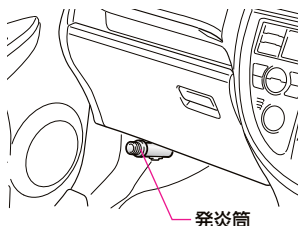
注意

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

- 応急用タイヤを装着しているときは、100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。
- 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪タイヤがパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に装着し、はずした後輪タイヤを前輪に装着してからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - ・ ABS
 - ・ ブレーキアシスト (VSC & TRC装着車)
 - ・ VSC & TRC (VSC & TRC装着車)
 - ・ クルーズコントロール (クルーズコントロール装着車)
 また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。
 - ・ Vフレックスフルタイム4WD

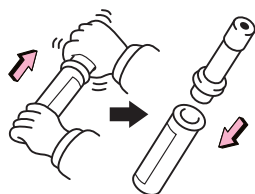
発炎筒の使い方

格納場所



助手席足元に備え付けてあります。

発炎筒の使い方



1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。



警告

発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は顔や身体に向けたり、近付けたりしないでください。やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害をうけるおそれがあり危険です。



注意

発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするのでトンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。



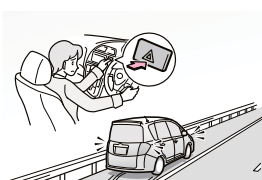
知識

発炎筒について

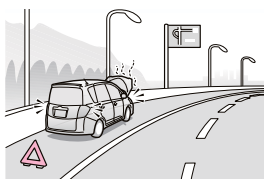
- 発炎時間は約5分間ですので非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。
本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは



非常点滅灯（P.256の「非常点滅灯の使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



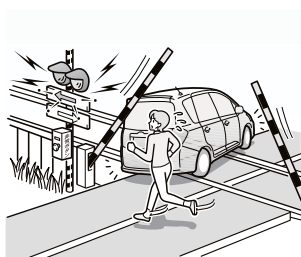
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています。）



緊急を要するときは発炎筒で合図します。（前ページの「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは



シフトレバーを**N**に入れて付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは発炎筒を使用してください。

道路で動けなくなったときは



シフトレバーを**N**に入れて付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

目次

警告

基本操作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.57の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤ交換する前に

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 エンジンを停止します。

シフトレバーをPに入れ、エンジンを停止します。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯（P.256参照）を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキを取り出します。

ジャッキの取り出し方についてはP.405を参照してください。

6 工具を用意します。

ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。
（P.404の「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」参照）

7 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。
輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

8 スペアタイヤを用意します。

（P.406の「スペアタイヤ」参照）

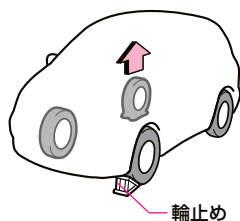
● タイヤ交換のしかた



ジャッキセット位置

1 ジャッキを置きます。

取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。



2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

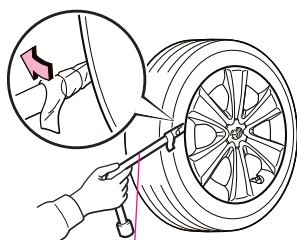
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は運転席側後輪を持ち上げる場合を示しています。)

3 ホイールキャップをはずします。

スチールホイール装着車は、ホイールキャップをはずします。

ホイールナットレンチの先を、ディスクホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2～3カ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)

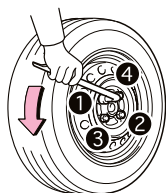
傷付き防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。



ホイールナットレンチ

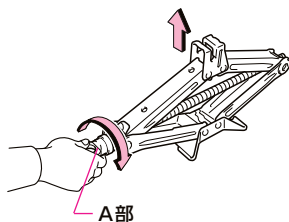
4 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

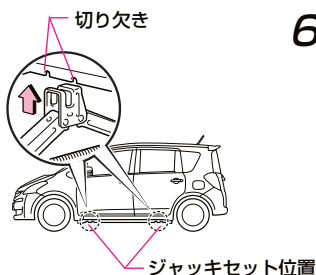


5 ジャッキを上げます。

ジャッキのA部を手で右にまわして、車体のジャッキセット位置まで上げます。

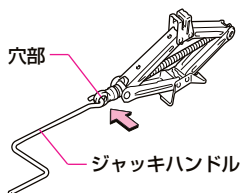


A部



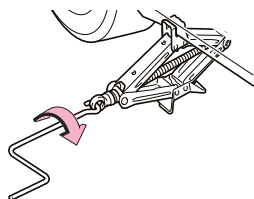
6 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。



7 ジャッキハンドルを取り付けます。

ジャッキハンドルを、ジャッキの穴部に確実に差し込みます。



8 ジャッキアップします。

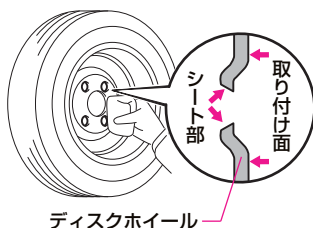
ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして取りはずします。

10 タイヤを取りはずします。

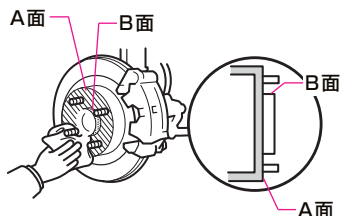
アルミホイールを直接地面に置くときは、傷が付かないように意匠面を上にして置いてください。



11 交換するタイヤを取り付けます。

●タイヤを取り付けるときは、ディスクホイールのシート部やディスクホイール裏側の取り付け面のよごれを拭き取ってから取り付けてください。

●図のA面・B面のよごれを拭き取ります。

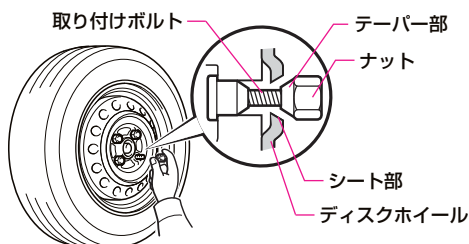


12 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパ部
(アルミホイールの場合、座金の裏側) のよごれ、異物を取り除いてください。

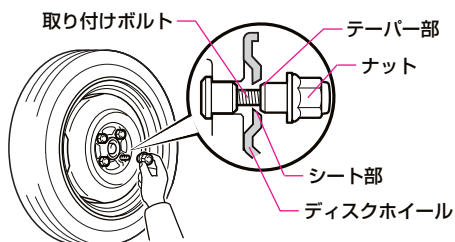
● スチールホイールからスチールホイールにかえるとき (応急用タイヤを含む)

ナットのテーパ部が、ディスクホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。



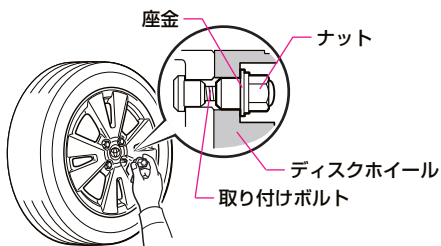
● アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

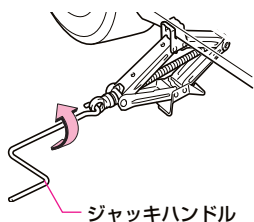
ナットのテーパ部が、ディスクホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。



● アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金が、ディスクホイールに当たるまで仮締めします。

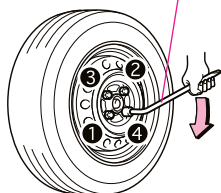




13 車体を降ろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

ホイールナットレンチ



14 ナットを締め付けます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締め付けます。

締め付けトルク：

約103N・m {1050kgf・cm}

15 センターオーナメントを取り付けます。

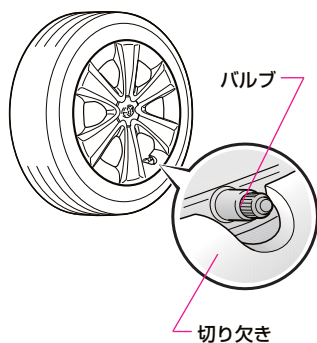
アルミホイール装着車は、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

●応急用タイヤにセンターオーナメントを取り付けることはできません。

16 ホイールキャップを取り付けます。

スチールホイール装着車で、フルキャップを取り付けるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

●応急用タイヤにホイールキャップを取り付けることはできません。



17 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

18 タイヤの空気圧を点検してください。

(P.399の「メンテナンスデータ」参照)

**警告****パンクしたまま走行しないでください。**

- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、タイヤやディスクホイール、サスペンション、車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。

 - ・ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
 - ・人を乗せたままジャッキアップしないでください。
 - ・ジャッキアップするときはジャッキの上や下にものを挟まないでください。
 - ・ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.412参照）にかかっていることを確認してください。
 - ・車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップした車体を降ろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
- ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないとディスクホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ交換後はトヨタ販売店でできるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。

締め付けトルク：約103N・m {1050kgf・cm}
- ディスクホイールを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤの取り付けには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取り付けナットを使用してください。
- ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

目次



警告

基本
操作運
転
取
扱
の
方
法室
内
取
扱
の
方
法安全・快
速な
解
説
と
注
意
備
忘車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
法メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引



警告

パンクしたまま走行しないでください。

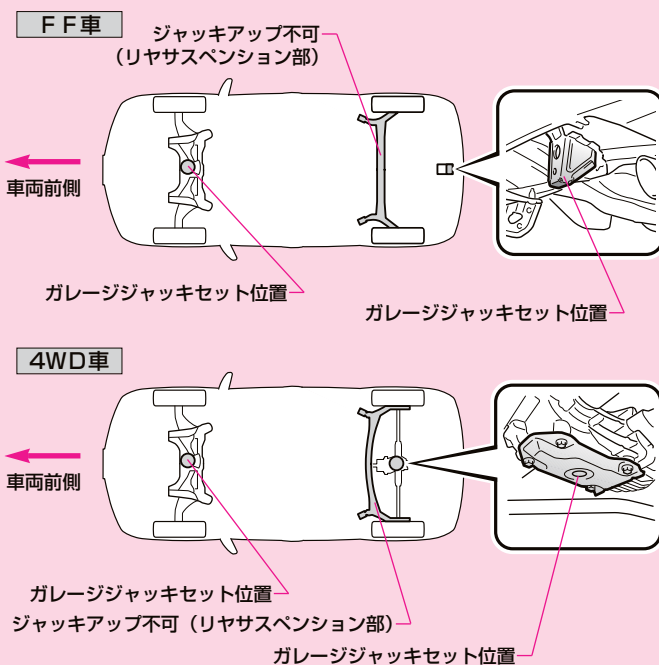
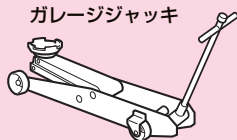
●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に

当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ



ガレージジャッキは、受皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズ of 受皿タイプを使用してください。



注意

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締め付けるときにホイールナットレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ホイールキャップは直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール、ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部や、ディスクホイール裏側の取り付け面がほこりなどでよれていると、走行中にディスクホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- アルミホイール装着車のディスクホイール取り付けナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けしないでください。タイヤを取り付けるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷、変形があるナット、ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。



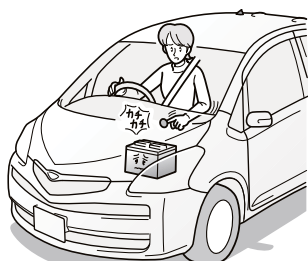
知識

はずした標準タイヤの格納について

スペアタイヤの格納場所に、はずした標準タイヤを格納することはできません。はずした標準タイヤは、ラゲージルームに置いてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは



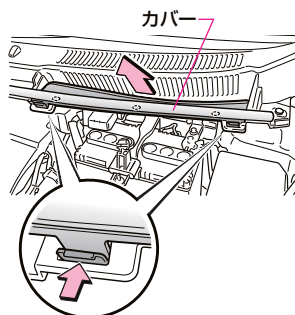
次のような状態がバッテリーあがりです。

- スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドランプがいつもより暗い。
- ホーン（警音器）の音が小さい、または鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。



1 カバーを取りはずします。(P.385参照)

2 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

- ①自車のバッテリーの⊕端子
- ②救援車のバッテリーの⊕端子
- ③救援車のバッテリーの⊖端子
- ④次ページの図で指示している箇所（アースをとる）

3 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

4 自車のエンジンをかけます。

5 ブースターケーブルをはずします。

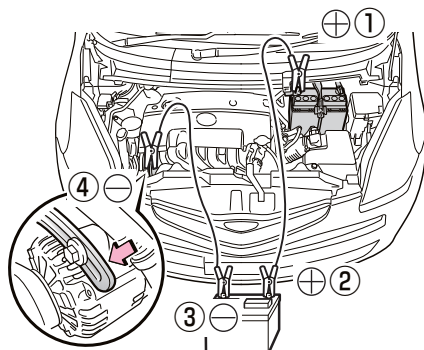
ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

6 カバーを取り付けます。(P.385参照)

アースポイント

1NZ-FEエンジン搭載車（FF車）

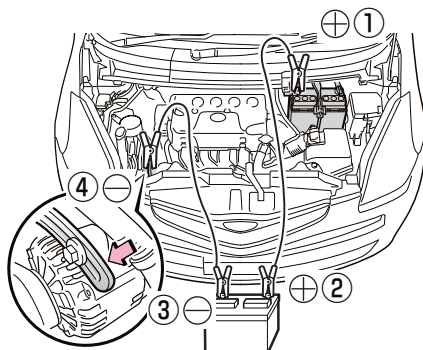
自車（バッテリーあがり車）



他車（救援車）

1NZ-FEエンジン搭載車（4WD車）

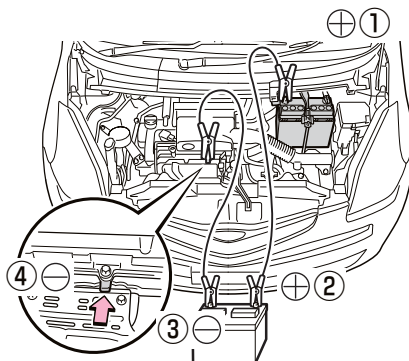
自車（バッテリーあがり車）



他車（救援車）

2SZ-FEエンジン搭載車

自車（バッテリーあがり車）



他車（救援車）

目次

警告

基本操作
早わかり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

● バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止したままランプをつけたりエアコンなどを使わないようにしてください。
- エンジン回転中에서도渋滞などで長時間止まっている場合は、 unnecessary 電装品の電源を切ってください。



警告

火気をバッテリーに近づけないでください。

- 必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ ④の接続（前ページ参照）は、自車バッテリーの⊖端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
 - ・ ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
 - ・ 火気をバッテリーに近づけないでください。
- 充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があります。目や皮膚に着くと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締め付けてください。確実に締め付けしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。



注意

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

- 他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーか確認してから行ってください。
- バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

車両バッテリー脱着時について

スマートエントリー & スタートシステム装着車

- 車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態（アクセサリモード、またはイグニッションONモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、接続が絶たれる前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをOFFにしてから行ってください。
車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。
- 車両のバッテリー脱着後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

目次



警告

基本
操作

運転
装置
の
扱い

室内
装備
の
扱い

安全・快適
装備
の
解説
と
注意

車
との
上手
な
付き合い方

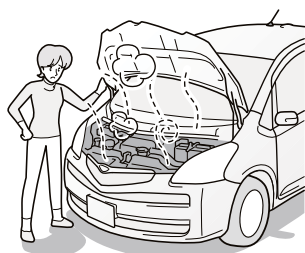
メン
テナ
ンス

万
一
の
と
き

索引

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは



次のような状態が、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯が点滅したり、エンジンの出力が低下する。
- ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合はOFFにします。

2 ボンネットの確認をします。

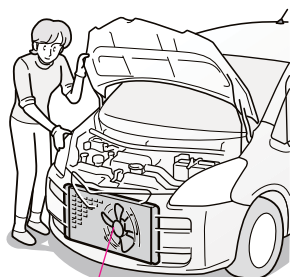
ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

〈ボンネットから蒸気が出ていない場合〉

ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈ボンネットから蒸気が出ている場合〉

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けエンジンをかけます。



冷却用ファン

ラジエーターキャップ

3 冷却用ファンを確認します。

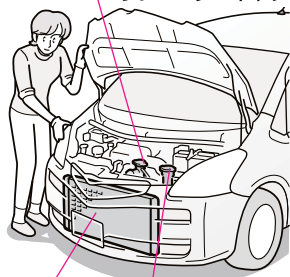
ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときは、エンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

高水温警告灯が消灯したら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認、およびラジエーターコア部（放熱部）が著しくよごれていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。



コア部

リザーバータンク

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び高水温警告灯が点滅したときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にすることで、ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

● オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。

点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。



警告

やけどなどしないように十分気を付けてください。

●ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときは、ラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがかかっているときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

冷却水はエンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

● 他車にけん引してもらうときは

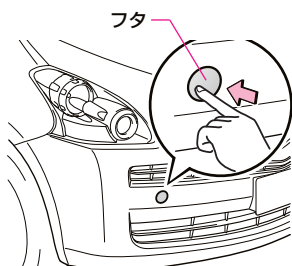
このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店またはJ A Fなどに依頼してください。

とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

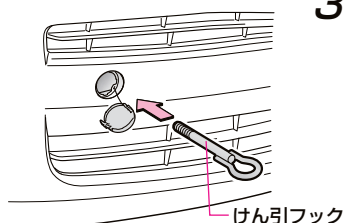
- エンジンがまわっているのに車が動かない。
- 異常な音がする。

1 けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。(P.404参照)

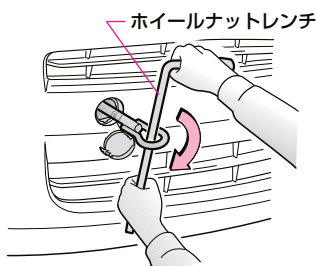


2 フロントバンパーの運転席側にあるフタを取りはずします。

フタの左側を押して、フタははずします。

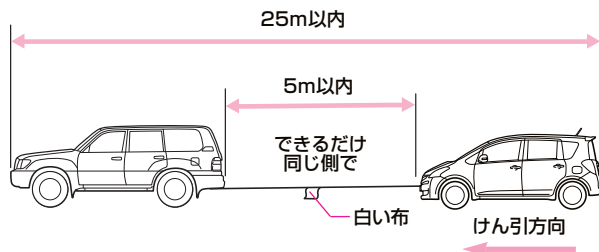


3 けん引フックを、ホイールナットレンチを用いて確実に取り付けます。



4 ロープをかけます。

ボディに傷を付けないようにしてロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ず付けてください。



5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモード、またはイグニッションONモードにします。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にします。

6 発進します。

シフトレバーをNに入れて、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

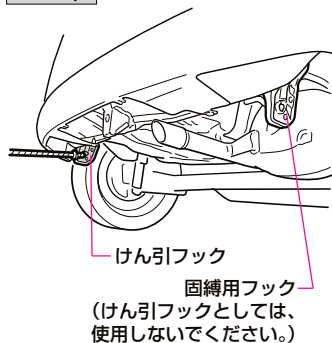
けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取り付けてください。

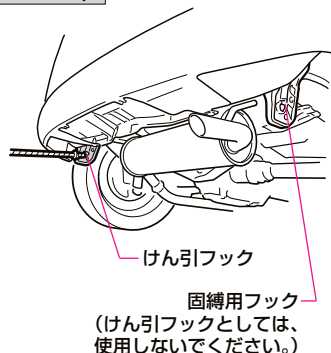
- けん引フック、ホイールナットレンチは、指定の場所に格納します。
(P.404参照)

● 他車（故障車）をロープでけん引するときは

FF車



4WD車



リヤ側のけん引フックはリヤバンパー下部の助手席側にあります。

- けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。
- 自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。



警告

けん引される車は慎重に運転してください。

- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

スマートエントリー & スタートシステム装着車

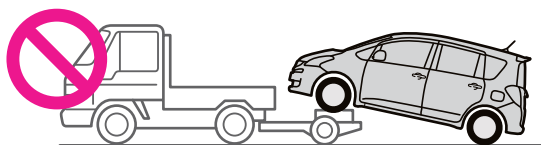
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしないでください。ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー & スタートシステム非装着車

- エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチを“LOCK”の位置にしないでください。キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンスイッチが“LOCK”の位置だとキーが抜けるおそれがあります。

**注意****長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。**

- 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- 4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。



- けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。
 - スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
 - ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。
 - スタック*したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やJ A Fなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
- ※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。
- リヤの運転席側のフックは固縛用フックです。固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。またフロントのけん引フックを、固縛用として使用しないでください。

目次

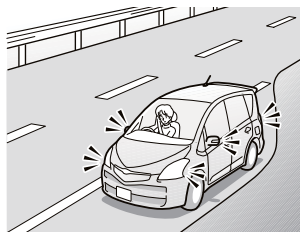
警告

基本
操作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
い安全・快適
装備の
解説と
注意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テナ
ンス万
一
の
と
き

索引

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください



1 続発事故を防止します。

他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。



2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを**N**に入れます。

■シフトレバーが**N**に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

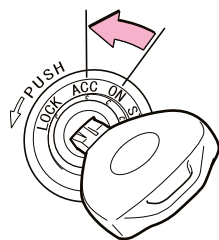
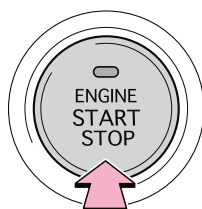
4 エンジンを停止します。

■シフトレバーが**N**に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 **スマートエントリー&
スタートシステム装着車**

“エンジン スタート ストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止します。



**スマートエントリー&
スタートシステム非装着車**

エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。

5 車を安全な道路脇に停めます。

目次



警告

基本
操作

運
転
装
置
の
取
扱
い

室
内
装
備
の
取
扱
い

安全・快適装
備の解説と注
意

車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
と
き

索引



**走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、以下の
ことをお守りください。**

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

さくいん

五十音さくいん..... 434

警告灯さくいん..... 443



さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、**色付き文字**の項目をご覧ください。

●マークは、スマートエントリー & スタートシステム装着車の参照ページです。

●マークは、スマートエントリー & スタートシステム非装着車の参照ページです。

あ

アースポイント	421
アームレスト	155、158
アクセサリソケット	313
アジャスタブルショルダーベルトアンカー	180
雨の日の運転	342
アンチロックブレーキシステム (ABS)	329
アンテナ	314

い

ELR機構付シートベルトの働き	327
ETC	
ETCアンテナ	283
ETCカード	284
ETCシステムについて	280
ETCの使い方	282
エラーコードについて	294
利用するまえに	281
ETCS-I (電子制御スロットル)	336
EBDの働き	331
ISOFIX対応チャイルドシート固定 専用バー & トップテザーアンカー	186
出し方	187
取り付け位置	186
取り付けるときは	188
イラスト目次	8~11
イルミネーテッドエントリーシステム	
	99
	132
インナーミラーの調整	193

う

ウインドウウォッシャー (日常点検)	387
ウォッシャー液の補給	387
ウォッシャー液の噴射のしかた	252
ウォッシャー液注入口の位置	380~382
ウォッシャータンク容量	398
冬の前の準備、点検	343
ウインドウデフォグガー (曇り取り) の使い方	255
ウインドウロックスイッチの使い方	143
ウォーニングランプ (警告灯)	228
動けなくなったときは	411
運転する前に (寒冷時の取り扱い)	343
運転席SRSエアバッグ	318
運転席シートベルト非着用警告灯	243
運転席に座っての点検 (日常点検)	391

え

ABS & ブレーキアシスト警告灯	233
ABS、ブレーキアシスト	48
EBDの働き	331
ABS、ブレーキアシストが 作動しているとき	330
ABS、ブレーキアシストとは	329
ABS、ブレーキアシストについての注意	48
ABS警告灯	234
エアコンガス (冷媒) の点検	357
エアコンの手入れ	357
エアコンの取り扱い	264
エアフィルターの交換	357
SRSエアバッグ	318
SRSエアバッグが作動するとき	320
SRSエアバッグ作動のしくみ	319
SRSエアバッグとは	318
SRSエアバッグについての注意	43
SRSエアバッグ/プリテンショナー 警告灯	242
SAE粘度 (エンジンオイル)	398
エラーコードについて (ETC)	296
L L C (冷却水)	
タンク容量、濃度	396
冬の前の準備、点検	343

エンジンオイル		オイル類（メンテナンスデータ）	396～398
オイル量	397	応急用タイヤについて	408
指定エンジンオイル	398	お子さまを乗せるときの注意	30
注入口	380～382	お出かけ前の注意	14
冬の前の準備、点検	343	オドメーター（積算距離計）	225
レベルゲージ位置	380～382	オドメーター／	
エンジン回転計（タコメーター）	224	トリップメーター切り替えボタン	226
エンジン警告灯	237		
エンジンスイッチ 	198	か	
エンジン スwitchの切り替え方	198	カードホルダー	307
エンジン スwitchの位置	198	カーテンシールドエアバッグ	318
“エンジン スタート ストップ” スwitch 	105	外装の手入れ	354
“エンジン スタート ストップ”		外装の電球（バルブ）交換	371
スwitchがOFFにならない	110	回転計（タコメーター）	224
“エンジン スタート ストップ” スwitch		格納位置	
の切り替え方	105	工具	404
“エンジン スタート ストップ” スwitch		ジャッキ	404
の状態	105	スベアタイヤ	404
エンジンの始動・停止のしかた		発炎筒	410
	108	ガソリン（燃料）	
	199	使用ガソリン、タンク容量	398
エンジンルームから煙（水蒸気）が出ている	424	カップホルダー	307
エンジンルーム内ヒューズボックス	365、370	花粉除去スitchの使い方	271
エンジンルームの点検（日常点検）	380	ガレージジャッキセット位置	418
エンストで始動できなくなったときは	411	環境にやさしく経済的な運転をするために	349
		環境保護のために	351
		間欠ワイパー	250
		寒冷時の取り扱い	343
		寒冷地用ワイパーブレード	343
お			
オートエアコンの使い方	264	き	
オートマチック車についての注意	49	キー	
オートマチック車の運転のしかた	215	キーナンバープレート	95、128
走行のしかた	217	キーについて	128
停車・駐車のしかた	219	キーのまわし方 	198
発進のしかた	215	電子キー 	92
オートマチックトランスアクスルフルード		メカニカルキー 	123
フルード量	396	ワイヤレスドアロックリモコンキー 	138
オートマチックトランスアクスルフルード & トランスファーオイル		キーエリア外警報 	116
フルード量、オイル量	396	キー置き忘れ警報 	117
オーバーヒートしたときは	424	キーOFF後作動機能	142
オーバーヒートについての注意	64	キーがまわせない 	198
オープナー		キーキーと金属音がタイヤから聞こえる 〈ブレーキパッドウェアインジケーター〉	25
フューエルリッドオープナー	147	キー閉じ込み防止機能 	132
ボンネットオープナー	150	キー抜き忘れ防止チャイム 	132
		キーバッテリー低下警報 	117
		キー持ち出し警報 	115
		キーリマインダ警報 	116
		キーレスエントリー （ワイヤレスドアロック）	138
		基準値（メンテナンスデータ）	394
		キックダウン	49
		緊急停止のしかた	431

く

空気圧 (タイヤ)	399
区間距離計 (トリップメーター)	225
曇り取りスイッチ (リヤウインドウ デフォッガー) の使い方	255
クラクション (ホーン) の使い方	257
クリアランスランプ (車幅灯)	
車幅灯表示灯	230
操作方法 (ランプスイッチ)	244
バルブ交換	374
ワット数	395
クリーブ現象	49
クルーズコントロール	258
クルーズコントロール表示灯	231
車の手入れ	354
エアコンの手入れ	357
外装の手入れ	354
外装の電球 (バルブ) 交換	371
キーの電池交換	361
タイヤの点検	360
内装の手入れ	356
日頃の手入れ	354
ヒューズの点検、交換	365
車のまわりの点検 (日常点検)	388
グレード名称	399
グローブボックス	308

け

警告器 (ホーン)	257
計器類 (メーター)	222
警告灯が点灯または点滅したときは	82、83
警告灯類 (メーター)	228
経済的な運転	349
警報音・警告灯 	115
化粧ミラー (バニティミラー)	298
けん引について	426
けん引フック	
フロント	426
リヤ	428
けん引フック (取り付け用) 格納場所	404

こ

工具、スペアタイヤ、ジャッキの格納場所	404
工具トレイ	404
光軸上下調整	247
高水温警告灯	240
後退灯	
バルブ交換	378
ワット数	395
コートフック	307
故障したときは	411
コンビニフック	302
コンライト	244

さ

サービスデータ (メンテナンスデータ)	394
サイドエアバッグ	318
作動表示灯が橙色に点滅しているときは 	120
作動表示灯が緑色に点滅しているときは 	120
3点式シートベルト	179
サンバイザー	298

し

シートについての注意	32
シートアレンジ	160
クッションを引き起こして 背もたれを前倒しする	168
シートを格納する	163
背もたれを前倒しする	171、173
フラットシートにする	174
シートの調整	152
フロントシート	154
リヤシート	156
シートベルト	
アジャスタブルショルダーベルトアンカー	180
ELR機構付シートベルトの動き	327
3点式シートベルト	179
正しい着用	176
チャイルドシート固定機構の使い方	183
着用のしかた	179
手入れ	356
2点式シートベルト	181
プリテンショナー & フォースリミッター 付シートベルトの動き	327
シートベルトについての注意	39
シートベルト非着用警告灯	243
CVT SPORT表示灯	231
CVT SPORTモード	207
事故が起きたときは	430

室内装備品の使い方	298
室内灯	
フロントパーソナルランプ	299
ラゲージルームランプ	301
ルームランプ	300
シフトポジション表示	230
シフトレバーが②から動かせない	
Super ECT	213
Super CVT-i	206、210
シフトレバーの使い方	
Super ECT	212
Super CVT-i	202、209
シフトロック解除ボタン	207、211、214
シフトロックシステム	
Super ECT	213
Super CVT-i	206、210
ジャッキ	
ジャッキアップポイント	
(セット位置)	412、418
ジャッキ、スペアタイヤの取り出しかた	405
ジャッキアップについての注意	62
ジャッキハンドル	404
車幅灯	
操作方法(ランプスイッチ)	244
バルブ交換	374
ワット数	395
車幅灯表示灯	230
車両型式	399
車両仕様	399
車両を緊急停止するには	431
充電警告灯	240
収納トレイ/ポケット	309
収納ボックス	308
初期設定	
バックドア 	104
バックドア 	137
パノラマルーフ	146
初期設定項目	402
助手席SRSエアバッグ	318
助手席シートベルト非着用警告灯	243

す

Super ECT	335
Super ECTとは	335
登降坂変速制御システムの働き	335
フレックスロックアップ	
システムの働き	335
Super CVT-i	334
Super CVT-iとは	334
無段変速システムの働き	334
ロックアップシステムの働き	334
登降坂変速制御システムの働き	334
スイッチの使い方	244
スタックしたときは	429

ストップランプ(制動灯)	
バルブ交換	377
ワット数	395
スノータイヤ(冬用タイヤ)	343
スピードメーター	224
スペアタイヤ	404
スポーツシーケンシャル	
シフトマチック表示灯	230
スポーツシーケンシャルシフトモード	204
スマートエントリー & スタートシステム 	90
警報音が鳴っているときは／	
警告灯が点灯しているときは 	115
作動表示灯が橙色に点滅している	
ときは 	120
作動表示灯が緑色に点滅している	
ときは 	120
スマートエントリー & スタート	
システムが作動しないときは 	121
スマートエントリー & スタート	
システムについて 	90
スマートエントリー & スタート	
システムの解除 	95
電源がOFFにならない 	110
電子キー 	92
スマートエントリー & スタート	
システム警告灯 	241
スマートエントリー & スタート	
システムについての注意 	52
スモールランプ(車幅灯)	
バルブ交換	374
ワット数	395
スリップサイン	389
スリップ表示灯	232

せ

制動灯(ストップランプ)	
バルブ交換	377
ワット数	395
積算距離計(オドメーター)	225
セキュリティシステム 	113
セキュリティ表示灯 	231
節電機能 	114
洗車	354
センターコンソール	304
前照灯(ヘッドランプ)	
バルブ交換	373
操作方法(ランプスイッチ)	244
ワット数	395

そ

走行するときの注意	19
走行しての点検（日常点検）	393
走行するときは（寒冷時の取り扱い）	345
走行中、異常に気付いたら	24
走行できなくなったときは （けん引について）	426
走行のしかた	217
速度計（スピードメーター）	224

た

タイヤ	
空気圧（日常点検）	388
指定空気圧	399
スペアタイヤ	406
スリップサイン	389
タイヤサイズ	399
タイヤの点検	360、388
タイヤローテーション（タイヤ位置交換）	360
冬用タイヤ	343
ホイールサイズ	399
タイヤチェーン（寒冷時の取り扱い）	343
タイヤについての注意	57
タイヤ・ホイール仕様	399
タイヤを交換するときは	412
タコメーター	224
正しい運転姿勢（シート）	152
正しい着用（シートベルト）	176

ち

チェーン（タイヤチェーン）	343
チケットホルダー	298
チャイルドシート固定機構の使い方	183
チャイルドシートについての注意	36
チャイルドシートの固定	
固定専用バーでの固定	186
シートベルトでの固定	183
チャイルドプロテクターの使い方	131
駐車するときは（寒冷時の取り扱い）	348
駐車灯（非常点滅灯）の使い方	256
バルブ交換	374、377
ワット数	395
駐車のしかた	219
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	
操作方法	221
点検基準値	394
駐停車するときの注意	26
チルトステアリングレバー	192

て

TRC	
TRCとは	333
TRCについての注意	48
停車のしかた	219
低水温表示灯	231
ディスチャージヘッドランプ	339
ディスチャージヘッドランプ	
オートレベリング警告灯	238
ディファレンシャルオイル	
オイル量	396
手入れ	
エアコンの手入れ	357
外装の手入れ	354
車の手入れ	354
内装の手入れ	356
日頃の手入れ	354
テールランプ（尾灯）	
操作方法（ランプスイッチ）	244
バルブ交換	377
ワット数	395
デッキアンダートレイ	310
取りはずし方	311
デッキボード	310
電球（バルブ）交換	371
電球（バルブ）のワット数	395
点検	
運転席に座っての点検	391
エンジンルームの点検	380
車のまわりの点検	388
走行しての点検	393
日常点検について	380
点検基準値（メンテナンスデータ）	394
点検整備実施のお願い	14
点検・手入れ時の注意	54
電源切り忘れ警報	116
電子キー	92
使用個数	95
電池交換	361
電子キーが正常に作動しないときは	123
電子制御スロットル（ETCS-i）	336
電池交換	
電子キー	361
ワイヤレスドアロックリモコンキー	363

と

ドアガラスの開閉	141
ドアの開閉	128
ドアの施錠・解錠のしかた 	96
ドアミラーの調整	194
ドアロックスイッチ	129
ドアを開けたら「ピー」と音が鳴り続けた	246
ドアを開けたら「ピー、ピー、ピー」と音が鳴り続けた	132
搭載工具	404
盗難防止システム	113
時計	303
トップテザーアンカー	
出し方	187
取り付け位置	186
取り付けるときは	188
登降坂変速制御システムの働き	334、335
トランスアクスルフルード	
フルード量	396
トランスファールオイル	
オイル量	396
トリップメーター（区間距離計）	225

な

内外気切り替えスイッチ（空調）	268
内外気切り替えダイヤル（空調）	274
内装の手入れ	356

に

日常点検	380
運転席に座っての点検	391
エンジンルームの点検	380
車のまわりの点検	388
走行しての点検	393
日常点検について	380
2点式シートベルト	181

ね

燃料	
使用ガソリン、タンク容量	398
燃料計	224
燃料計が点滅したときの燃料の残量は	224
燃料補給口（フューエルリッド）の開閉	147
燃料補給時の注意	18

は

パーキングブレーキペダル	
点検基準値	394
取り扱い	221
排気ガスに対する注意	28
ハイビーム（ヘッドランプ）	
バルブ交換	373
操作方法（ランプスイッチ）	244
ヘッドランプ上向き表示灯	230
ワット数	395
ハイマウントストップランプ	
ワット数	395
ハザードランプ（非常点滅灯）	
操作方法	256
バルブ交換	374、377
ワット数	395
挟み込み防止機構	142
発炎筒の使い方	410
バックアップランプ（後退灯）	
バルブ交換	378
ワット数	395
バックドアの開閉	134
バックドアの施錠・解錠のしかた 	100
発進のしかた	215
バッテリー（日常点検）	385
バッテリー（冬の前の準備、点検）	343
バッテリーあがり防止機能	
	99
	132
バッテリーがあがったときは	420
バッテリー交換（キー）	
電子キー 	361
ワイヤレスドアロックリモコンキー 	363
バッテリーについての注意	61
バッテリーを取りはずすときは	385
パッドウェアインジケータ	
（ブレーキパッドウェアインジケータ）	25
パドルシフトスイッチ	205
パノラマルーフ	145
パニティミラー（サンバイザー）	298
バルブ交換	371
バルブ（電球）のワット数	395
パワーウインドウの使い方	141
パワーステアリング警告灯	241
番号灯	
バルブ交換	379
操作方法（ランプスイッチ）	244
ワット数	395
半ドア警告灯	241
半ドア警報 	117
ハンドルが重くなった	25
ハンドルの調整	192
パンクしたときは	412

ひ

ピーと長い音が鳴り続ける 〈ランプ消し忘れ警告ブザー〉	246
ピー、ピー、ピーと短い音の繰り返し 〈キー抜き忘れ防止チャイム〉	132
ピーピーピーと長い音の繰り返し 〈リバース（後退）ブザー〉	202、209、212
日頃の手入れ	354
非常点滅灯	
操作方法	256
バルブ交換	374、377
ワット数	395
尾灯	
操作方法（ランプスイッチ）	244
バルブ交換	377
ワット数	395
ヒューズの点検、交換	365
表示灯類（メーター）	228
日よけ（サンバイザー）	298

ふ

VSC & TRC	332
TRCとは	333
VSCとは	332
VSC警告灯	236
VSCについての注意	48
Vフレックスフルタイム4WD	337
Vフレックスフルタイム4WD車に についての注意	51
Vリブドベルト	
点検基準値	394
フォースリミッター付シートベルトの働き	327
フォグランプの使い方	248
吹き出し口の調整	277
フック	
けん引フック	404
コートフック	307
コンビニフック	302
フューエルキャップの開閉	147
フューエルメーター（燃料計）	224
フューエルリッドオープナー	147
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉	147

冬の前の準備、点検	343
冬用タイヤ	343
プリテンショナー & フォースリミッター付 シートベルトの働き	327
ブレーキアシスト	329
ブレーキ警告灯	235
ブレーキパッドウェアインジケーター	25
ブレーキフルード（日常点検）	380
タンク位置	380～382
フルード量	396
ブレーキフルードを交換するときは	383
ブレーキペダル	
点検基準値	394
ブレーキランプ（制動灯）	
バルブ交換	377
ワット数	395
ブレーキを踏むと「キーキー」と音がする	25
フレックスロックアップシステムの働き	335
フロアマット	315
フロントシートの調整	154
フロントパーソナルランプ	
操作方法	299
ワット数	395
フロントフォグランプ	
バルブ交換	375
操作方法	248
ワット数	395
フロントフォグランプ表示灯	230
フロント方向指示灯	
操作方法	249
バルブ交換	374
ワット数	395
フロントワイパーデアイサーの使い方	254

へ

ヘッドランプ	
光軸上下調整スイッチ	247
バルブ交換	373
操作方法（ランプスイッチ）	244
ワット数	395
ヘッドランプ上向き表示灯	230
ヘッドレストの調整	
フロントシート	154
リヤシート	156

ほ

ホイールサイズ	399
ホイールナットレンチ	404
ホイール（タイヤ）の交換	412
方向指示表示灯	230
方向指示レバーの使い方	249
ホーンの使い方	257
ボトルホルダー	306
ボンネットオープナー	150
ボンネットから煙（水蒸気）が出ている	424
ボンネットの開閉	150

ま

マニュアルエアコンの使い方	272
万一の事故のときの注意	65

み

ミラーの調整	
インナーミラー	193
ドアミラー	194

め

メーター照度調整ボタン	226
メーター類	222
メカニカルキー 	123
メンテナンスデータ（点検基準値）	394

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	400
油圧警告灯	239
油脂類の量と種類	396～398

よ

4WD車についての注意	51
-------------	----

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
バルブ交換	379
操作方法（ランプスイッチ）	244
ワット数	395
ラゲージルームランプ	301
ワット数	395
ラジエーター	
オーバーヒートしたときは	424
タンク位置	380～382
ラジエーターキャップ位置	380～382
冷却水濃度、容量	396
ランプ消し忘れ警告ブザー	246
ランプの使い方	244

り

リクライニング調整のしかた	
フロントシート	154
リヤシート	156
リバース（後退）ブザー	202、209、212
リバース連動下向き機能（ドアミラー）	195
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）	
の使い方	255
リヤシートの調整	156
リヤシートベルトの収納について	183
リヤセンターマルチトレイ	158
リヤディファレンシャルオイル	
オイル量	396
リヤ方向指示灯	
操作方法	249
バルブ交換	377
ワット数	395

る

ルームミラー（インナーミラー）	193
ルームランプ（室内灯）	
操作方法	300
ワット数	395

れ

冷却水（日常点検）	384
オーバーヒートしたときは	424
濃度、容量	396
冬の前の準備、点検	343
リザーバータンク位置	380～382

ろ

ロービーム（ヘッドランプ）	
バルブ交換	373
操作方法（ランプスイッチ）	244
ワット数	395
路上で故障したときは	411
ロックスイッチ 	
バックドア	100
フロントドア	96
ロックアップシステムの働き	334
ロックレバー	130

わ

ワイパー & ウォッシャーの使い方	250
ワイヤレスドアロックリモコンキー	
使用個数	140
電池交換	363
ワイヤレスドアロックリモコンの使い方	138
ワックス	355
ワット数	395
輪止め	413

警告灯さくいん

	ABS & ブレーキアシスト 警告灯 P.233		充電警告灯 P.240
	ABS 警告灯 P.234		パワーステアリング 警告灯 P.241
	ブレーキ警告灯 P.235		半ドア警告灯 P.241
VSC	VSC 警告灯 P.236		スマートエントリー & スタート システム警告灯 P.241
	エンジン警告灯 P.237		SRSエアバッグ/プリテン ショナー警告灯 P.242
	ディスチャージヘッドランプオ ートレベリング警告灯 P.238		運転席シートベルト 非着用警告灯 P.243
	油圧警告灯 P.239		助手席シートベルト 非着用警告灯 P.243
	高水温警告灯 P.240		

目次

警告

基本操作
早わかり運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO



お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp/>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。
●印刷 18-2010年 4月 5日 ●発行-2010年 4月12日 初版

M 52748
01999-52748